



BERNINA 540

取扱説明書

目次

安全にご使用いただくために	9	2.4 糸立て棒	29
重要事項	11	収納式糸立て	29
1 マイベルニナ	13	平行糸立て棒	30
1.1 イントロダクション	13	2.5 フリーアーム	30
1.2 ベルニナの品質管理について	13	2.6 送り歯	31
1.3 ベルニナの世界へようこそ	13	送り歯の調整	31
1.4 ミシンについて	14	2.7 ソーイングテーブル	32
前面部 操作部分名称	14	ソーイングテーブルを取り付ける	32
前面部名称	15	2.8 押え金	32
側面部名称	16	押え上げレバーで押え金の位置を変える	32
後部名称	17	押え金 上/下ボタンで押え金の位置を変える	32
1.5 付属アクセサリー	18	押え金を交換する	32
アクセサリーについて	18	ユーザーインターフェースで押え金を選択する	33
電源コードの使用方法（アメリカ合衆国/カナダの み）	19	押え圧の設定	33
押え金について	19	2.9 送り歯の調整	34
アクセサリーボックス	20	2.10 針と針板	34
1.6 ユーザーインターフェースについて	21	針を交換する	34
機能/表示について	21	ユーザーインターフェースで針を選択する	35
システム設定について	21	針のタイプと番手を選択する	35
ソーイング選択メニューについて	21	針位置 上/下を設定する	35
アイコンについて	22	針基線 左/右を設定する	35
1.7 針、糸、布地	22	針停止 上/下（常時）を設定する	36
針について	22	針板を交換する	36
針の種類	24	針板をユーザーインターフェースで選択する	37
糸の選択	24	2.11 糸をかける	37
針と糸の組み合わせ	25	上糸をかける	37
2 ソーイングの準備	26	二本針に糸を通す	40
2.1 アクセサリーボックス	26	三本針に糸を通す	41
アクセサリーボックスの取り外しと取り付け	26	下糸を巻く	41
アクセサリーを保管する	26	下糸をかける	42
2.2 接続と電源	27	下糸をかける	44
フットコントローラーを接続する	27	3 セットアッププログラム	45
ミシンを電源に接続する	27	3.1 ソーイング機能の設定	45
押え上げレバーを取り付ける	27	上糸調子を設定する	45
タッチペンを取り付ける	28	ソーイングスピードの最高速度を設定する	45
ミシンの電源を入れる	28	留め縫いを設定する	45
2.3 フットコントローラー	28	糸切りボタンをプログラムする	46
ソーイングスピードをフットコントローラーでコン トロールする	28	留め縫いボタンをプログラムする	46
針を上げる/下げる	29	返し縫いボタンをプログラムする	47

6	実用縫い	75	9.2	高さ調節板を使用する	98
6.1	実用縫い一覧	75	9.3	ボタンホール用布送りサポートを使用する	98
6.2	直線縫い	77	9.4	ボタンホールの印をつける	99
6.3	自動留め縫いプログラムで留め縫いをする	77	9.5	ボタンホール芯	100
6.4	ファスナーを縫い付ける	78		ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用する	100
6.5	ファスナーの両側を下から上に縫い付ける	79		ボタンホール芯をボタンホール押えNo.3C（オプションアクセサリ）と一緒に使用する	101
6.6	トリプル直線縫い	80	9.6	試し縫いをする	102
6.7	トリプルジグザグ縫い	80	9.7	ボタンホールの穴幅を設定する	102
6.8	マニュアル式繕い縫い	81	9.8	布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決める	103
6.9	自動繕い縫い	83	9.9	ボタンホール押えNo. 3Cを使用して、ボタンホールの大きさを決める	103
6.10	自動補強繕い縫い	83	9.10	ボタンホールを自動で縫う	104
6.11	補強繕い縫いプログラム	84	9.11	手縫い風ボタンホールをプログラムする	104
6.12	布端の処理をする	84	9.12	ボタンホール押さえ No. 3Cを使用して手動7ステップボタンホールを縫う	105
6.13	ダブルオーバーロック	85	9.13	ボタンホール押さえ No. 3Cを使用して手動5ステップボタンホールを縫う	106
6.14	布端のトップステッチ（小幅）	85	9.14	ボタンホールをシームリッパーで切り開く	106
6.15	布端のトップステッチ（大幅）	86	9.15	ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く	107
6.16	シームガイド（オプションアクセサリ）を使用したトップステッチ	86	9.16	ボタンを縫い付ける	107
6.17	裾を縫う	87	9.17	アイレットを縫う	108
6.18	まつり縫い	87	10	キルティング	109
6.19	飾りヘムステッチ	88	10.1	キルトステッチについて	109
6.20	フラット縫い	89	10.2	キルティング用留め縫いプログラム	110
6.21	しつけ縫い	89	10.3	手縫い風ステッチを縫う	110
7	飾りステッチ	90	10.4	フリーモーションキルティング	111
7.1	飾りステッチについて	90	11	ベルニナステッチレギュレーター(BSR)	112
7.2	ボビンマジック	91	11.1	BSRモード1	112
7.3	クロスステッチ	92	11.2	BSRモード2	112
7.4	ピンタック	92	11.3	BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する	112
	ピンタック	92	11.4	BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する	112
	ピンタックについて	92	11.5	キルティングの準備をする	112
	コード芯をセットする	93		BSR押えを取り付ける	112
	ピンタックを縫う	94		押え底を交換する	113
8	アルファベット	95	11.6	BSRモードを使用する	114
8.1	アルファベットについて	95			
8.2	文字列を入力する	95			
8.3	文字の大きさを変更する	96			
9	ボタンホール	97			
9.1	ボタンホールについて	97			

15.6	刺しゅうモチーフのコンビネーション	139	17	付記	152
	刺しゅうモチーフのコンビネーション	139	17.1	お手入れとクリーニング	152
	刺しゅうモチーフを一つずつ消去する	140		ディスプレイを掃除する	152
	コンビネーションを複製する	140		送り歯を掃除する	152
15.7	文字列を作成する	141		釜を掃除する	152
	刺しゅう文字一覧	141		釜に注油をする	153
	文字／文を作成する	141	17.2	トラブルシューティング	155
	文字／文を編集する	142	17.3	エラー表示	157
15.8	刺しゅうモチーフの色を変更する	143	17.4	収納と処分	161
	色の変更について	143		ミシンを収納する	161
	色の変更	143		ミシンを処分する	161
	糸メーカーを変更する	144	17.5	機械仕様	161
15.9	刺しゅうモチーフを刺しゅうする	144	18	パターンについて	163
	刺しゅうメニュー一覧	144	18.1	ステッチパターン一覧	163
	しつけ縫いステッチを追加する	144		実用縫い	163
	刺しゅう枠の移動	144		ボタンホール	163
	糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する	145		飾りステッチ	163
	つなぎステッチを切る	145	18.2	刺しゅうモチーフ一覧	166
	色換えの頻度を少なくする	145		刺しゅうモチーフを編集する	166
	複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ	145		キルトモチーフ	167
	色表示	146		飾りステッチ	167
15.10	フリーアーム刺しゅう	146		花	168
15.11	刺しゅうモチーフの管理	147		キッズ	168
	刺しゅうモチーフの管理について	147		季節	169
	刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する	147		ホビーとスポーツ	170
	刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する	147		動物	170
	ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする	147		ボーダーとレース	171
	ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする	148		フレーム	171
	ステッチパターンを取り込む	148		特殊効果のあるデザイン	172
	刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す	149		索引	173
	刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す	149			
	ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する	149			
	ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する	149			
16	刺しゅうをする	150			
16.1	「スタート／ストップ」ボタンを使って刺しゅうをする	150			
16.2	刺しゅうスピードを速くする	150			
16.3	上糸調子を設定する	150			
16.4	フットコントローラーを使って刺しゅうをする ..	151			

安全にご使用いただくために

ミシンをご使用になる際には以下の基本的な安全に関する注意事項をお守りください。当ミシンをご使用の前には、必ず取扱説明書をよくお読みください。

危険！

感電の危険を避けるために：

- ・ 電源プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないでください。
- ・ 使用後は必ずミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外してください。

LEDライトの光について：

- ・ LEDライトを光学機器など（ルーペなど）を使って直接見ないようにご注意ください。当製品は安全クラス1MのLEDです。
- ・ LEDライトが破損または点灯しない場合には、BERNINA専門店にご相談ください。

警告

火傷、火事、感電および怪我の危険を避けるために：

- ・ ミシンを使用する際には、必ず付属の電源コードを使用してください。アメリカ合衆国およびカナダ用の電源コード（NEMA 1-15型プラグ）は対地電圧150V以下でご使用ください。
- ・ 当製品はこの取扱説明書の記載内容に従ってご使用ください。
- ・ ミシンは湿気のない室内で使用してください。
- ・ ミシンを湿った状態や、湿度の高い場所で使用しないでください。
- ・ ミシンをおもちゃとして使用しないでください。ミシンをお子様のご使用になる際、およびお子様の側でご使用になる際には、十分にご注意ください。
- ・ 8歳以下のお子様、身体的および感覚的に不自由な方、意思疎通が上手にできない方、およびミシンの使用方法が理解できない方は、保護者または安全に対する責任者による指示の下以外では、ミシンのご使用を避けてください。
- ・ ミシンはお子様の手の届かないところへ保管してください。
- ・ 掃除や調整の作業をお子様が行う際には、保護者の方の監督の下に行ってください。
- ・ コードや電源プラグに傷があるとき、正常に作動しないとき、落としたり損傷したとき、および水の中に落としたりしたときには、ミシンを使用しないでください。このような場合には、ミシンをお近くのBERNINA専門店へお持ちいただき、修理や調整を行ってください。
- ・ ベルニナ社がおすすめるアクセサリのみをご使用ください。
- ・ ご使用の際に、通気孔が塞がれていないか確認してください。ミシンやフットコントローラーに糸くずやほこり、布切れがついたままにしないでください。
- ・ ミシンの隙間からものを差し込んだりしないでください。

- ・ フットコントローラーの上に物を置かないでください。
- ・ ミシンのモデルに適したフットコントローラーLV-1 のみを使用してください。
- ・ 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では使用しないでください。
- ・ ミシンの可動部分に触らないようご注意ください。針部分は危険ですので特にご注意ください。
- ・ ソーイング中に布地を引っ張ったり押し込んだりすると、。針折れの原因になります。
- ・ 針に糸を通す、針を交換する、下糸を通す、押え金を交換するなど、針の周りで作業する場合には、ミシンの電源を«0»に合わせ、オフにしてください。
- ・ 曲がった針は使用しないでください。
- ・ 常に専用のBERNINA針板をお使いください。間違った針板の使用は、針折れの原因になります。
- ・ 電源プラグをコンセントから外す前に、必ずミシン本体の電源を«0»に合わせ、お切りください。電源プラグを外す際には、コードを引っ張らずに、電源プラグを持って外してください。
- ・ ミシンのカバーを開ける、注油をするなどの取扱説明書に記載された掃除・調整作業を行う際には、必ず電源プラグをコンセントから外してください。
- ・ このミシンは、二重絶縁構造を採用して製造しています（アメリカ合衆国、カナダ、日本を除く）。ベルニナ純正部品のみをお使いください。詳しくは、「二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて」をご覧ください。
- ・ 標準状態での音圧レベルは70 dB(A)以下です。

重要事項

取扱説明書について

取扱説明書はミシンの一部です。

- ・ 取扱説明書はミシンと一緒に保存し、ミシンを使用する際には常に読めるようにしてください。
- ・ ミシンを第三者に譲渡する場合には、必ず取扱説明書を添えてください。

使用目的について

当BERNINAミシンは、ご家庭での使用を対象として構想、製造されています。取扱説明書に記載されている素材、生地へのソーイングに使用してください。その他の使用方法は当ミシンの使用目的に適用されず、。それにより生じた損害において、BERNINAはその責を一切負いません。


装備と納品範囲

このマニュアルでは、説明のためにサンプル画像が使われています。図に表示されたミシンと付属品はミシンの実際の納品範囲と必ずしも一致しません。付属のアクセサリーの仕様は国により異なります。納品範囲に含まれない言及または表示された付属品は、オプションアクセサリーとしてベルニナ販売代理店で入手できます。付属品の詳細は、<https://www.bernina.com>をご参照ください。

技術的理由並びに製品改善の目的で、機械の装備と納入範囲に関する変更は、いつでも事前の通知なしに行われる可能性があります。

二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて

二重絶縁構造の製品には、アースをとる方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品にはアースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品のメンテナンスには細心の注意と豊富な知識が必要です。資格のある専門の方のみが行ってください。メンテナンス・修理の際には純正部品のみを使用してください。製品には「二重絶縁」または「二重絶縁構造」と表示されています。

 二重絶縁構造の製品にはこの表示がされています。

環境保護について

ベルニナインターナショナル株式会社は環境保護に準拠することを宣言しています。私達は製品の製造に当たって、製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。



ミシンにはゴミ箱マークが記載されています。このマークは、使用しなくなったミシンを家庭ごみとして廃棄することの禁止を表しています。電化製品を不適切な方法で廃棄すると、有害物質が流出することがあり、それが地下水を汚染し、食物連鎖によってやがて自分自身の健康を害することになります。

当製品が不要になった場合には、お住いの地域のルールに従って処分、リサイクルをしていただけますようお願い申し上げます。詳しい処分方法につきましては、お住まいの市町村にお尋ねください。新しいミシンをお求めの際には、販売店で古いミシンを回収している場合もありますので、お尋ねください。

ミシンを処分される際には、あらかじめユーザーデータを消去してから処分して下さい。

記号について



誤った扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が非常にあります。



誤った扱いをすると、重症を負う危険があります。



誤った扱いをすると、軽症から中度の傷害を負う危険があります。

注意

誤った扱いをすると、物的損害が発生する恐れがあります。



ベルニナソーイングエキスパートからのヒントです。

1 マイベルニナ

1.1 イントロダクション

あなたのBERNINA 540では、ソーイング、刺しゅう、そしてキルティングができます。シルクやサテンのような薄地から、麻、フリースそしてデニムなどの厚地まで、様々な布地を縫うことができます。多彩な実用縫いステッチ、飾りステッチ、ボタンホールや刺しゅうモチーフが搭載されています。

この取扱説明書に加えて、BERNINA 540には使用方法を詳細に説明したヘルププログラムが搭載されています。

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、および様々なステッチに関する情報や説明を見ることができます。

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。使用する生地や作りたい作品を入力すると、お勧めの針や押え金などが表示されます。

ヘルププログラムでは、ステッチパターン、機能およびユーザーインターフェースの使用方法について表示します。

その他の情報について

この取扱説明書に加えて、あなたのBERNINA 540にはその他の製品についての情報が添えられています。

最新版の取扱説明書、ミシンおよびアクセサリーについての更なる情報は、<http://www.bernina.com>をご覧ください。

1.2 ベルニナの品質管理について

全てのベルニナミシンは、細心の注意を払って製造しており、様々な機能の検査を実施しています。製品検査の工程でソーイングのテストをするため、内蔵のステッチカウンターはすでに数ステッチをカウントしています。製品検査の後、ミシンのクリーニングを行っていますが、まれに糸くずなどが残ってしまう場合があります。

1.3 ベルニナの世界へようこそ

ベルニナのスローガンはMade to createです。ミシンだけではなく、私たち自身もあなたのアイディアを形にするお手伝いをします。下記のオファーに加えて、お客様の今後のプロジェクトのために多くの提案や指示、および他のソーイングやキルティング、刺しゅうの愛好家とアイディアを交換する機会も提供しています。ぜひご利用ください。

BERNINA YouTubeチャンネル

YouTubeでは、多数の使用法のビデオや、ミシンの重要な機能についてのサポートを提供しています。あなたのプロジェクトがうまく完成するよう、多数の押え金についても詳しい説明が見つかります。

<http://www.youtube.com/BerninaInternational>

英語、ドイツ語。

inspiration – ソーイングマガジン

次の作品のアイディアやパターン、作り方をお探しですか？ベルニナマガジン「インスピレーション」は、まさにあなたにうってつけです。「インスピレーション」は、ソーイング、キルティング、刺しゅうの素晴らしいアイディアを、年に4回提供します。その季節ごとにトレンドのファッションやアクセサリー、また実用的なヒントから、独創的なホームデコレーションまで幅広くご紹介します。

<http://www.bernina.com/inspiration>

ソーイングマガジンは英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語で発行されています。一部の国では発行されておりません。

BERNINA ブログ

洗練された説明書、無料の裁断パターン、刺しゅうテンプレートだけでなく、多数の新しいアイディア – これらはみな、ベルニナのブログで毎週新たに見つかります。私たちのエキスパートが役に立つコツなどをわかりやすく説明します。コミュニティでは、自分のプロジェクトをアップロードして、他のソーイング、キルティング、刺しゅう愛好家たちとアイディアの交換ができます。

<http://www.bernina.com/blog>

英語、ドイツ語、オランダ語。

BERNINAソーシャルメディア

ソーシャルネットワークでフォローし、イベントやエキサイティングなプロジェクト、そしてソーイングやキルティング、刺しゅうについてのヒントとコツをもっと学びましょう。またベルニナの様々な最新情報をお伝えしていきます。

<http://www.bernina.com/social-media>

1.4 ミシンについて

前面部 操作部分名称



- | | | | |
|---|-----------|----|----------|
| 1 | 返し縫い | 6 | 針 上/下 |
| 2 | 糸切り | 7 | 押え圧 |
| 3 | 留め縫い | 8 | 多機能ボタン 上 |
| 4 | スタート/ストップ | 9 | 多機能ボタン 下 |
| 5 | 模様終わり | 10 | 針 左/右 |

側面部名称



- | | | | |
|---|---------------|----|------------------|
| 1 | フットコントローラー接続部 | 7 | 収納式糸立て |
| 2 | 送り歯 上/下 | 8 | 通気溝 |
| 3 | PC接続部 | 9 | はずみ車 |
| 4 | USB接続部 | 10 | 電源 |
| 5 | 糸立て | 11 | 電源コード用ソケット |
| 6 | 下糸巻き装置 | 12 | タッチペン用マグネット式ホルダー |

後部名称



- | | | | |
|---|----------------|----|---------|
| 1 | 通気溝 | 9 | 下糸巻き装置 |
| 2 | ソーイングテーブル取付部 | 10 | 下糸巻きガイド |
| 3 | 繕い縫いアタッチメント取付部 | 11 | 天秤 |
| 4 | 押え上げレバー | 12 | 糸ガイド |
| 5 | キャリングハンドル | 13 | 糸切り |
| 6 | 糸立て | 14 | BSR接続部 |
| 7 | 糸ガイド | 15 | 送り歯 |
| 8 | 収納式糸立て | 16 | 針板 |

1.5 付属アクセサリ

アクセサリについて

図	名称	用途
	保護カバー	ほこりや汚れからミシンを保護します。
	アクセサリボックス	付属アクセサリおよびオプションアクセサリを保管します。
	押え上げレバー／フリーハンドシステム(FHS)	押え金を上げ下げすることができます。
	ソーイングテーブル	作業スペースの拡大に。
	糸こま押さえ	糸こまから均等な糸送りができます。 糸こまの大きさによって、3つのサイズがあります。
	ボビン 4つ (1つはミシン内)	下糸を巻く為のアクセサリです。
	糸こまクッション 2つ	糸がずれて糸立て棒に絡まったり、切れたりするのを防ぎます。
	タッチペン	タッチディスプレイの正確な操作に。
	シームリッパー	縫い目を解いたり、ボタンホールを作る際に使用します。
	高さ調節板	布地の厚みの差を補い、押え金が斜めになるの防ぎ、布の動きをスムーズにします。

図	名称	用途
	針セット	全ての用途に。
	赤色の小型ドライバー（マイナス）	マイナスネジ用ドライバー。
	ブラシ	送り歯や釜周辺を掃除する際に使用します。
	ミシン油	ミシン注油のため
	電源コード	ミシンと電源を接続します。
	フットコントローラー	ミシンをスタート、ストップさせます。 ミシンのスピードをコントロールします。

電源コードの使用法（アメリカ合衆国／カナダのみ）

ミシンのプラグは有極プラグです。（二つの端子の幅が異なります）。感電のリスクを低くするために、プラグはコンセントに正しく差し込んでください。プラグがコンセントに差し込めない場合は、プラグの向きを変えてください。それでも差し込めない場合には、電気工事士に依頼して、プラグに合ったコンセントを設置してください。プラグを改造することは絶対にしないでください。

押え金について

付属の標準押え






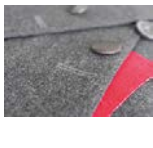




図	番号	名称	用途	例
	# 1C	標準押え	様々な実用および飾りステッチに。 前進および後進縫いに。	
	# 2A	オーバーロック縫い押え	伸縮性のある布地の布端の仕上げに。	
	# 3A	布ガイド付き自動ボタンホール押え	自動ボタンホールを縫う際に。	

図	番号	名称	用途	例
	# 4	ファスナー押え	ファスナーの縫い付けに。	
	# 20C	オープン刺しゅう押え	アップリケおよび飾りモチーフを縫う際に。	

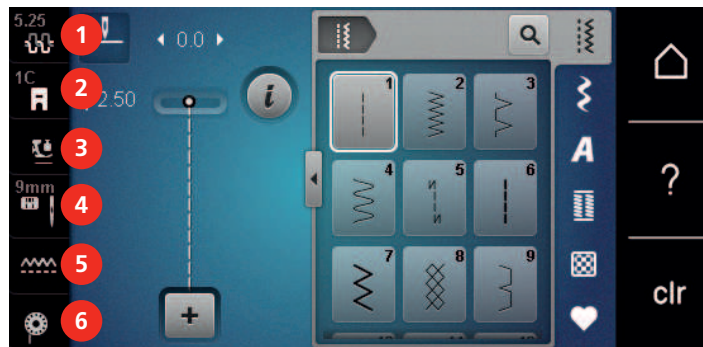
アクセサリボックス



- | | | | |
|---|---------|---|-----------------------------|
| 1 | 引き出し | 5 | 糸こまクッション |
| 2 | 押え金 | 6 | 布ガイド付き自動ボタンホール押え |
| 3 | ポピンホルダー | 7 | 針セット |
| 4 | 糸こま押え | 8 | 5.5 mm および 9.0 mm の押え金用ホルダー |

1.6 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



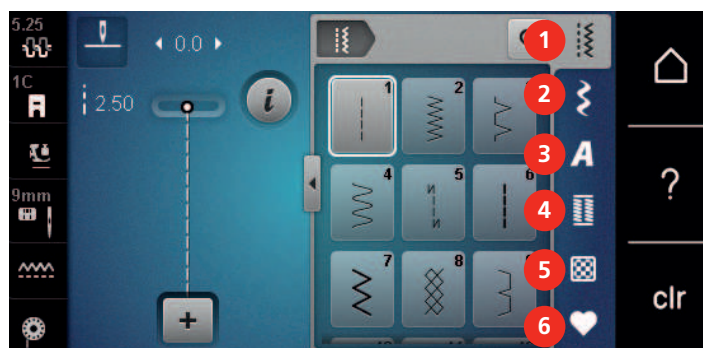
- | | | | |
|---|-------|---|---------|
| 1 | 上糸調子 | 4 | 針板／針選択 |
| 2 | 押え金表示 | 5 | 送り歯 上／下 |
| 3 | 押え圧 | 6 | 下糸の通し方 |

システム設定について



- | | | | |
|---|-------------|---|---------|
| 1 | ソーイングモード | 6 | エコモード |
| 2 | 刺しゅうモード | 7 | ホーム |
| 3 | セットアッププログラム | 8 | ヘルプ |
| 4 | チュートリアル | 9 | 基本設定に戻る |
| 5 | ソーイングアドバイザー | | |

ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|---------|---|----------|
| 1 | 実用縫い | 4 | ボタンホール |
| 2 | 飾りステッチ | 5 | キルトステッチ |
| 3 | アルファベット | 6 | ユーザーメモリー |

アイコンについて

アイコン	名称	使用目的
	iダイアログ	「i」ダイアログアイコンを押すと、ステッチパターンを編集する様々な機能を見ることができます。
	閉じる	変更内容を保存して、ウィンドウを閉じます。
 	アイコン«-/+»	アイコン«-»および«+»で設定内容を変更します。
	黄色い枠	黄色い枠で囲まれたアイコンは、その機能の設定または数値が変更されたことを示しています。黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、基本設定に戻ります。
	決定	変更した内容を確認します。ウィンドウが閉じます。
	キャンセル	作業を中断します。変更内容は保存されずにウィンドウが閉じます。
	スライダー	設定の値を変更します。
	スイッチ	機能のオン/オフをします。
	履歴ナビゲーション	履歴ナビゲーションを使用すると、ディスプレイを前に戻すことができます。

ヒント：一部のディスプレイには表示できる以上の機能が含まれています。隠された機能は、指またはタッチペンで上または下へスワイプすると表示できます。

1.7 針、糸、布地

使用すると針は劣化していきます。針は定期的に交換してください。針先の鋭い針を使用することによって、きれいなステッチが仕上がります。基本的に：薄い布地であればあるほど、細い針を使用してください。以下の針は、ミシンの機種によって標準またはオプションアクセサリとなります。

- ・ 針番手 70、75：薄地に。
- ・ 針番手 80、90：中厚地に。
- ・ 針番手 100、110および120：厚地に。

針について



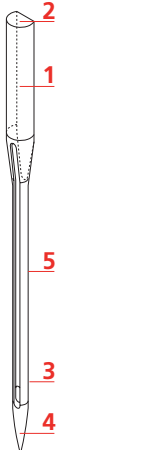
図	針の名称	針の特徴	用途
 	標準針 130/705 H 60-120	針先は少し丸みを帯びている	ほぼ全ての天然および合成繊維（織地およびニット、編地）に。

図	針の名称	針の特徴	用途
	ストレッチ針 130/705 H-S 75、90	中ボールポイント、特殊な針孔とえぐり	ジャージー、トリコット、ニットおよびストレッチ素材に。
	ジャージー用針／刺しゅう針 130/705 H SUK 60-100	中ボールポイント	編地およびニットに。 刺しゅうに。
	ジーンズ用針 130/705 H-J 80-110	針先は鋭く細く、シャフトは補強されている	ジーンズや帆布などの厚地に。
	皮革用針 130/705 H LR 90、100	カッティングポイント (LR=斜めに傾いたステッチ)	全ての皮、ビニール、合成皮革、プラスチック素材およびフェイル地に。
	マイクロテックス用針 130/705 H-M 60-110	針先は特に鋭く細い	マイクロファイバー地やシルクに。
	キルティング針 130/705 H-Q 75、90	針先は少し丸みを帯び、細い	直線縫いやトップステッチに。
	刺しゅう針 130/705 H-E 75、90	小ボールポイント、特に大きな針孔と幅の広い溝が特徴	全ての天然繊維および合成繊維での刺しゅうに。
	薄地用針 130/705 H SES 70、90	小ボールポイント	薄い編地およびニットに。 薄地、デリケートな布地への刺しゅうに。
	金属糸用針 130/705 H METAFIL 80	大きな針孔(2 mm)、全番手	メタリック糸を使用したソーイングおよび刺しゅうに。
	補修用針 130/705 H-N 70-100	大きな針孔(2 mm)、全番手	太い糸を使つてのトップステッチに。
	フェルティング用針 PUNCH	逆さ鉤の付いた針	フェルティングに。
	縁飾り縫い用針 130/705 H WING 100-120	シャフトが羽のような形の幅の広い針	縁の飾り縫いに。
	標準二本針 130/705 H ZWI 70-100	針の幅： 1.0/1.6/2.0/2.5/ 3.0/4.0/6.0/8.0	ストレッチ素材の裾やピントック、飾り縫いに。

図	針の名称	針の特徴	用途
	ストレッチ素材用二本針 130/705 H-S ZWI 75	針の幅：2.5/4.0	ストレッチ素材の裾や ピントック、飾り縫い に。
	ヘムステッチ用二本針 130/705 H ZWIHO 100	針の幅：2.5	ヘムステッチ刺しゅう の特殊効果に。
	標準三本針 130/705 H DRI 80	針の幅：3.0	ストレッチ素材の裾や 飾り縫いに。

針の種類

家庭用ミシンで使われる130/705システムの針について、以下のジャージー／ストレッチ針の図を例に挙げて説明します。

	<p>130/705 H-S/70</p> <p>130 = 針の柄の長さ(1)</p> <p>705 = 針の柄の後部が平らになっている(2)</p> <p>H = 糸穴(3)</p> <p>S = 針先の形状 (この例では中程度のボールポイント) (4)</p> <p>70 = 針の番手 (柄の太さ) 0.7 mm (5)</p>
--	--

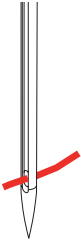
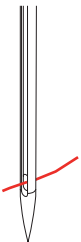
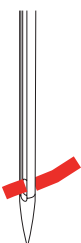
糸の選択

仕上がりをよりよくするためには、針、糸および布地の質が重要です。

よりよい作品を作っていただくために、高品質な糸を使用されることをお勧めします。

- ・ コットン糸（木綿糸）は天然繊維を使用した糸で、綿素材の布地を縫う際に最適です。
- ・ シルケット加工されているコットン糸は、軽く光沢があり、洗濯をしても変わりません。
- ・ ポリエステル糸は耐久性が高く、特に色あせない性質を持っています。
- ・ ポリエステル糸はコットン糸より伸縮性があり、強度や伸縮性が必要な作品に適しています。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は天然繊維を使った、非常に光沢のある糸です。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は飾り縫いに適していて、仕上がりが美しくなります。

針と糸の組み合わせ

	<p>ソーイングの際に、糸が針の溝と糸穴を緩過ぎず、きつ過ぎず、すっと通れば、正しい糸と針の組み合わせになり、最適な縫い目で縫うことができます。適正に縫うことができます。</p>
	<p>糸が細すぎると、溝と糸穴の中で糸が不安定になり、糸が切れたり、縫い目が乱れたりします。</p>
	<p>糸が太すぎると、糸が溝の端とすれたり、糸穴を滑らかに通らないので、糸が切れたり、絡んだりします。</p>

2 ソーイングの準備

2.1 アクセサリーボックス

アクセサリーボックスの取り外しと取り付け

アクセサリーボックスは4つのマグネットでミシンに取り付けます。取り付けの際にはアクセサリーボックスの引き出しを中に入れます。

- > キャリングハンドルを上を持ち上げます。
- > アクセサリーボックスを軽く手前に引っ張り、取り外します。



- > アクセサリーボックスを閉じます。
- > アクセサリーボックスの裏面をミシン側に向けて、取り付けます。

アクセサリーを保管する

注意

ボビンを間違えて保管すると

ボビンの銀色のセンサー部分が傷つくおそれがあります。

- > ボビンをアクセサリーボックスに入れる際、銀色のセンサー部分が右側にくるようにします。

- > (1)には、ボビン、押え金および針を収納します。
- > オイル入れなど小さい部品は、引き出し(2)に保管します。
- > ボビンは、銀色のセンサー部分が右側にくるように(3)に入れます。
- > ボビンを取り出すときはボビン入れの手前部分を下に押しします。
- > 小から中くらいの糸こま押えをピン(4)に差し込みます。
- > 糸こまクッションをコンパートメント(5)に保管します。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aは、コンパートメント(6)に収納します。
- > 付属の針セットは、(7)に保管します。
- > 押え金を台座 (1) (5.5 mm または 9.0 mm) に保管します。



2.2 接続と電源

フットコントローラーを接続する

> フットコントローラーのコードを使用する長さに引き出します。



> コードをフットコントローラーの接続部に差し込みます。



ミシンを電源に接続する

> 電源コードをミシンの接続部に差し込みます。



> 電源コードをコンセントに差し込みます。

押え上げレバーを取り付ける



押え上げレバーの角度は、使いやすさに合わせて、ベルニナミシン専門店で調節することができます。

> 押え上げレバーをミシン前面の取り付け穴に差し込みます。

- > 椅子の高さを押え上げレバーを膝で動かせる位置に調節します。



タッチペンを取り付ける

- > タッチペンをマグネット式ホルダーに取り付けます。



ミシンの電源を入れる

- > 電源スイッチを「I」に入ると、ミシンの主電源が入ります。



2.3 フットコントローラー

ソーイングスピードをフットコントローラーでコントロールする

フットコントローラーでソーイングスピードを自由に設定することができます。

- > フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ミシンを動かします。
- > フットコントローラーをさらに踏み込んでいくと、ソーイングスピードが早くなります。
- > フットコントローラーを踏むのをやめると、ミシンは停止します。



針を上げる／下げる

> フットコントローラーのかかとの部分を押し、針の上げ下げができます。



2.4 糸立て棒

収納式糸立て

収納式糸立てを持ち上げます。



メタリック糸またはその他の特殊な糸を使用する場合には、収納式糸立てを使用することをお勧めします。

収納式糸立ては、複数の糸を使用するソーイングの際や、ソーイングの途中に下糸を巻く際に使用しません。

> 糸立てを持ち上げるには、糸立てを押し下げて放します。



> 糸立てをブロックするには、糸立てが止まるまで反時計回りに回します。

> ブロックを解除するには、糸立てが止まるまで時計回りに回します。

> 糸立てを収納するには、糸立てをカチッと音がするまで押し下げます。

糸こまクッションと糸こまを取り付ける

糸こまクッションは、糸が収納式糸立てに絡まるのを防ぎます。

> 糸こまクッションを、収納式糸立てに取り付けます。

- > 糸こまを糸立てに取り付けます。



平行糸立て棒

糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付ける

糸こま押えを使用すると、糸こまから均等な糸送りができます。糸こま押えは平行糸立て棒でのみ使用します。

- > 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こま押えと糸こまの間に隙間が開かないように、ぴったり合った糸こま押えを取り付けます。



糸こまネットを使用する

糸こまネットは糸を糸こまに保ち、糸がもつれたり切れるのを防ぎます。

- > 利用可能な場合は、糸こまの上に糸こまネットをかぶせます。



2.5 フリーアーム

BERNINA 540の安定したフリーアームは、大きな作品にも使いやすいよう、針の右側にも十分な作業スペースがあります。

2.6 送り歯

送り歯の調整

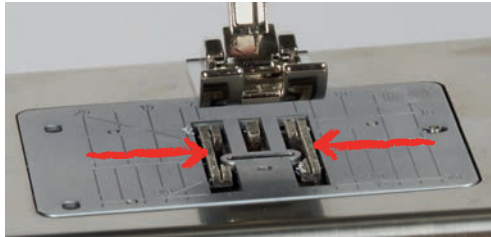
注意

ソーイング中の布地の操作にご注意ください

間違った布地の操作は、針と針板を傷つけるおそれがあります。

> 布送りは均一に行ってください。

針が一目動くたびに、送り歯も動きます。送り長さは設定で変更することができます。



送り長さを短くすると、布送りの動きは小さくなります。例えば、ボタンホールやサテンステッチを縫う際などには、送り長さを短くします。この場合、ソーイングスピードが最速であっても、布送り自体はゆっくりになります。

	<p>布送りを均一にすることで、きれいなステッチを縫うことができます。</p>
	<p>布地をひっぱったり押し込んだりすると、ステッチが荒く乱れてしまいます。</p>
	<p>布地を手前に引っ張ったり押さえたりすると、ステッチの目がつまり、乱れてしまいます。</p>

> «送り歯 上/下»ボタンを押すと、送り歯が下がります。



> ボタンをもう一度押すと、送り歯が上がります。

2.7 ソーイングテーブル

ソーイングテーブルを取り付ける

フリーアームに取り付けることで、作業スペースを拡大することができます。

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > ソーイングテーブルをフリーアームの上から右にスライドさせて取り付けます。



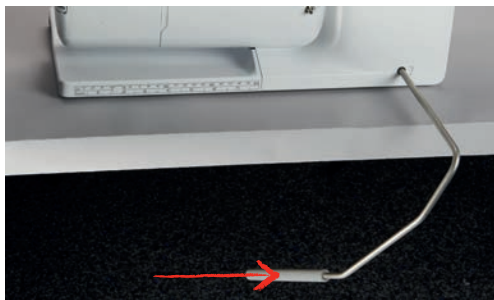
- > ソーイングテーブルのボタンを押して左にスライドさせると、ソーイングテーブルが外れます。



2.8 押え金

押え上げレバーで押え金の位置を変える

- > 押え上げレバーをひざで操作できるように、いすなどの高さを調節してください。
- > 押え上げレバーを右に押すと、押え金が上がります。



- 同時に送り歯が下がり、糸のテンションが緩みます。
- > 押え上げレバーからゆっくりとひざを離すと、押え金が下がります。

押え金 上/下ボタンで押え金の位置を変える



- > «押え金 上/下»ボタンを押すと、押え金が上がります。
- > もう一度«押え金 上/下»ボタンを押すと、押え金が下がります。

押え金を交換する

- > 針を上に戻します。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。(1)

- > 押え金を取り外します。(2)



- > 取り付けたい押え金を下から差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に下げます。

ユーザーインターフェースで押え金を選択する

選択されたステッチに合った押え金が表示されます。その中でも特に適した押え金が表示されます。

- > ミシンの電源を入れます。
- > ステッチパターンを選択します。
 - «押え金表示»アイコンに、お勧めの押え金が番号とともに表示されます。
- > «押え金表示»アイコンをタッチします。
- > タッチペンまたは指で押え金が表示されている範囲を上をスライドさせると、最適な押え金が表示されます。
- > 押え金をタッチすると、その押え金の説明や用途が表示されます。



押え圧の設定

設定されている通常押え圧は、ほぼすべてのソーイングで使用することができます。トリコット地や目の粗い編地などでは、押え圧を弱くします。硬めの厚地では、押え圧を強くします。



押え圧は、押え金が布地の厚さに合わせ、最適に布地を押える圧力のことです。厚地の場合には押え圧を弱めます。こうすることで、押え金が軽い力で上に上がり、布送りがスムーズになります。薄地の場合には、押え圧を強めることで、布地がずれるのを防ぐことができます。

- > 選択ダイヤルを右に回すと、押え圧が弱くなります。
- > 選択ダイヤルをさらに右に回すと、押え金が上に上がります。

- > 選択ダイヤルを左に回すと、押え圧が強くなります。



2.9 送り歯の調整



- > «送り歯 上/下»アイコンをタッチします。
- > 表示された図に応じて、送り歯が上下します。

2.10 針と針板

針を交換する

- > 針を上に戻します。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 押え金を取り外します。
- > 針取り付けネジを緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針取り付けネジを締めます。

ユーザーインターフェースで針を選択する

針を交換すると、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。

> 《針板／針選択》アイコンをタッチします。

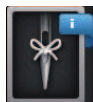


> 取り付けた針を選択します。

針のタイプと番手を選択する

便利なメモリー機能：針のタイプと針の番手を、ミシンに保存することができます。保存した針のタイプと番手はいつでも確認することができます。

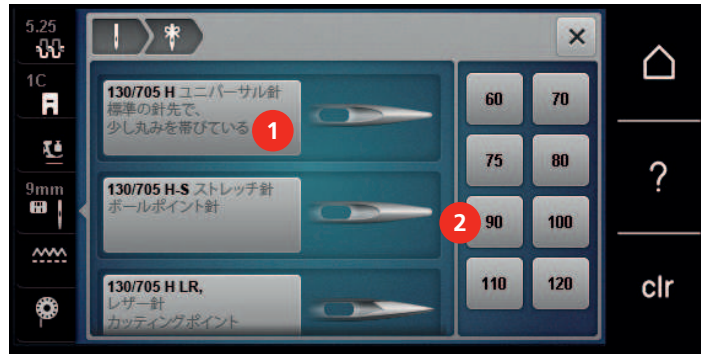
> 《針板／針選択》アイコンをタッチします。



> 《針のタイプ／針の番手》アイコンをタッチします。

> 現在取り付けられている針のタイプ(1)を選択します。

> 現在取り付けられている針の番手(2)を選択します。



針位置 上／下を設定する

> 《針 上／下》アイコンをタッチすると、針が下に下がります。

> 《針 上／下》アイコンをもう一度タッチすると、針が上に上がります。



針基線 左／右を設定する

全部で11の針基線があります。針基線はディスプレイに番号で表示されます。

> 《針 左》ボタン(1)を押すと、針基線は左に移動します。

- > «針 右»ボタン(2)を押すと、針基線は右に移動します。



針停止 上/下 (常時) を設定する



- > «針停止 上/下 (常時)»アイコンをタッチすると、針が常時停止する位置を設定することができます。
 - フットコントローラーから足を離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押してミシンを停止させると、針の位置は下になります。
- > «針停止 上/下 (常時)»アイコンをもう一度タッチします。
 - フットコントローラーから足を離すか、「スタート/ストップ」ボタンを押してミシンを停止させると、針の位置は上になります。

針板を交換する

針板は縦、横および斜めのガイド用マーキングがミリメートル (mm) およびインチ (inch) で表示されています。これらのマーキングは布ガイドとして、また正確なトップステッチをする際に便利です。

前提条件：

- ・ 送り歯を下げます。
 - ・ ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
 - ・ 針と押え金を外します。
- > 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > 針板を取り外します。
- > 針板の穴をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりとまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認することができます。



- > 《針板／針選択》アイコンをタッチします。
- > 現在取り付けられている針板を選択します。



- 選択した針板が取り付けられている針に適している場合、ソーイングを始めることができます。
- 選択した針板が針に適していない場合、エラー表示がされ、ミシンを動かすことはできません。

2.11 糸をかける

上糸をかける

糸掛けの準備

- > 糸こまクッションを糸立てに取り付けます。
- > 時計周りに糸がほどけるように、糸こまを糸立てに取り付けます。
- > 適切なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > ミシンのスイッチを入れ、起動するまで待ちます。
- > 針と押え金を挙げます。

糸を針まで持ってきます。

- > 糸こまと後ろの糸ガイド(1) の間で、糸を片手で持ちます。他方の手で糸の端をつかみ、次のステップの間常に軽く張っておきます。
- > 糸を矢印の方向に引き、テンションディスク (2) にかけます。



- > 糸を下から天秤カバー (3) の周りを上方向にかけます。

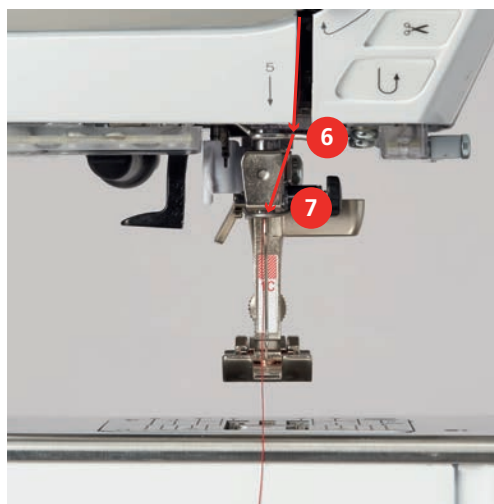
- > 天秤 (4) に糸を挿入します。



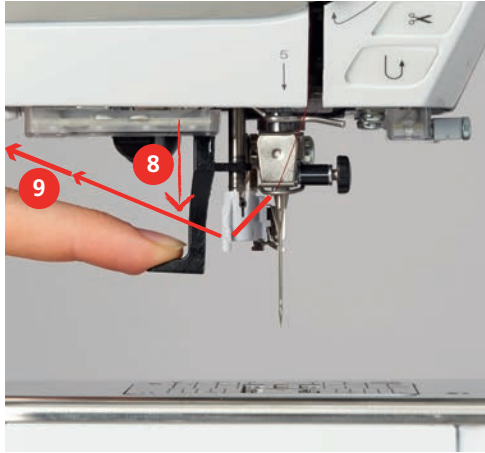
- > 糸を再び下方向へ (5) 持っていきます。
- > ここで初めて糸を放します。
- > ミシンの電源を切ります。

針を通す

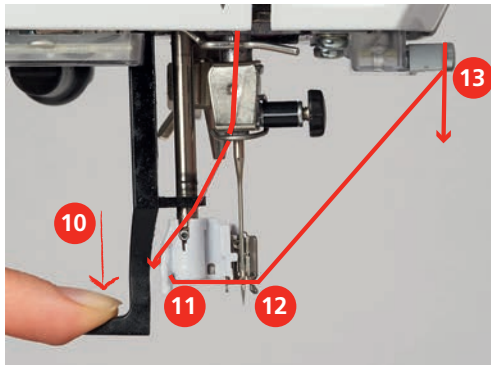
- > 糸を押え金上部の糸ガイド(6/7)に通します。



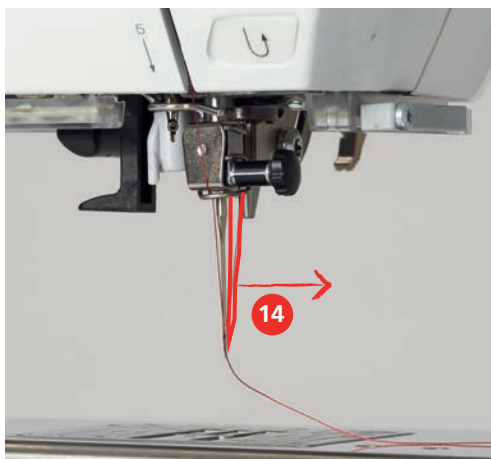
- > 半自動の糸通しレバー (8) を半分押し下げ、押したままで糸をグレーの糸通しフック (9) の後ろの糸を左に引きます。



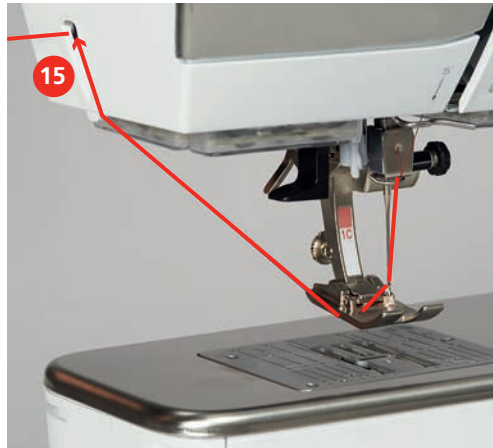
- > 糸を左から右にグレーの糸通しフック (11) の前にかけます。
- > 糸通しレバーを止まるまで押し下げます (19)。
- > ワイヤフックに掛かるまで、糸を左から右へ(11) 針穴(12) に通します。
- > 糸を後ろから糸切り(13)の上につ張り、切断します。



- > 糸通しレバーを放します。
 - 糸を針穴を通して引き出します。
- > 糸のつまみ(14)を、糸の端が針を通して引き出るまで後ろに引っばります。



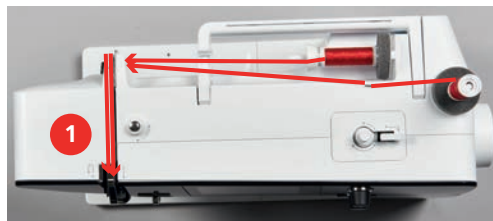
- > 押え金の下の糸を糸切り(15)まで引っ張り、切断します。



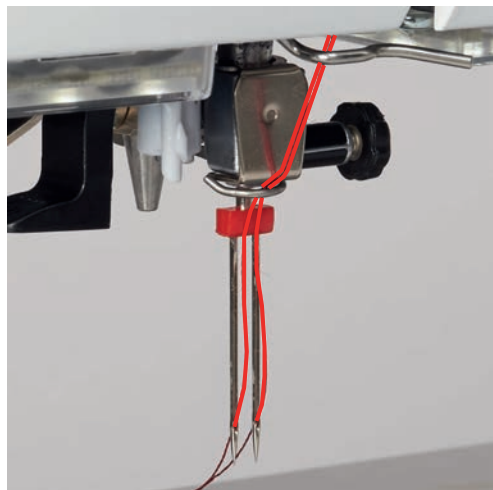
二本針に糸を通す

前提条件：

- ・ 二本針を取り付けます。
- > 一本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の右側にかけます。
- > 二本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の左側にかけます。



- > 一本目と二本目の糸を針の上の糸ガイドまで通します。
- > 一本目の糸を右の針に通します。
- > 二本目の糸を左の針に通します。



三本針に糸を通す



収納式糸立てを使用する際には、常に糸こまクッションを取り付けます。糸こまクッションは糸が糸立てに絡まるのを防ぎます。

前提条件：

- ・ 三本針を取り付けます。
- > 糸こまクッション、糸こまおよび対応する糸こま押えを糸立てに差し込みます。
- > 糸を巻いたボビンを、収納式糸立てに取り付けます。
- > 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > 糸こまを取り付けます。
- > 3本の糸を上糸ガイドまで通します。



- > 2本の糸をテンションディスク(1)の左側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 残りの1本をテンションディスク(1)の右側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 1番目の糸を手で左の針に通します。
- > 2番目の糸を手で中央の針に通します。
- > 三本目の糸を右の針に通します。

下糸を巻く



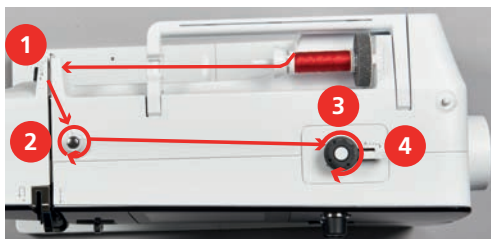
収納式糸立てを使用することで、刺しゅうの途中でも下糸を巻くことができます。

前提条件：

- ・ 糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付けます。
- > 空のボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、下糸巻き装置(1)に取り付けます。



- > 糸を矢印のように、後方の糸ガイド(1)に通します。
- > 糸を下糸巻きガイドに、時計回りに巻きつけます(2)。
- > 糸を空のボビン(3)に時計回りに2-3周巻きます。
- > 糸を糸巻きスイッチ(4)にある糸切りへ引っ張り、切ります。



- > 糸巻きスイッチ(5)をボビンの方向に押します。

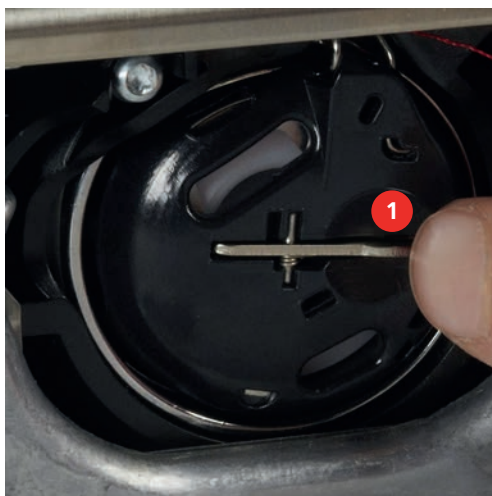


- ミシンが下糸を巻き、ディスプレイにボビンが表示されます。
- > ディスプレイ上のスライダーを、タッチペンまたは指でスライドさせると、糸巻きのスピードを設定することができます。
- > 糸巻きスイッチを右に押すと、糸巻きがストップします。
- > 糸巻きスイッチをもう一度ボビンの方向に押すと、再び糸巻きがスタートします。
 - ボビンがいっぱいになると、ミシンは自動的に糸巻きを終了します。
- > ボビンを取り外して、糸を糸巻きスイッチの糸切りで切ります。

下糸をかける

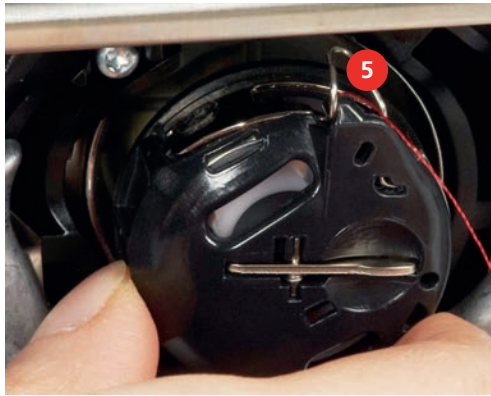
前提条件：

- ・ 針を上に戻します。
- ・ ミシンの電源を切り、釜カバーを開けます。
- > ボビンケースの取り出しレバー(1)を押します。



- > ボビンケースを取り出します。
- > ボビンケースからボビンを外します。

- > ボビンケースを、糸ガイド(5)が上にくるようにして持ちます。



- > ボビンケースを取り付けます。
- > ボビンケースの中央を押して、しっかりとめ込みます。
- > 糸を糸切り(6)に通して切ります。



- > 釜カバーを閉じます。

下糸をかける



- > «下糸»アイコンをタッチします。
- > アニメーションに沿って糸通しをします。



> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



- > パターンの始まりで留め縫いをオフにするには、スイッチを«0»に設定します。
- > パターンの始まりで留め縫いをオンにするには、スイッチを«1»に設定します。

糸切りボタンをプログラムする

糸切り前の自動留め縫い機能を設定することができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



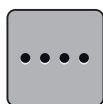
> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。



> «糸切りボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。

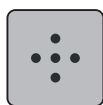


> «留め縫い»アイコンをタッチして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。



> «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタッチして、留め縫いの針数を設定します。

> «-»または«+»アイコンをタッチして、留め縫いの針数を設定します。



> «同位置で留め縫いをする»アイコンをタッチして、同位置で4針の留め縫いをするように設定します。



> «留め縫い»アイコンをタッチすると、自動留め縫い機能がオフになります。

> «留め縫い»アイコンをもう一度タッチすると、自動留め縫い機能がオンになります。

留め縫いボタンをプログラムする

針数と留め縫いの種類をプログラムすることができます。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



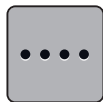
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。



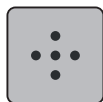
> «留め縫いボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。



> «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタッチして、留め縫いの針数を設定します。

> «-»または«+»アイコンをタッチして、留め縫いの針数を設定します。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。



> «同位置で留め縫いをする»アイコンをタッチして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。

返し縫いボタンをプログラムする

«連続返し縫い」と«バックステップ縫い»から選ぶことができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



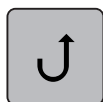
> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。



> «返し縫いボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。



> バックステップ縫いを設定するには、「バックステップ縫い»アイコンをタッチします。
- アイコンは白枠に囲まれています。



> 連続返し縫いを設定するには、「連続返し縫い»アイコンをタッチします。
- アイコンは白枠に囲まれています。

3.2 刺しゅう機能の設定

上糸調子の設定

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、全ての刺しゅうモチーフに有効になります。変更した内容はミシンの電源を切っても保存されたままになります。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «上糸調子を変更する»アイコンをタッチします。

> 上糸調子を上げるには、スライダーを上をスライドさせるか、または«+»アイコンをタッチします。

> 上糸調子を下げるには、スライダーを下をスライドさせるか、または«-»アイコンをタッチします。

刺しゅうスピードの最高速度を設定する

この機能では、ソーイングスピードの最高速度を設定することができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «最高スピードを変更する»アイコンをタッチします。

> 刺しゅうの最高速度を下げるには、スライダーを左にスライドさせるか、または«-»アイコンをタッチします。

> 刺しゅうの最高速度を上げるには、スライダーを右にスライドさせるか、または«+»アイコンをタッチします。

開いた時の刺しゅうモチーフの位置を決める

基本設定として、開いた刺しゅうモチーフは常に刺しゅうフレームの中央に表示されます。「保存された刺しゅうモチーフ位置の復元」ボタンを使って、刺しゅうモチーフが、ベルニナ刺しゅうソフトウェアに保存された刺しゅうフレームの位置で開くように設定できます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフを中央に置く»アイコンをタッチします。



> 保存された位置で刺しゅうモチーフを開くには、「保存された刺しゅうモチーフ位置を復元」ボタンを«I»に設定します。

> 刺しゅうフレームの中央で刺しゅうモチーフを開くには、「保存された刺しゅうモチーフ位置を復元」ボタンを«0»に設定します。

刺しゅう枠の調整

刺しゅう枠の調整では、針が刺しゅう枠の中心に来るように調整されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモジュールが接続されていること。

- ・ 対応する刺しゅうテンプレートのある刺しゅうフレームが取り付けられていること。
- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



- > «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



- > «刺しゅう枠の調整»アイコンをタッチします。
- > ディスプレイの矢印ボタンを使用して、針をテンプレートのちょうど中央に移動します。



- > 針の位置を«決定»アイコンで適用します。



布地の厚さを設定する

タオル地などの4 mm (0.15 inch)以上の厚さの布地の場合には、7.5 mm (0.29 inch)または10 mm (0.39 inch)に設定することをお勧めします。布地が厚くなるほど、刺しゅうスピードはゆっくりになります。ミシンの電源を切ると、変更した設定は基本設定の4 mm (0.15 inch)に戻ります。

- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



- > «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



- > «布地の厚さを設定する»アイコンをタッチします。
- > 布地の厚さを設定します。



留め縫いを設定する

刺しゅうモチーフには、留め縫いを設定することができます。留め縫いが設定されていないモチーフはミシンが認識し、留め縫いを追加することができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «留め縫い機能 オン/オフ»アイコンをタッチします。



- > 始めに留め縫いをオフにするには、右上エリアのスイッチを«0»に設定します。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされません。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。
- > 始めに留め縫いをオンにするには、右上エリアのスイッチを«I»に設定します。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされます。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。
- > 始めに留め縫いをオフにするには、右下エリアのスイッチを«0»に設定します。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされません。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。
- > 最後に留め縫いをオンにするには、右下エリアのスイッチを«I»に設定します。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされます。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。

糸切り機能の設定

糸切り機能は、必要に応じて設定することができます。糸交換前の糸切り機能をオフにするか(1)、つなぎステッチの長さ(3)を調節します。ミシンが自動的に、設定された長さでつなぎステッチを切ります。まずつなぎステッチを切る長さを設定し、それから刺しゅうモチーフを選びます。



つなぎステッチの長さは、1 mmから15 mmの間で設定することができます。基本設定では6 mmです。この場合、6 mmよりも長いつなぎステッチは自動的に切られます。つなぎステッチの長さを1 mmに設定した場合、糸切りの回数が多くなるので刺しゅう時間が長くなり、布地の裏に出る糸端の量が増えます。布地の表側にはつなぎステッチがほぼ残らないので、刺しゅうがきれいに仕上がります。特に文字を刺しゅうする際には短いステッチが多いので、糸切りの長さを1 mmにすることで仕上がりがきれいになります。その他の刺しゅうモチーフ（特に両面が見える刺しゅうの場合）では、糸切りの長さを短くすると布地の裏に短い糸端が残り、刺しゅうの縫い目に入り込んでしまっ除去が困難になってしまうので、あまり短くしないようにします。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «糸切り機能の設定»アイコンをタッチします。



- > ディスプレイ上部のスイッチ (1) をタッチすると、糸交換前の自動糸切り機能がオフになります。
- > ディスプレイ上部のスイッチ (1) をもう一度タッチすると、糸交換前の自動糸切り機能がオンになります。
- > ディスプレイ (2) の中央部にあるスイッチを押すと、ミシンは手動の糸切りのために停止しません。
- > ディスプレイ (2) の中央部にあるスイッチをもう一度押すと、ミシンは約7ステッチの後で停止し、残りの糸は手動で切ることができます。
- > «-»または«+»アイコン (3) をタッチすると、つなぎステッチを切る位置を設定することができます。

単位の変更

刺しゅうモードでの単位をミリメートルからインチに変更することができます。基本設定ではミリメートルです。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



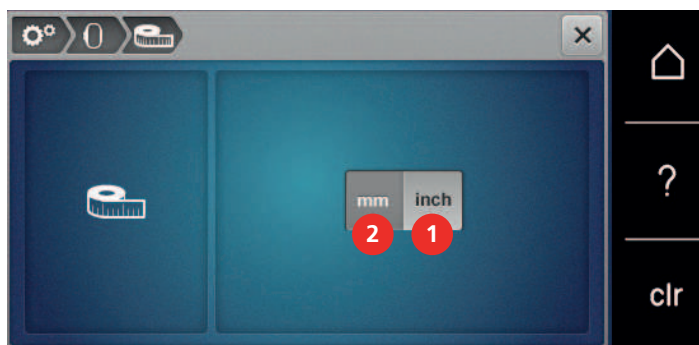
> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



- > «単位の変更»アイコンをタッチします。
- > 刺しゅうモードで単位をinchに変更するには、「Inch」(1) アイコンをタッチします。
- > 刺しゅうモードで単位をmmに変更するには、「mm」(2) アイコンをタッチします。



3.3 パーソナル画面を設定する



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «パーソナル画面»アイコンをタッチします。



- > お好みのディスプレイの色および背景を選択します。
- > 挨拶文を変更するには、色の設定の上にあるテキストフィールドをタッチします。
- > ウェルカムメッセージを入力します。
- > 大文字の場合は、「ABC»アイコンをタッチします（標準設定）
- > 小文字の場合は「abc»アイコンをタッチします。
- > 数字および数学文字の場合は、「123»アイコンをタッチします。
- > 特殊文字の場合は、「@&!»アイコンをタッチします。
- > テキストを完全に消去するには、キーボードの上のテキストフィールドをタッチします。
- > それぞれの文字を消去するには、「DEL»アイコンをタッチします。



> テキストを適用するには、「決定»アイコンをタッチします。



> ウィンドウを閉じます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。
- 挨拶文は保存されます。

3.4 センサー機能

上糸センサーを設定する



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «センサー機能の設定»アイコンをタッチします。



- > 上糸センサーをオフにするには、スイッチを«0»に設定します。
- > 上糸センサーをオフにするには、スイッチを«I»に設定します。

3.5 操作音の設定をする



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «操作音の設定»アイコンをタッチします。



- > サウンドを一般的にオフにするには、スイッチ(1)を«0»に設定します。
- > サウンドを一般的にオンにするには、スイッチ(1)を«1»に設定します。
- > ステッチパターンを選択する際に4つのサウンドのいずれかをオンにするには、エリア(2)で«1-4»アイコンをタッチします。



> ステッチパターンを選択する際に4つのサウンドのいずれかをオフにするには、エリア(2)で«スピーカー»アイコンをタッチします。

- «スピーカー»アイコンは白棒に囲まれています。

> 機能を選択する際に4つのサウンドのいずれかをオンにするには、エリア(3)で«1-4»アイコンをタッチします。



> 機能を選択する際にサウンドをオフにするには、エリア(3)で«スピーカー»アイコンをタッチします。

- «スピーカー»アイコンは白棒に囲まれています。



> BSRモードを使う場合にサウンドをオフにするには、エリア(4)で«スピーカー»アイコンをタッチします。

- «スピーカー»アイコンは白棒に囲まれています。

> BSRモードを使う場合にサウンドをオンにするには、エリア(4)で«スピーカー»アイコンをタッチします。

3.6 ミシンの設定

ミシンの設定



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



- > «言語の選択»をタップします。
- > 希望の言語をタップします。

ディスプレイの明るさを設定する

ディスプレイの明るさは、必要に応じて調整できます。



- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



- > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



- > «明るさ設定»アイコンをタッチします。
- > ディスプレイの明るさを変更するには、ディスプレイ上部にあるスライダーを左右にずらすか、または«+»または«-»のアイコンをタッチします。

ソーイングライトの設定

ソーイングライトの明るさは、必要に応じて調整できます。



- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



- > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



- > «明るさ設定»アイコンをタッチします。



- > ソーイングライトをオフにするには、スイッチを«0»に設定します。
- > ソーイングライトをオンにするには、スイッチを«I»に設定します。
- > ソーイングライトの明るさを設定するには、ディスプレイ下部にあるスライダーを左右にスライドするか、または«+»または«-»のアイコンをタッチします。

ファームウェアのバージョンを確認する

ミシンのファームウェアとハードウェアのバージョンが表示されます。



- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



> «インフォメーション»アイコンをタッチします。



> «ファームウェアおよびハードウェア情報»アイコンをタッチします。

総ステッチ数を確認する

ミシンの総ステッチ数、および前回ベルニナ代理店でサービスを受けた時からのステッチ数が表示されます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



> «インフォメーション»アイコンをタッチします。



> «ファームウェアおよびハードウェア情報»アイコンをタッチします。

代理店情報を登録する

お客様がご利用のベルニナ代理店情報を登録することができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



> «インフォメーション»アイコンをタッチします。



> 代理店情報を入力するには、「代理店情報»アイコンをタッチします。



> ベルニナ代理店の店名を入力するには、「店名」アイコンをタッチします。



> ベルニナ代理店の住所を入力するには、「住所」アイコンをタッチします。



> ベルニナ代理店の電話番号を入力するには、「電話」アイコンをタッチします。



> ベルニナ代理店のEメールアドレスを入力するには、「インターネット」アイコンをタッチします。

サービスデータを保存する

ミシンの最新の状態に関するサービスデータは、ベルニナUSBスティック（オプションアクセサリ）に保存し、ベルニナ代理店に届けることができます。

> 十分な空き容量のあるベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）をミシンのUSB端子に差し込みます。



> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「セットアッププログラム」アイコンをタッチします。



> 「ミシンの設定」アイコンをタッチします。



> 「インフォメーション」アイコンをタッチします。



> 「サービスデータ」アイコンをタッチします。

> 「LOG」アイコンをタッチします。

– 「LOG」アイコンは白い枠で囲まれています。

> 白い枠が消えたのを確認して、USBメモリーを外します。

標準設定に戻す

注意: この機能によって、個別に作成された設定は全て消去されます。










> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「セットアッププログラム」アイコンをタッチします。











> 「ミシンの設定」アイコンをタッチします。

-  > «基本設定»アイコンをタッチします。
-  > «ソーイング標準設定»アイコンをタッチします。
-  > «決定»アイコンをタッチすると、ソーイングの設定が標準設定に戻ります。
-  > «基本設定 刺しゅう»アイコンをタッチします。
-  > «決定»アイコンをタッチすると、刺しゅうの設定が標準設定に戻ります。
-  > «全ての標準設定»アイコンをタッチします。
-  > «決定»アイコンをタッチしてミシンを再起動すると、全ての基本設定が復元されます。



ユーザーデータを消去する

必要のなくなったモチーフを消去することで、新しいモチーフを保存するデータ容量が増えます。

-  > «ホーム»アイコンをタッチします。
-  > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。
-  > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。
-  > «標準設定»アイコンをタッチします。
-  > «ユーザーメモリーからデータを消去する»アイコンをタッチします。
-  > «決定»アイコンをタッチすると、ユーザーメモリーのデータが全て消去されます。
-  > «刺しゅうデザインを消去する»アイコンをタッチします。
-  > «決定»アイコンをタッチすると、ユーザーメモリーの刺しゅうデザインがすべて消去されます。

ベルニナUSBメモリー内のモチーフを消去する

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）内に必要のなくなったモチーフがある場合、ミシンに接続してデータを消去することができます。

- > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）をミシンのUSB端子に差し込みます。
-  > «ホーム»アイコンをタッチします。
-  > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



> «標準設定»アイコンをタッチします。



> «USBメモリーのデータを消去する»アイコンをタッチします。



> «決定»アイコンをタッチすると、ベルニナUSBメモリーに保存された全てのデータが消去されます。

布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを調整する

ボタンホール押え No. 3A とミシンは互いに一致しており、常に一緒に使用しなければなりません。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え No.3A が取り付けられていること。
- ・ 針には糸を通さないでおきます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



> «メンテナンス/アップデート»アイコンをタッチします。



> «ボタンホール押えNo.3A のキャリブレーション»アイコンをタッチします。

> 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを下げます。



> キャリブレーションを開始するには、「開始/停止»キーをタッチします。



> 調整が終了したら、ウィンドウを閉じます。

ファームウェア更新








ミシンの最新ファームウェアと更新プロセスの順を追った詳しい手順は、www.bernina.comからダウンロードできます。基本的に更新の際、パーソナルデータと設定は自動的に引き継がれます。念のためファームウェア更新の前には、バックアップとしてデータをベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に保存しておくことをお勧めします。更新の際に、万が一これらのデータが失われてしまった場合には、バックアップから再びデータを戻すことができます。

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を取り外すのが早すぎるとファームウェアの更新がされずに、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、更新が完全に終了してから取り外してください。

> FAT32にフォーマットされ、新しいファームウェアバージョンを搭載したベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を、ミシンのUSB端子に差し込みます。

-  > «ホーム»アイコンをタッチします。
-  > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。
-  > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。
-  > «メンテナンス/アップデート»アイコンをタッチします。
-  > «ミシンのアップデート»アイコンをタッチします。
-  > «データをUSBメモリーに保存する»アイコンをタッチします。
- アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。
-  > ファームウェアの更新を開始するには、「更新»アイコンをタッチします。







保存したデータを復元する

ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、再び復元させることができます。

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を取り外すのが早すぎると保存したデータが正しく読み込まれず、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、保存したデータの読み込みが完全に終了してから取り外してください。

- > データと設定を保存したベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
-  > «ホーム»アイコンをタッチします。
-  > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。
-  > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。
-  > «メンテナンス/アップデート»アイコンをタッチします。
-  > «ミシンのアップデート»アイコンをタッチします。
-  > «保存したデータをミシンに取り込む»アイコンをタッチします。
- アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。

糸くず入れの掃除

付記の「お手入れとクリーニング」では、ワンステップずつの図付きの説明も見るすることができます。



> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「セットアッププログラム」アイコンをタッチします。



> 「ミシンの設定」アイコンをタッチします。



> 「メンテナンス/アップデート」アイコンをタッチします。



> 「糸くず入れの掃除」アイコンをタッチします。
> ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。

ミシンに注油をする



注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをすることおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

注意

釜に注油をする

注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。

> 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング/刺しゅうをします。

セットアッププログラムではミシンの注油方法をアニメーションで見ることができます。付記の「お手入れとクリーニング」では、ワンステップずつの図付きの説明も見るすることができます。注油には必ずベルニナのオイルを使用してください。



> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「セットアッププログラム」アイコンをタッチします。



> 「ミシンの設定」アイコンをタッチします。



> 「メンテナンス/アップデート」アイコンをタッチします。



> 「ミシンに注油をする」アイコンをタッチします。
> ディスプレイ表示に従って、ミシンに注油をします。

刺しゅう機を収納する

刺しゅう機を元のパッケージに収納する際には、刺しゅうアームは手で動かさずに、プログラムから収納位置に動かします。

前提条件：

- ・ 刺しゅう機がミシンに接続されている。



- > «ホーム»アイコンをタッチします。



- > «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



- > «ミシンの設定»アイコンをタッチします。



- > «メンテナンス/アップデート»アイコンをタッチします。



- > «刺しゅう機を収納位置へ動かす»アイコンをタッチします。
- > ディスプレイの指示に従って操作します。



4 システム設定

4.1 チュートリアルを開く

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、および様々なステッチに関する情報や説明を見ることができます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «チュートリアル»アイコンをタッチします。
> ご覧になりたいテーマを選択します。

4.2 ソーイングアドバイザーを開く

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «ソーイングアドバイザー»アイコンをタッチします。
> 使用する布地を選択します。
> 作りたい作品を選択します。

4.3 エコモードについて

作業が長時間中断される場合、ミシンは節約モードになります。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



> «エコモード»アイコンをタッチします。
- ディスプレイが消えます。節電モードになり、ソーイングライトが消えます。
> 節約モードをキャンセルするには、ディスプレイ上のエコアイコンをタッチします。
- ミシンが通常モードに戻ります。

4.4 ヘルプを開く



> ヘルプが必要な場合には、ディスプレイにヘルプを表示させます。
> «ヘルプ»アイコンを押して、ヘルプモードを開きます。
> ディスプレイ上で、必要なヘルプ情報のアイコンを押します。
- ヘルプ情報が表示されます。

4.5 «clr»で変更を取り消す

モチーフの変更内容すべてを標準設定に戻すことができます。この際ユーザーメモリーに保存したモチーフと、センサー機能の変更は戻りません。



> «clr»アイコンをタッチします。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンと全ての刺しゅうモチーフに影響します。ソーイングモードの(参照ページ: 45)について、恒久的な上糸調子の変更は、セットアッププログラムで行うことができます。

前提条件：

- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。
- > 《上糸調子》アイコンをタッチします。
- > タッチペンまたは指でスライダーを動かして、上糸調子を調節します。

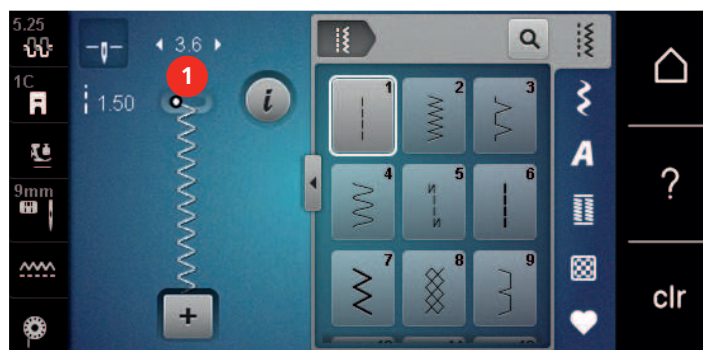


- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチします。
- > 左側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、セットアッププログラムでの設定が標準設定に戻ります。

5.4 ステッチパターンの編集

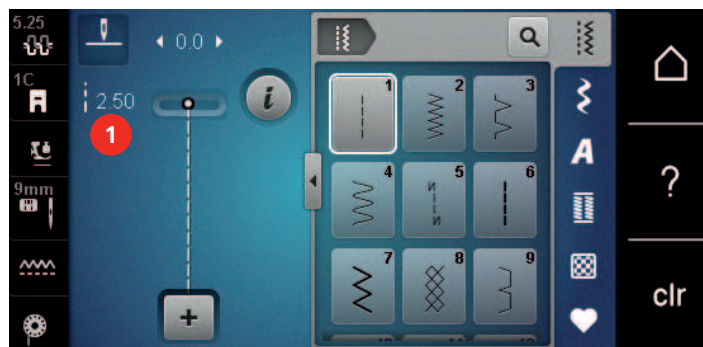
振り幅を変更する

- > 《多機能ボタン 上》を左に回すと、振り幅が小さくなります。
- > 《多機能ボタン 上》を右に回すと、振り幅が大きくなります。
- > その他の設定をする場合には、《振り幅》アイコン(1)をタッチします。



送り長さを変更する

- > 《多機能ボタン 下》を左に回すと、送り長さが短くなります。
- > 《多機能ボタン 下》を右に回すと、送り長さが長くなります。
- > その他の設定をする場合には、《振り幅》アイコン(1)をタッチします。



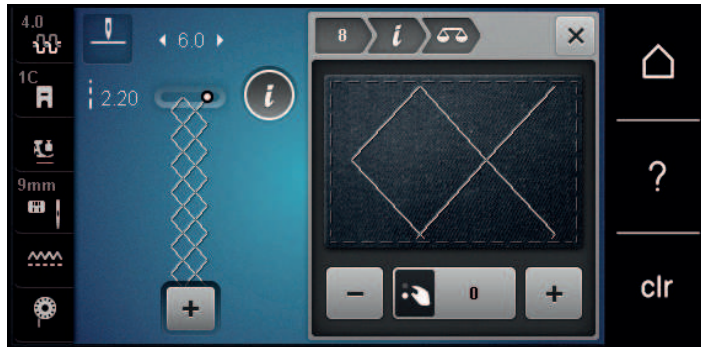
バランスを調整する

布地や糸、芯地の種類によっては、バランスの調整が必要な場合があります。バランスを調整することで、布地に合ったきれいなステッチパターンを縫うことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを縫います。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «バランス»アイコンをタッチします。
 - ステッチパターンのプレビューが表示されます。



- > «多機能ボタン 下»を回して、ステッチパターンの縦方向のバランスを調整し、プレビューで確認します。
- > 変更したバランス設定は、ステッチごとに«自分のメモリ»にバックアップできます。
- > 変更したバランス設定は、「Clrキー」を押すか、またはミシンの電源がオフになるまでのみ有効です。

模様繰り返し機能を設定する

ステッチパターンは9回まで繰り返すことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > ステッチパターンを繰り返すには、「パターンの繰り返し」アイコンを1回タッチします。
- > ステッチパターンを最大9回繰り返すには、「パターンの繰り返し」アイコンを繰り返しタッチします。
- > ステッチパターンの繰り返しをオフにするには、「パターンの繰り返し」アイコンを長押しするか、または«Clr»アイコンをタッチします。

ステッチパターンを反転させる

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



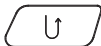
- > «模様反転 左/右»アイコンをタッチすると、ステッチパターンが左から右へ反転します。



- > «模様反転 上/下»アイコンをタッチすると、ステッチパターンが上から下へ反転します。

返し縫い

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > 針停止位置（常時）を下に設定すると、「返し縫い」ボタンを押した際にすぐ返し縫いができるようになります。
- > 針停止位置（常時）を上を設定すると、もう一針縫ってから、返し縫いがされます。
- > 「返し縫い」ボタンを押したままにします。

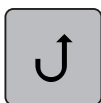


続けて返し縫いをする

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「連続返し縫い」アイコンをタッチすると、続けて返し縫いをすることができます。
 - 「連続返し縫い」アイコンをもう一度タッチするまでミシンは返し縫いを続けます。



バックステップ縫い

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。

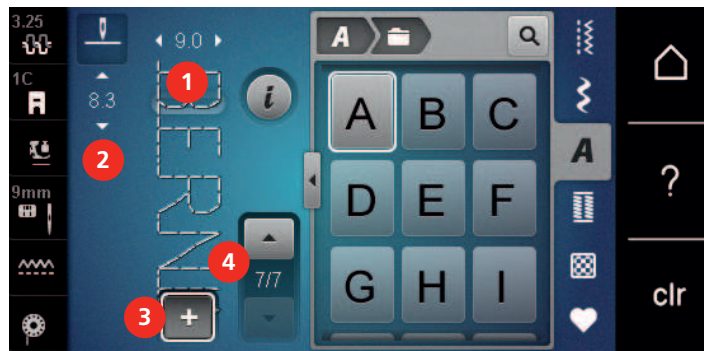


- > 「バックステップ縫い」アイコンをタッチすると、200針までの縫い目を正確にたどりながら返し縫いをします。



5.5 ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードについて



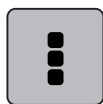
- | | | | |
|---|------------------------|---|------------------------|
| 1 | 現在選択されているステッチパターンの振り幅 | 3 | コンビネーションモード/シングルモード |
| 2 | 現在選択されているステッチパターンの送り長さ | 4 | コンビネーションの中の個々のステッチパターン |

ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードでは、ステッチパターンとアルファベットを自由に組み合わせることができます。アルファベットを組み合わせ、BERNINAなどの単語を作成することができます。

- > 「シングルモード/コンビネーションモード」アイコンをタッチします。





> «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。



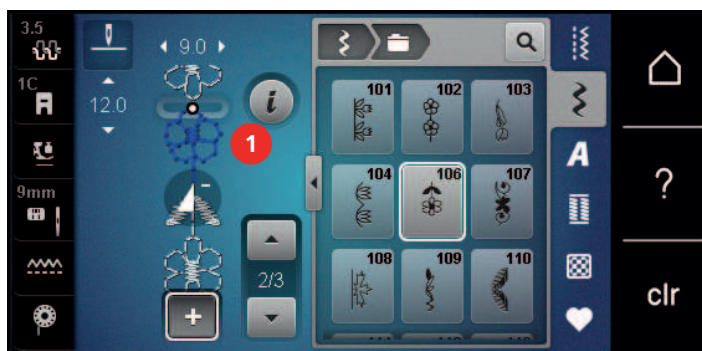
> «消去»アイコンをタッチします。



> «決定»アイコンをタッチします。

単独のステッチパターンを編集する

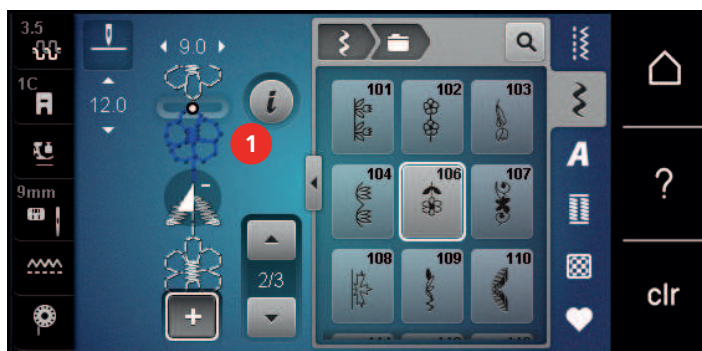
- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > タッチペン/指でステッチパターンのコンビネーションの編集したい部分(1)をタッチして、選択します。



> «i»ダイアログアイコンをタッチすると、ステッチパターンの一部を編集することができます。

ステッチパターンの一部を消去する

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > タッチペン/指でステッチパターンのコンビネーションの編集したい部分(1)をタッチして、選択します。



> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «消去»アイコンをタッチして、ステッチパターンを消去します。

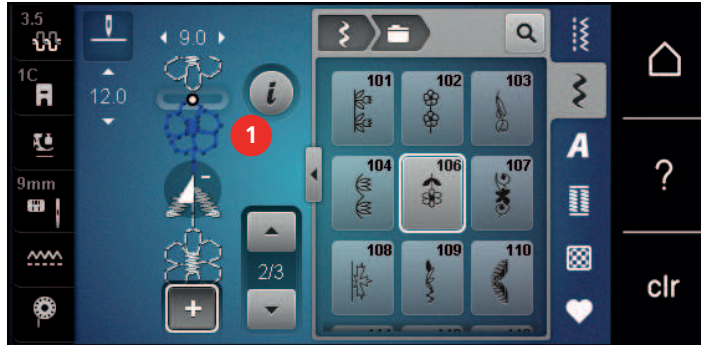
または

- > タッチペン/指でコンビネーションの中の消去したいステッチパターン(1)をドラッグして、コンビネーションから外します。
 - ステッチパターンが消去されます。

単独のステッチパターンを追加する

新しいステッチパターンは常に、選択されたステッチパターンの下に追加されます。

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > タッチペン/指でステッチパターンのコンビネーションの編集したい部分(1)をタッチして、選択します。



- > 新しいステッチパターンを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを反転させる

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。



- > «模様反転 左/右»アイコンをタッチすると、ステッチパターンのコンビネーション全体が左から右に反転します。
- > «模様反転»アイコンをもう一度タッチすると標準設定に戻ります。



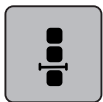
ステッチパターンのコンビネーションを分割する

ステッチパターンのコンビネーションを分割することができます。分割位置はカーソルの下になります。カーソル位置までのコンビネーションを縫うことができます。次のコンビネーションを縫うには、カーソルの位置を移動させます。

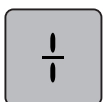
- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > タッチペン/指で、分割したいコンビネーションの位置をタッチします。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。



- > «コンビネーションを分割する»アイコンをタッチします。



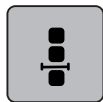
ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る

ステッチパターンのコンビネーションは自由な位置で区切ることができます。分割位置はカーソルの下になります。

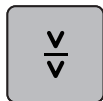
- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。



- > タッチペン/指で、コンビネーションの区切りたい位置をタッチして選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。

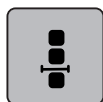


- > «コンビネーションを途中で区切る»アイコンをタッチします。
- > 区切った部分までが縫われたら、布地を置き換えます。

ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする



- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > タッチペン/指で、コンビネーション内の留め縫いしたい位置をタッチして選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。

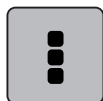


- > «留め縫い»アイコンをタッチします。
 - コンビネーション内の全てのパターンの始めと終わりを留め縫いすることができます。

模様繰り返し機能を設定する



- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。



- > «模様繰り返し»機能アイコンを1回タッチすると、コンビネーションが繰り返されます。
- > «模様繰り返し»機能を複数回タッチすると、模様を9回まで繰り返すことができます。
- > «模様繰り返し»機能アイコンを長くタッチするか«clr»アイコンをタッチすると、模様繰り返し機能がオフになります。

5.6 ステッチパターンを編集する

ステッチパターンの設定を保存する



- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。
- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを編集します。



- > «ステッチパターンの設定を保存する»アイコンをタッチすると、変更が保存されます。



- > «基本設定に戻る»アイコンをタッチすると、全ての変更が元に戻ります。

ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する

ベルニナUSBメモリーにお気に入りのステッチパターンや、編集したステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。



- > «ステッチパターンの保存»アイコンをタッチします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»アイコンをタッチします。



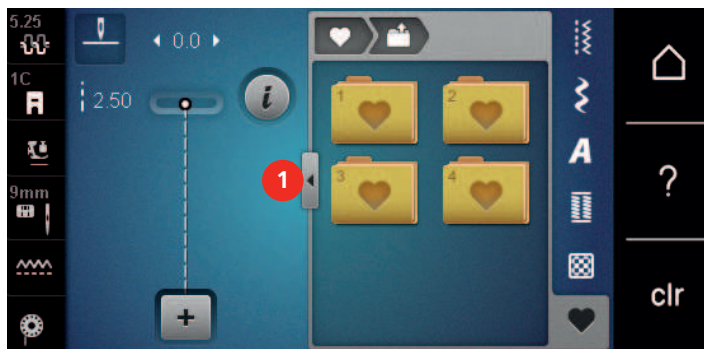
- > «決定»アイコンをタッチします。

ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す

- > «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。



- > «ステッチパターンを呼び出す»アイコンをタッチします。
- > アイコン(1)をタッチします。



- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «USBメモリー»アイコンをタッチします。
- > 呼び出したいステッチパターンを選択します。

ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを消去する

- > «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。



- > «消去»アイコンをタッチします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > 消去したいステッチパターンを選択します。



- > «決定»アイコンをタッチします。

5.7 留め縫い

«留め縫い»ボタンを押して留め縫いをする

«留め縫い»ボタンには、色々な留め縫いステッチをプログラムすることができます。



- > «留め縫い»ボタンを縫い始める前に押します。
 - ステッチパターン/ステッチパターンのコンビネーションを設定した針数留め縫いします。
- > «留め縫い»ボタンをソーイング中に押します。
 - ミシンは停止して、その場でプログラムされた針数の留め縫いをします。

「留め縫い」アイコンで留め縫いをする

コンビネーション内の全てのパターンの始めと終わりを留め縫いすることができます。

- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。

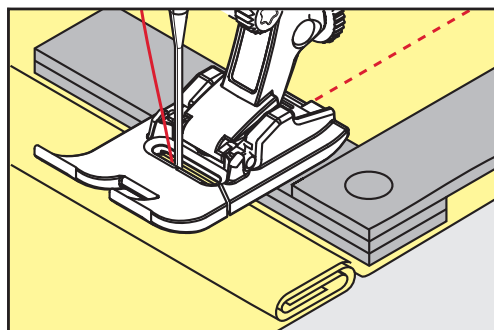


- > 縫い始める前に「留め縫い」アイコンをタッチします。
 - ステッチパターン/ステッチパターンコンビネーションの最初に、4針の留め縫いがされます。
- > ソーイング中に「留め縫い」アイコンをタッチします。
 - ステッチパターンまたはコンビネーションの場合は現在縫っているパターンの終わりに、4針の留め縫いがされます。

5.8 布地の高さを調節する

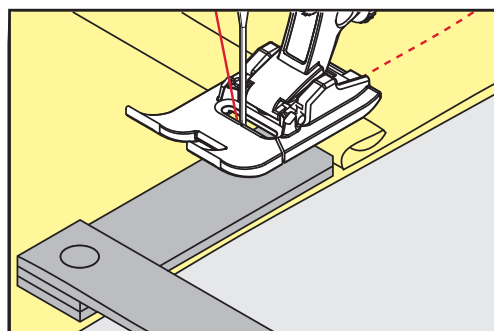
厚みのある部分を縫う際に押え金が斜めになっていると、送り歯がうまく布地を送ることができず、縫い目にばらつきができてしまいます。

- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、後ろから押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、前から押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

- > 押え金が厚みのある部分を完全に通りすぎるまで縫います。
- > 高さ調節板を外します。

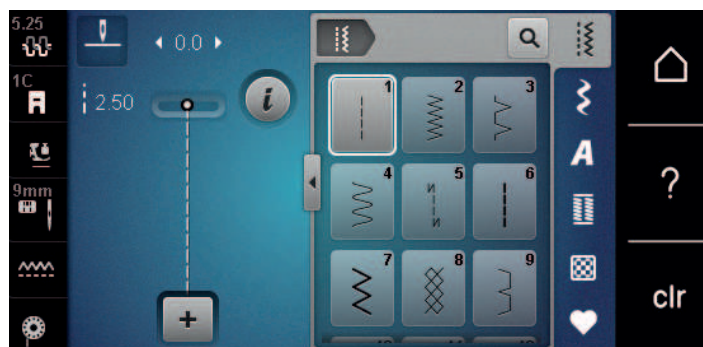
5.9 角を縫う












角を縫う際、送り歯には布地のほんの一部のみしか接触しないので、布送りがはっきりできません。この場合、高さ調節板を使用することで、布送りを均等にすることができます。
















- > 角まで縫ったら、針位置を下にし、ミシンを一旦ストップします。
- > 押え金を上げます。
- > 布地を次のソーイング方向に回します。
- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、押え金の右側の針の少し手前の位置に入れます。

6 実用縫い

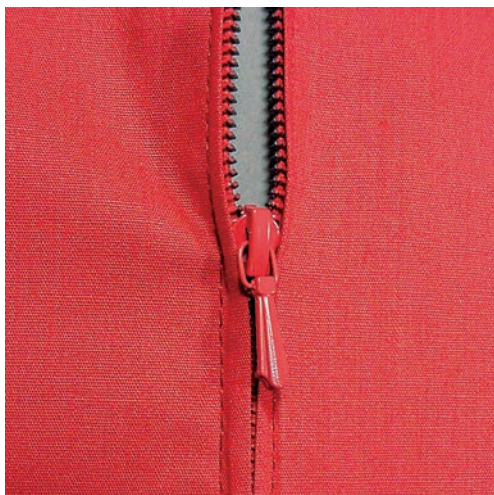
6.1 実用縫い一覧



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	1	直線縫い	縫い合わせ、トップステッチに。
	2	ジグザグ縫い	縫い目の補強や布端のかがり縫い、伸縮性の必要なステッチ、レースの縫い付けに。
	3	バリオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがり同時に行えます。
	4	ランニングステッチ	繕い縫いや継ぎはぎ、布端の補強などに。
	5	留め縫いプログラム	直線縫いの縫い始めと終わりの留め縫いに。
	6	トリプル直線縫い	厚地を縫う際の補強縫いやトップステッチ、飾り縫いに。
	7	トリプルジグザグ縫い	厚地を縫う際の補強縫いやトップステッチ、飾り縫いに。
	8	ネットステッチ	伸縮性のある布地や裾に。下糸にゴムを使用する場合に。
	9	まつり縫い	まつり縫い、ジャージーや薄手の布地のシェルステッチ効果、飾り縫いに。
	10	ダブルオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがり同時に行えます。
	11	スーパーストレッチ	伸縮性の強いオープンシーム。全ての服に。
	12	ギャザーステッチ	ほぼ全ての布地に；ゴム糸を使用したシャーリング、突き合わせ縫い、飾り縫いに。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	13	ストレッチオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	14	トリコットステッチ	裾の飾り縫い、下着、セーター、トリコット地の繕い縫いに。
	15	ユニバーサルステッチ	フェルトや皮などの固めの生地。平らな継ぎ縫い、裾の飾り縫い、ゴムの縫い付け、飾り縫いなどに。
	16	二点ジグザグ縫い	布端の仕上げや補強、ゴムの縫い付け、飾り縫いなどに。
	17	ライクラステッチ	ライクラ地に；平らな継ぎ縫い、裾の飾り縫い、下着などの補強に。
	18	ストレッチステッチ	伸縮性の高い布地、スポーツウェアなどの縫い合わせに。
	19	補強オーバーロック	中厚地のニット地やタオル地に。オーバーロックや平らな継ぎ縫いに。
	20	ニットオーバーロック	手編みおよび機械編みのニット地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	22	シンプル繕い縫いプログラム	穴や傷のついた薄手の布地の繕い縫いに。
	23	補強繕い縫いプログラム	穴や傷ついた厚手の布地の繕い縫いに。
	24	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強、ベルトのループの縫い付けに。
	25	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強やベルトのループの縫い付け、ファスナーの縫い付け、縫い終わりの補強などに。
	26	大型フライステッチ	中厚地～厚地のポケットの開口部やファスナー、スリットなどの補強に。
	29	細まつり縫い	薄地のまつり縫いに。
	30	しつけ縫い	裾やキルトなどのしつけ縫いに。
	32	一針直線縫い	コンビネーションでのつなぎに。
	33	三針直線縫い	コンビネーションでのつなぎに。
	34	繕い縫い	繕い縫いに。

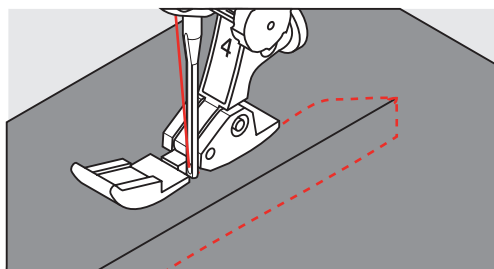
6.4 ファスナーを縫い付ける



縫い始めの布送りが難しい場合、縫い始めに糸をしっかり押える、布地を何針か縫うまで軽く後ろに引っ張る、または最初に1-2 cm後進で縫うなどをお勧めします。



- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナーを数センチ開きます。
- > ファスナー押えNo. 4を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え上げレバーを使用して押え金を上げ、作品を置きます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 針がファスナーの歯に沿って刺さるように、押え金の位置を調節します。
- > スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを閉めます。
- > 続けて縫い、スリットが終わる手前で針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側まで縫い、針位置を下にしてのミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側を下から上に縫います。



6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける

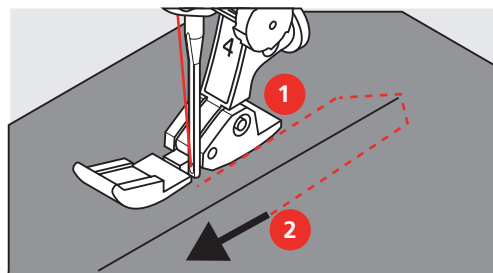
ベルベットなどの起毛生地の場合、ファスナーは両側とも毛並みと逆方向に縫い付けていくことをお勧めします。



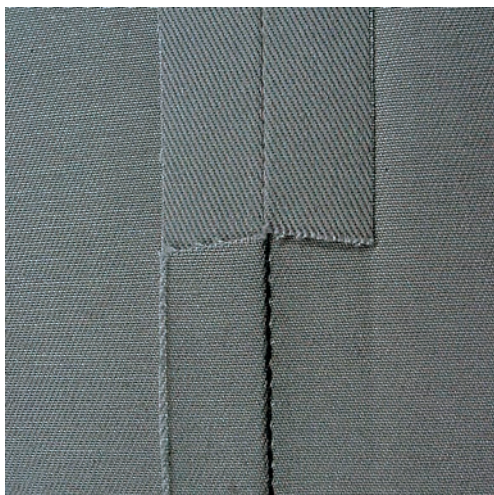
目の詰まった布地や硬い布地を縫う際には、均等なステッチを縫うために90-100番の針を使用することをお勧めします。



- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナー押えNo. 4を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え上げレバーを使用して、押え金を上げ、作品を置きます。
- > ファスナーの端の縫い目の中央から縫い始めます。
- > 縫い目の中央からファスナーの務歯の外側まで斜めに縫います。
- > (1)の側を下から上に向かって縫います。
- > スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを押え金の後ろの位置まで開けます。
- > 押え金を下ろして再び縫います。
- > 針基線を左にします。
- > ファスナーの反対側(2)を同様に下から上に縫います。



6.6 トリプル直線縫い

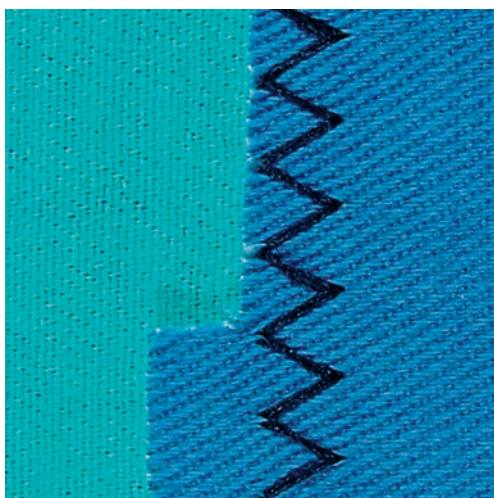


トリプル直線縫いはデニム地やコーデュロイなどの硬い布地や織り目の詰まった布地を縫う際に適しています。硬く目の詰まった織地を縫う際には、ジーンズ押え No. 8を使用することをお勧めします。デニム地や帆布などの硬い布地が縫いやすくなります。飾りステッチをする際には送り長さを長めにします。

- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > トリプル直線縫い No. 6を選択します。



6.7 トリプルジグザグ縫い

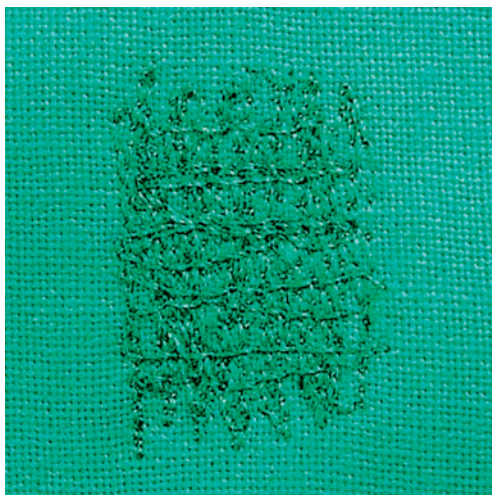


デニム地や家具用生地、帆布などの硬い布地を縫う際に適しています。また、よく洗うものの布端に。布端をまず始めに処理します。

- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > トリプルジグザグ縫い No. 7を選択します。



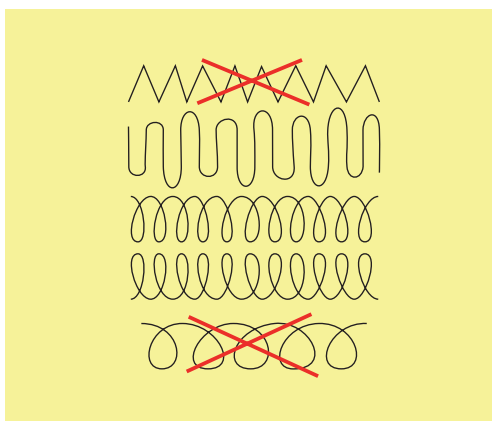
6.8 マニュアル式繕い縫い



マニュアル式繕い縫い穴があいたり、摩耗して薄くなった部分の繕い縫いに。

糸が表側に見えるとステッチが目立ち、きれいな仕上がりになりません。このような場合には、布地をゆっくりと送ります。布地の裏側で糸がダマになってしまう場合には、布地を早く送ります。糸が切れる場合には布地を均等に送ります。

- > 繕い縫い押えNo. 9（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > 《実用縫い》アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 送り歯を下げます。
- > ソーイングテーブルを取り付けます。
- > 布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）に取り付けます。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左から右に縫い、布地を手で均等に送っていきます。
- > 穴が開いたり、糸が切れたりするのを防ぐために、滑らかなカーブを描くようにして布地を動かします。
- > 糸が布地に均等に広がるように、縫う長さをランダムに変えていきます。



- > 最初のステッチはあまり間隔を詰めずに、繕う部分を大きくカバーするように縫います。

6.9 自動繕い縫い



シンプル繕い縫いプログラムNo.22は薄くなった部分や破れた部分を手早く繕う際に適しています。繕う部分に薄いあて布や接着芯などを使用することをお勧めします。シンプル繕い縫いプログラムNo.22は全ての布地の縦方向の繊維を補強します。布地がゆがんしまう場合には、バランスを調整します。

> 標準押えNo.1Cまたは布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。

> シンプル繕い縫いプログラムNo.22を選択します。

> 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。

– 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。

> 左上から縫い始めます。

> 最初の一行を縦に縫います。

> ミシンを止めます。

U

> «返し縫い»ボタンを押します。

– 長さがプログラムされます。

> 繕い縫いがされます。

– ミシンが自動的に停止します。

6.10 自動補強繕い縫い



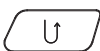
補強繕い縫いプログラムNo. 23は薄くなった部分や破れた部分を手早く繕う際に適しており、。補強繕い縫いプログラムNo. 23は全ての布地の縦方向の繊維を補強します。



繕い縫いプログラムで、破れた箇所全体をカバーできない場合には、布地の位置を変えて、もう一度繕い縫いプログラムを行います。プログラムにセットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。

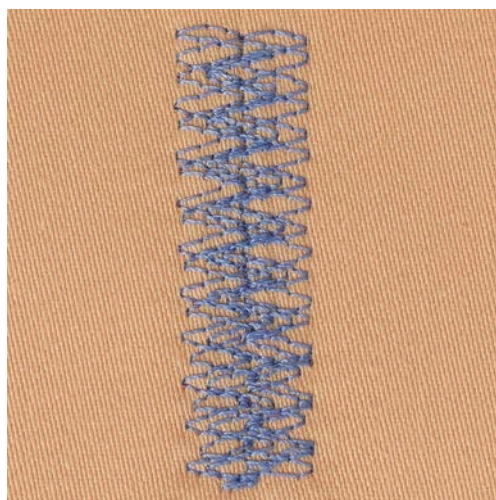


- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > 補強繕い縫いNo. 23を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い»ボタンを押します。
 - 繕い縫いがプログラムされます。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンが自動的に停止します。

6.11 補強繕い縫いプログラム



繕い縫いプログラムNo.34は特にデニム地や作業着などの厚くて硬い布地を繕う際に適しています。



- > 標準押えNo.1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > 繕い縫いプログラムNo.34を選択します。

6.12 布端の処理をする



ジグザグ縫いNo. 2は全ての布地に適しています。また、伸縮性が必要なステッチや飾りステッチとしても使用できます。薄手の布地には繕い縫い用の糸を使用します。サテンステッチには振り幅が0.3 - 0.7 mmの目の詰まった短いジグザグ縫いが向いています。サテンステッチはアップリケや刺しゅうに使うことができます。

前提条件：

- ・ 布端が丸まらないように平らにします。
- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > 「実用縫い」アイコンをタッチします。
- > ジグザグ2番またはサテンステッチ1315番を選択します。
- > 振り幅は広すぎないように、送り長さは長すぎないように設定します。
- > 布地を針が布地と布端の外側に刺さるよう、押え金の真ん中に来るようにセットします。



6.13 ダブルオーバーロック



ダブルオーバーロックステッチは目の粗いニット地やジャージーに適しています。ニット地には、細かい編み目に穴を開けてしまわないよう、新しいジャージー針を使用することをお勧めします。伸縮性のある布地にはストレッチ針を使用します。

- > 標準押えNo.1Cまたはオーバーロック縫い押えNo.2Aを取り付けます。
- > 「実用縫い」アイコンをタッチします。
- > ダブルオーバーロックNo.10を選択します。

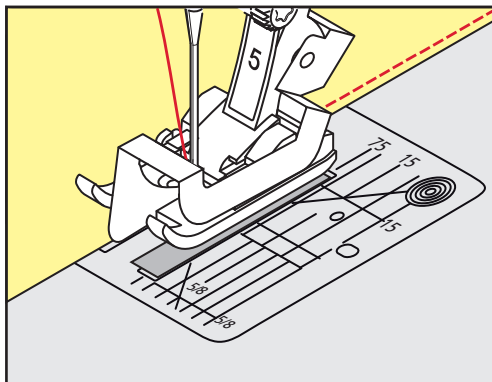


6.14 布端のトップステッチ（小幅）

- > まつり縫い押え No. 5（オプションアクセサリ）、標準押え No. 1Cまたはエッジ縫い押え No. 10/10C（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > 「実用縫い」アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 布端をまつり縫い押えのガイドの左側に合わせます。

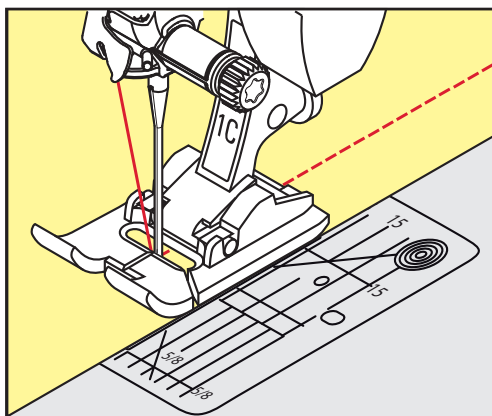


- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



6.15 布端のトップステッチ（大幅）

- > まつり縫い押え No. 5（オプションアクセサリ）、標準押え No. 1Cまたはエッジ縫い押え No. 10/10C（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > 《実用縫い》アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 布端をまつり縫い押えの端または1 - 2.5 cm (0.39 - 0.98 inch)のマーキングに合わせます。
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



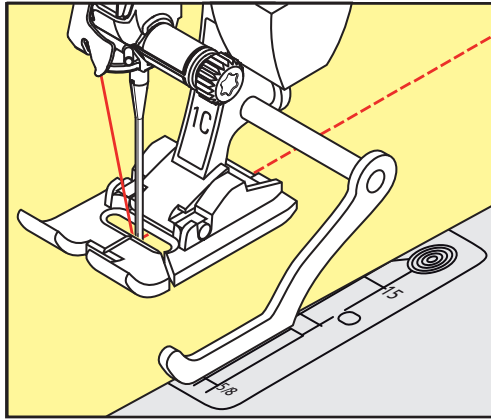
6.16 シームガイド（オプションアクセサリ）を使用したトップステッチ

すでに縫った縫い目に対して、平行で幅の広いトップステッチをする場合には、シームガイド（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

- > 標準押え No. 1Cまたはエッジ縫い押え No. 10/10C（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > 《実用縫い》アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 押え金の後ろのネジを緩めます。
- > シームガイドを押えの穴に差し込みます。
- > 必要な幅に調節します。
- > ネジを締めます。



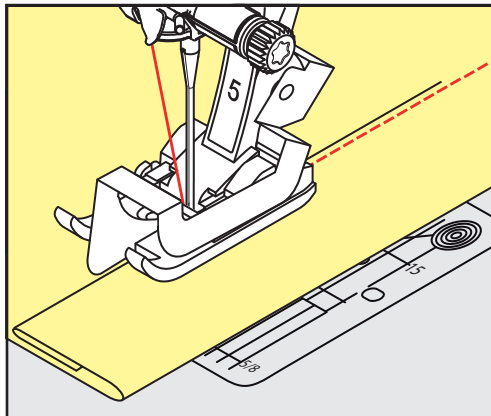
- > 布端をシームガイドに合わせます。



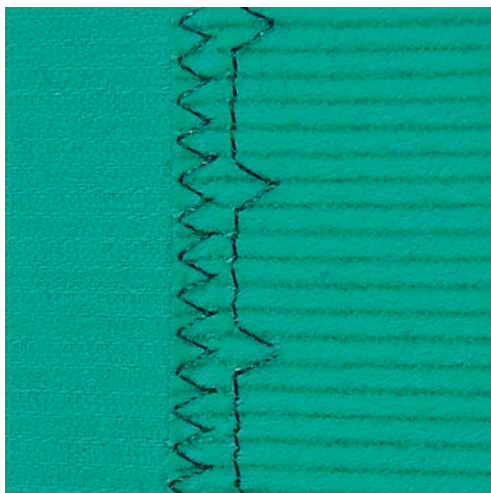
6.17 裾を縫う

まつり縫い押え No. 5を使用する際には、針基線を一番右か一番左にします。標準押え No. 1Cおよびエッジ縫い押え No. 10/10C（オプションアクセサリ）では、全ての針基線が使用できます。

- > まつり縫い押え No. 5（オプションアクセサリ）、標準押え No. 1Cまたはエッジ縫い押え No. 10/10C（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 内側の折り目をまつり縫い押えのガイドの右側に合わせます。
- > 針基線を一番右にし、内側の折り目に沿って縫います。



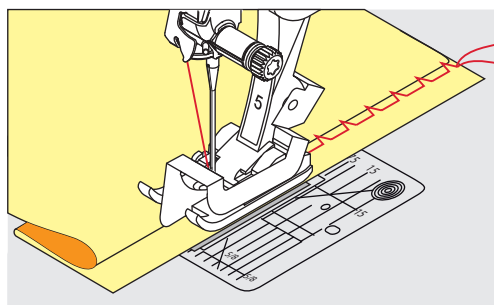
6.18 まつり縫い



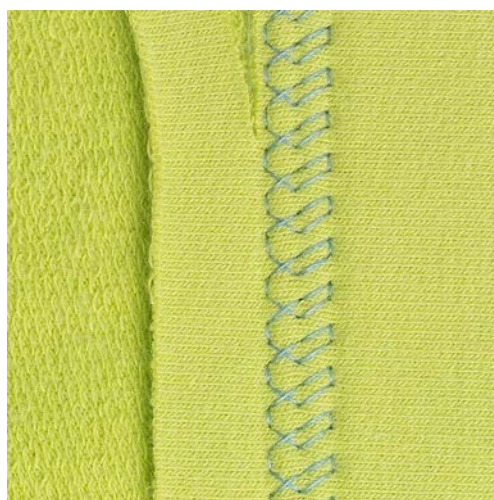
綿、毛および混紡の中厚地～厚地の目立たない縁縫いに。

前提条件：

- ・ 布端の処理をします。
- > まつり縫い押え No. 5 (オプションアクセサリ)を取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > まつり縫い No. 9を選択します。
- > 処理した布端が右側に来るように布地を折ります。
- > 布地を押え金の下に入れ、折り山が押え金のガイドの左側に沿うようにセットします。
- > 折り目の端を押えのガイドに沿って縫うと、均等な位置にかがり縫いをすることができます。
 - 針が折り目の端のぎりぎりの位置に刺さるように注意します。
- > 10 cm(約3.93 inch)ほど縫ったら、布地の表裏をチェックして、必要に応じて再度振り幅を調節します。



6.19 飾りヘムステッチ

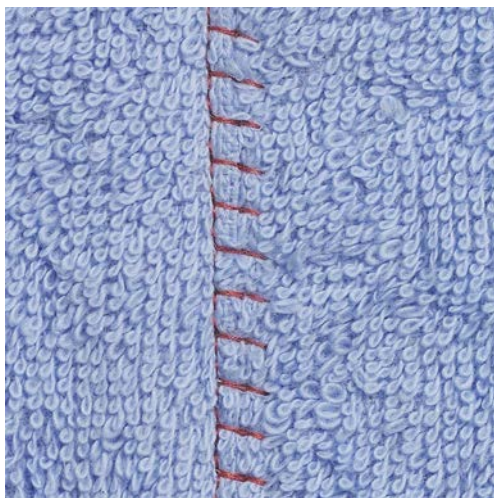


飾りヘムステッチはジャージー、綿、毛、化学繊維および混紡の伸縮性のある布地の裾に向いています。

- > 標準押え No. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > トリコットステッチ No. 14を選択します。
- > 裾にアイロンをかけ、必要であればしつけをします。
- > 押え圧を必要に応じて弱くします。
- > 縫いたい位置に合わせて表側を縫います。
- > 裏側のはみ出た布地を切り落とします。



6.20 フラット縫い

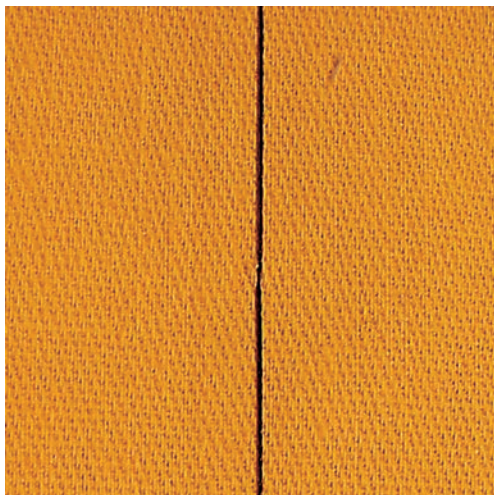


フラット縫いはふわふわしたまたは厚いタオル地やフェルト、皮革などに適しています。

- > 標準押えNo.1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > ストレッチオーバーロックNo.13を選択します。
- > 布端を重ねます。
- > 布端に沿って縫います。
- > 平らで耐久性のあるステッチを縫うには、針が上の布端の右側を超えて、下の布地に刺さるようにします。



6.21 しつけ縫い



しつけ縫いの際には、取り除くのが楽な細いしつけ糸の使用をお勧めします。しつけ縫いは送り長さを長くして縫う際に適しています。

- > 繕い縫い押え No. 9 (オプションアクセサリ) を取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > «実用縫い»アイコンをタッチします。
- > しつけ縫い No. 30を選択します。
- > 布地がずれるのを防ぐために、まち針を横向きに刺して、布地をしつけておきます。
- > 糸を押さえて、はじめに3-4針の留め縫いをします。
- > 一針縫って、必要なステッチの長さだけ、布地を後ろ側に引っ張ります。
- > 一針縫います。
- > 縫い終わりに3-4針の留め縫いをします。



7 飾りステッチ

7.1 飾りステッチについて

布地の種類によって、単純なものから複雑なものまで、その布地に適した様々な飾りステッチがあります。

- ・ステッチ No. 101のような直線縫いでプログラムされた飾りステッチは、特に薄地に適しています。
- ・ステッチ No. 107のようなトリプル直線縫いまたは少しのサテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、特に中厚地に適しています。
- ・ステッチ No. 401のようなサテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、特に厚地に適しています。

きれいな飾りステッチを縫うには、上糸と下糸の色を合わせ、芯地を使用します。タオル地や毛足の長い布地には更に表側に、ステッチを縫った後に簡単に落とせるの水溶性の芯地を使用することをお勧めします。



飾り縫いステッチ	カテゴリ	名称
	カテゴリ 100	自然
	カテゴリ 300	クロスステッチ
	カテゴリ 400	サテンステッチ
	カテゴリ 600	幾何学模様ステッチ
	カテゴリ 700	ホワイトワークステッチ
	カテゴリ 900	キッズ柄ステッチ

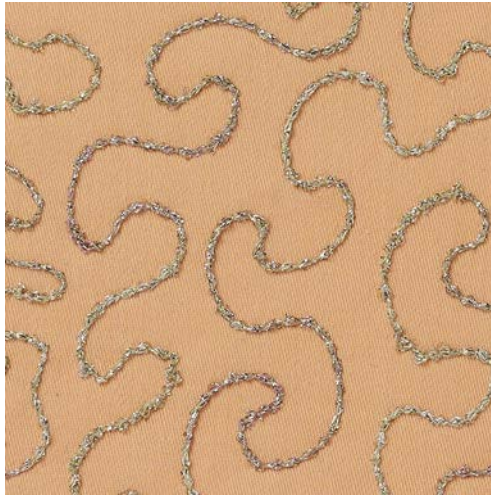
7.2 ボビンマジック

注意

適切でないボビンケースを使用した場合

ボビンケースが破損する恐れがあります。

> ボビンワーク用ボビンケース（オプションアクセサリ）を使用してください。



ボビンに糸以外のコードなどを巻いて縫うことができます。フリーモーションで布地を送ります。通常のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは裏側です。

飾り縫いをする部分は刺しゅう用の安定紙で補強します。デザインは布地の裏側または表側に描きま
す。アウトラインは綿、ポリエステルまたはレーヨンの糸を使い、直線縫いでなぞっておきます。裏側
に出たステッチラインをガイドにしてボビンワークをしていきます。

ボビンワークにBSR機能を使用することができます。作品を一定の速度で均等に動かしてデザインを縫
います。縫い終わったら安定紙を取り除きます。

まず始めに試し縫いをして仕上がりをチェックします。

全ての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな飾りステッチが最も適し
ています。サテンステッチのような目の詰まったステッチやボタンホールなどは避けてください。

> 刺しゅう押え No. 20Cを取り付けます。

> «飾り縫いステッチ»アイコンをタッチします。

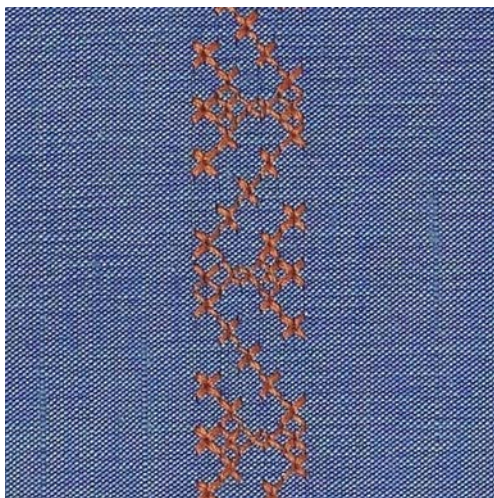
> 適した飾り縫いステッチを選択します。

> 太い糸を使って縫う場合、きれいに仕上げるために、「多機能ボタン 上」および「多機能ボタン 下」を
回して、送り長さを長めに、振り幅を大きめに設定します。

> «上糸調子»アイコンをタッチし、必要であれば上糸調子を調節します。



7.3 クロスステッチ



クロスステッチは伝統的なテクニックで、よく使われる飾りステッチです。リネン生地にクロスステッチを縫い付けると、手刺しゅうのように見えます。クロスステッチに刺しゅう糸を使用すると、ステッチパターンがとてもきれいに仕上がります。クロスステッチはホームデコレーションや洋服の縁飾り、色々な飾り縫いに適しています。最初の列が歪むと、仕上がりに大きく影響するので、一列目をまっすぐに縫うことが重要です。

- > 標準押え No. 1Cまたはオープン刺しゅう押え No. 20Cを取り付けます。
- > カテゴリー300のクロスステッチを選択し、必要であればコンビネーションを作ります。
- > 最初の列を確実にまっすぐに縫うには、シームガイド（オプションアクセサリ）またはエッジストップ（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。
- > 2列目を押え金の幅に合わせるか、シームガイドを使って最初の列の横に縫います。



7.4 ピンタック

ピンタック

ピンタックでは布のサイズが縮小されます。十分な大きさの布地を用意してください。ピンタックは細くつまんだひだを縫ったもので、作品を型紙に合わせてカットする前に前もって縫っておきます。ピンタックは、飾り縫いやホワイトワークなど他の刺しゅうとのコンビネーションに適しています。

ピンタックはコード芯と一緒に縫うと、立体感のある目立った仕上がりになります。コード芯は使用する押え金の溝に合った太さのものを使用します。コード芯は、色落ちしない、縮まないものを選びます。

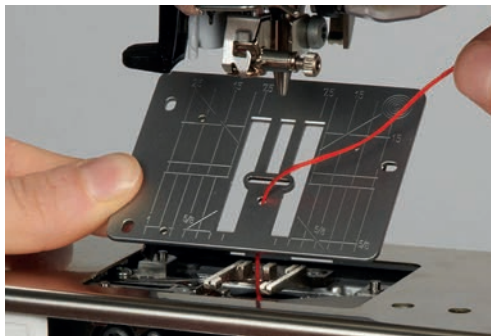
ピンタックについて

ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 30 (オプションアクセサリ)	3本溝 厚地に。 4 mm 幅の二本針
	# 31 (オプションアクセサリ)	5本溝 中厚地から厚地に。 3 mm 幅の二本針

ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 32 (オプションアクセサリ ー)	7本溝 薄地から中厚地に。 2 mm 幅の二本針
	# 33 (オプションアクセサリ ー)	9本溝 極薄地に (ピンタックコードは 使えません)。 1または1.6 mm幅の二本針
	# 46C (オプションアクセサリ ー)	5本溝 1.6 - 2.5 mm 幅の二本針 極薄地から中厚地に。

コード芯をセットする

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > 針板を取り外します。
- > 釜カバーを開けます。
- > コード芯を下から釜部分を通して針板の穴に通します。
- > 針板を再び取り付けます。
- > 釜カバーを閉じます。
- > コード芯は釜カバーの小さな糸通し穴を通るようにします。



- > コード芯の糸こまは押え上げレバーに通します。



- > コード芯がスムーズに引き出されるのを確認します。

- > ソーイング中、コード芯が釜カバーの穴をスムーズに通らない場合には、釜カバーを開けたままにします。

ピンタックを縫う

コード芯は布の裏側に下糸で縫いこまれていきます。

- > 最初のピンタックを縫います。
- > 最初のピンタックを、必要なピンタックの間隔に合った押えの溝の一つに合わせます。
- > 残りのピンタックを最初のピンタックと平行に縫います。

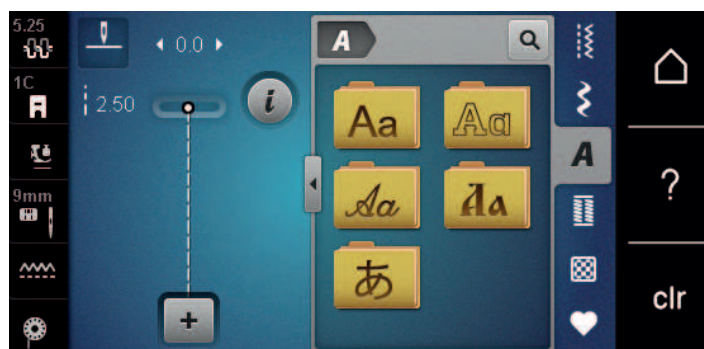


8 アルファベット

8.1 アルファベットについて

ブロック、アウトライン、スクリプトフォントとキリル文字は、2つの異なるサイズで縫うことができます。ブロック、アウトライン、スクリプトのフォント、またキリル文字も小文字で縫うことができます。

きれいなステッチを縫うには、上糸と下糸に同じ色の糸を使用します。作品は裏側を安定紙で補強できます。タオル地や毛足の長い布地にはさらに布地の表側に水溶性の安定紙を使用することをお勧めします。



ステッチパターン	名称
ABCabc	ブロック体
ABCabc	白抜き文字
ABCabc	スクリプトフォント (斜体)
АБВабв	キリル文字
あいう	ひらがな

8.2 文字列を入力する



試し縫いには、実際に作品で使用する糸、布地、安定紙を使用することをお勧めします。また布地にしわが寄ったり、引っかかりたりせずに布送りが均一になるように注意します。ソーイング中には布地を引っ張ったり押し込んだり、押さえたりしないようにします。



- > «アルファベット»アイコンをタッチします。
- > 書体を選択します。



- > «シングル/コンビネーションモード»アイコンをタッチして、コンビネーションを作成します。

- > 《アルファベット表示》アイコン(1)をタッチして、その他の入力モードを表示します。



- > 文字を選択します。
- > アイコン(2)をタッチ（標準設定）すると、大文字になります。
- > アイコン(3)をタッチすると、小文字になります。
- > アイコン(4)をタッチすると、数字の入力ができます。
- > アイコン(5)をタッチすると、特殊記号や算術記号の入力ができます。



- > 《削除》アイコンをタッチすると、入力した文字が一つずつ削除されます。
- > 《アルファベット表示》アイコンをもう一度タッチして、その他の入力モードを閉じます。

8.3 文字の大きさを変更する

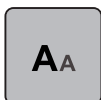
ブロック体、白抜き文字、筆記体、キルト文字、キリル文字およびキリル文字（筆記体）は大きさを変更することができます。



- > 《アルファベット》アイコンをタッチします。
- > 書体を選択します。
- > 文字を選択します。



- > 《i》ダイアログアイコンをタッチします。

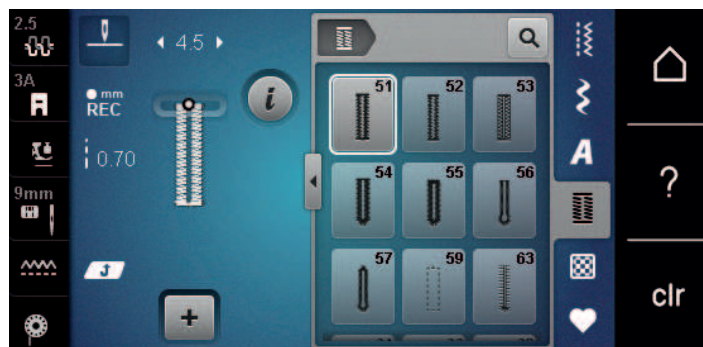


- > 《文字の大きさを変更する》アイコンをタッチして、文字の大きさを小さくします。
- > 《文字の大きさを変更する》アイコンをもう一度タッチすると、文字の大きさが9 mmに拡大されます。






9 ボタンホール

9.1 ボタンホールについて

BERNINA 540はボタンホールのコレクションを豊富に備え、どのボタン、目的、衣服にでも適切なボタンホールを作ることができます。ボタンもミシンで縫うことができます。アイレットも同様に縫うことができます。



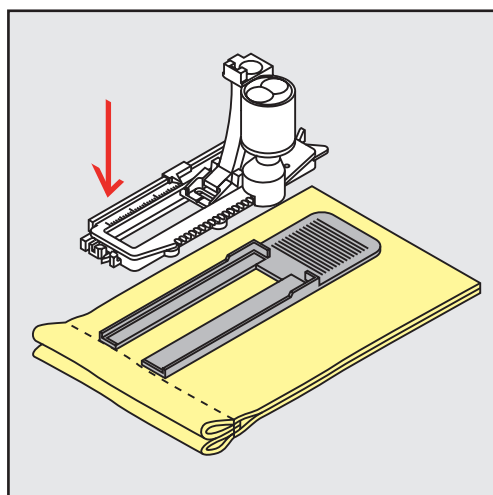
ボタンホール	ボタンホール番号	名称	説明
	51	標準ボタンホール	薄地から中厚地に；ブラウス、ワンピース、ベッドリネンなど。
	52	細いボタンホール	薄地から中厚地に；薄地から中厚地に；ブラウス、ドレス、子供服、ベビー服、手工芸。
	53	ストレッチボタンホール	綿、毛、シルク、化繊でできた伸縮性の高いジャージーなどに。
	54	標準バータック付きラウンドボタンホール	中厚地から厚地に；ワンピース、ジャケット、コート、レインコートなど。
	55	水平バータック付きラウンドボタンホール	中厚地から厚地に；ワンピース、ジャケット、コート、レインコートなど。
	56	はと目ボタンホール	重く伸縮性のない布地に；ジャケット、コート、レジャーウェアなど。
	57	ポイントバータック付きはと目ボタンホール	硬めの伸縮性のない布地に；ジャケット、コート、レジャーウェアなど。
	59	直線縫いボタンホール	ボタンホールの下縫いや補強、ポケットの開口部、本皮、合成皮革のボタンホールに。
	63	手縫い風ボタンホール	薄地から中厚地の織物に；ブラウス、ワンピース、レジャーウェア、ベッドリネンなど。
	64	ダブルラウンドボタンホール	様々な素材の中厚地から厚地に；

ボタンホール	ボタンホール番号	名称	説明
	66	細いダブルポイントバータックのボタンホール	中厚地の飾りボタンホールに；ブラウス、ワンピース、ジャケットなど。
	69	ダブルポイントバータック付き飾りボタンホール	しっかりした非伸縮性の布地の飾りボタンホールに。
	60	ボタン付けプログラム	2つ穴または4つ穴のあるボタンを縫い付けます。
	61	ジグザグアイレット	コードや細い紐の穴に、飾りに。
	62	直線アイレット	コードや細い紐の穴に、飾りに。

9.2 高さ調節板を使用する

ボタンホールをコーナーや段差部に縫うときは、ボタンホール用高さ調節板（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

> 高さ調節板を後ろから布地と押え金の間に差込み、段差のある部分にセットします。

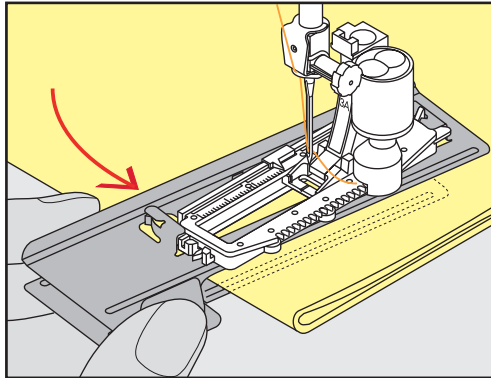


> 押え金を下げます。

9.3 ボタンホール用布送りサポートを使用する

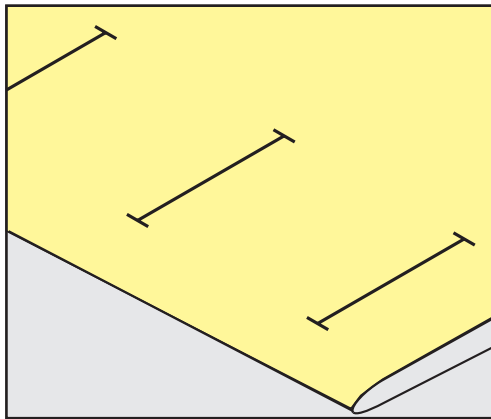
布送りが難しい布地にボタンホールを縫う場合には、ボタンホール用布送りサポート（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。布送りサポートは布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用します。

- > 高さ調節板を横からゆっくりと差し込みます。

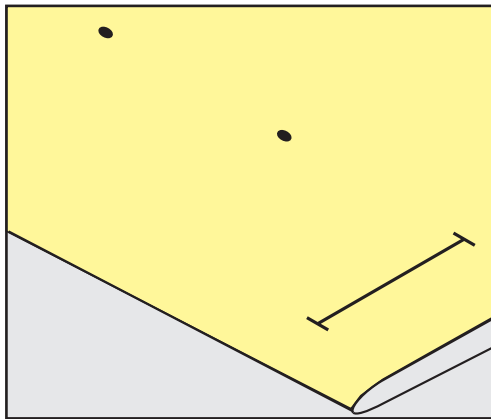


9.4 ボタンホールの印をつける

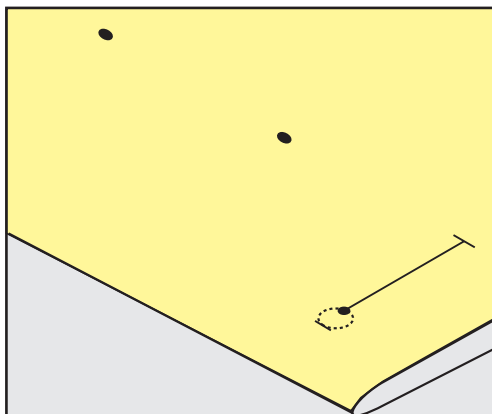
- > 手でボタンホールを縫う場合には、布地に全てのボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性ペンで書きます。



- > 自動でボタンホールを縫う場合には、布地に最初のボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。



- > はと目ボタンホールおよびラウンドボタンホールを縫う場合には、布地にボタンホールの長さをチャコペンまたは水溶性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。はと目の部分はボタンホールの長さに加えて縫われます。



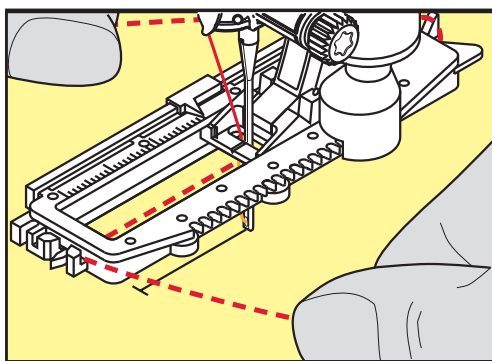
9.5 ボタンホール芯

ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用する

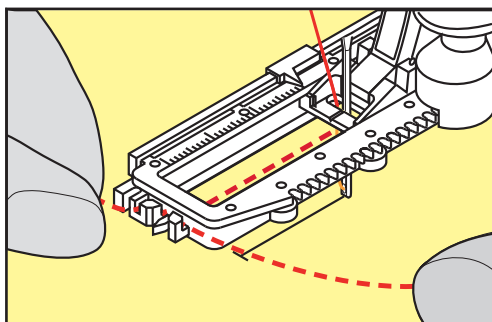
ボタンホール芯はボタンホールの強度を強くまた仕上がりをよくし、特に標準ボタンホールNo. 51に適しています。使用するコード芯はパールコットン刺しゅう糸の8番、強度のある手縫い用糸、およびかぎ編み用糸が理想的です。ボタンホールを縫う際にはボタンホール芯を押さえないようにします。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え 3Aを取り付け、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押えの右下に入れます。
- > ボタンホール芯を押えの後方にあるピンに引っ掛けます。

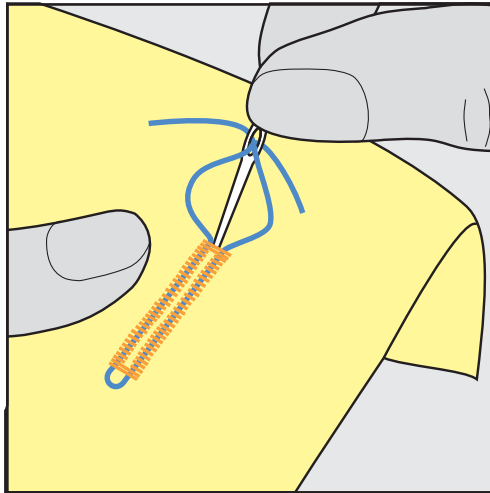


- > ボタンホール芯を押えの左下から前に引っ張ります。



- > ボタンホール芯の端を止め具に引っ掛けます。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。

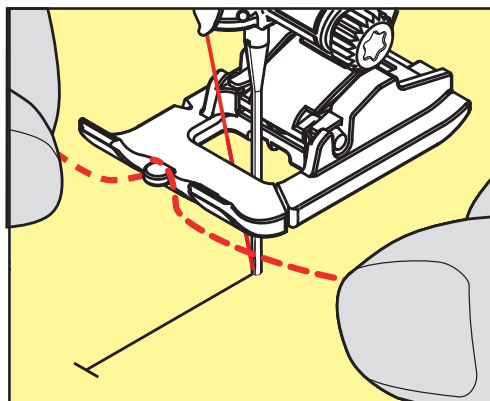
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



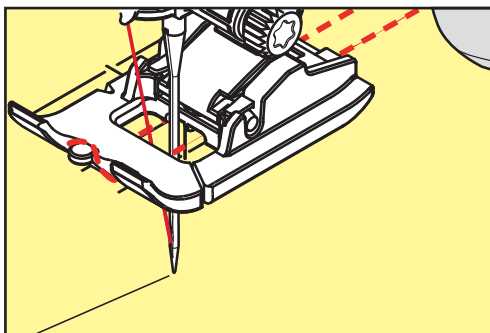
ボタンホール芯をボタンホール押えNo.3C（オプションアクセサリ）と一緒に使用する

前提条件：

- ・ ボタンホール押えNo. 3Cを取り付け、上げておきます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > 押えの前方の突起にボタンホール芯を引っ掛けます。

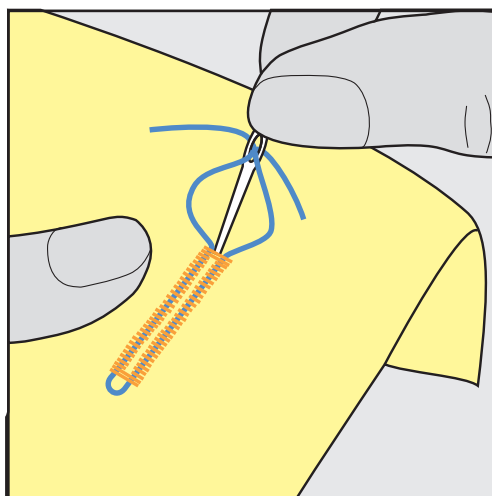


- > ボタンホール芯の両端を押えの後ろにもって行き、それぞれの芯糸を押えの溝に入れます。



- > ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。

- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



9.6 試し縫いをする

ボタンホールの試し縫いをする際には、常に作品と同じ布地を使用します：芯地およびボタンホールの種類も、作品と同じものを使用することをお勧めします。縫う方向も作品に合わせます。試し縫いをして、完璧なボタンホールができるまで設定を調整します。

直線ボタンホール縫い No.59は、柔らかく目の粗い織地や、強度の必要なボタンホールに適しています。皮革やビニール地、フェルトなどにボタンホールを縫う際、下縫いをすることで強度を増すことができます。

手で標準ボタンホール、および自動のはと目ボタンホール、ラウンドボタンホールなどを縫う際にバランスを調節すると、調節は両側の縫い目に均等に有効になります。手動ではと目ボタンホールまたはラウンドボタンホールを縫う際にはバランスは左右対称になります。

ステッチカウンター機能がオンになっていて、バランスの変更をすると、それぞれの穴かがりのバランスが別々に調節されます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタンホールを選択します。
- > 使用したい押え金を取り付けます。
- > 布地を押え金の下に入れ、押え金を下げます。
- > フットコントローラーを軽く踏んで縫い始めます。布地を軽く持ってスムーズに送ります。
- > ソーイング中にバランスをチェックして、必要があれば調節します。
- > 試し縫いしたボタンホールをチェックして、必要に応じてその他の設定を調整します。

9.7 ボタンホールの穴幅を設定する

ボタンホールの穴幅を0.1-2.0 mmの間で設定することができます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «ボタンホールの穴幅»アイコンをタッチします。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、ボタンホールの穴幅を設定します。

9.8 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決める



ディスプレイの下部の黄色い丸枠の真ん中に直接ボタンを当てます。「多機能ボタン 上/下」を回すと、黄色い丸枠の大きさが変わり、ボタンの直径を測ることができます。

ボタンの直径には自動的に2 mmが加算され、ボタンホールの長さが出ます。例えば、ボタンの直径が14 mmの場合、ボタンホールの大きさは16 mmと計算されます。

前提条件：

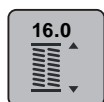
- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを取り付けます。



- > 「ボタンホール」アイコンをタッチします。
- > ボタンホールを選択します。



- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「ボタンホールの長さを設定する」アイコンをタッチします。
- > 「多機能ボタン 上」または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの長さを設定します。

9.9 ボタンホール押えNo. 3Cを使用して、ボタンホールの大きさを決める

ボタンホール押えNo. 3Cを使用する場合には、ステッチカウンター機能でボタンホールの長さを決定します。ステッチカウンター機能は全てのボタンホールに適しています。ボタンホールの左側は前進で、右側は後進で縫われます。バランスが変更された場合には、それぞれのボタンホールでステッチカウンター機能を新しく保存しなおす必要があります。

前提条件：

- ・ ボタンホール押えNo.3C（オプションアクセサリ）を取り付けます。



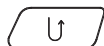
- > 「ボタンホール」アイコンをタッチします。
- > ボタンホールを選択します。



- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。

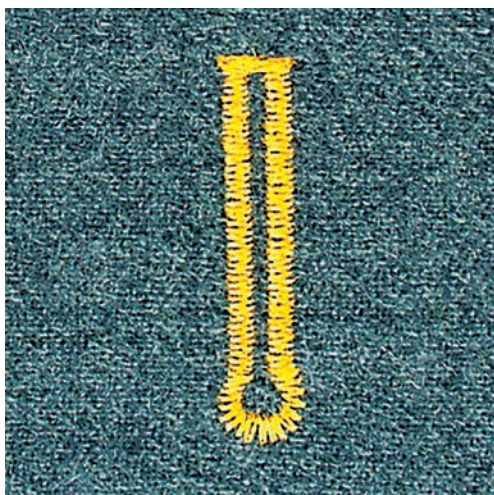
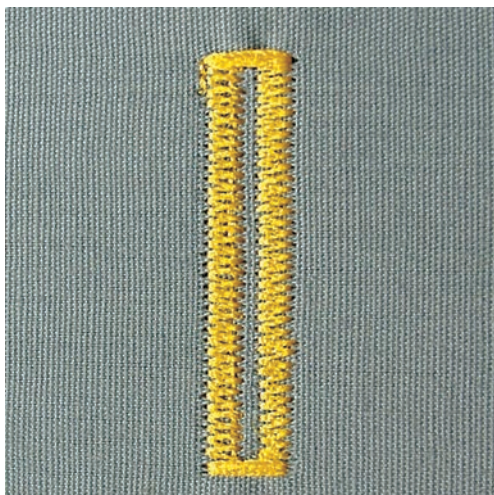


- > 「ステッチカウンター機能で長さをプログラムする」アイコンをタッチします。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
- > ミシンを止めます。



- > 「返し縫い」ボタンを押すと、ミシンが手前のパータックと反対側の穴かがりを後進で縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > 「返し縫い」ボタンをもう一度押すと、ミシンが奥側のパータックを縫って留め縫いをします。
 - － ボタンホールの長さは、ミシンの電源を切るまで保存されるので、続けて同じボタンホールを縫うことができます。

9.10 ボタンホールを自動で縫う



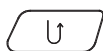
布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを使用すると、押え金の下についたセンサーでボタンホールの長さが自動的に計測されます。同じ大きさのボタンホールを正確にコピーすることができます。布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aはボタンホールのタイプによって4 - 31 mmのボタンホールを縫う際に適しています。長さを正確に測るために、布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aが布地に対して平行に接していなければなりません。プログラムされたボタンホールは全て同じ長さできれいに縫われます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え 3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタンホール No. 51 - 59, No. 63, 64, 66または69を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い»ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。



- > «スタート/ストップ»ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

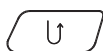
9.11 手縫い風ボタンホールをプログラムする

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え 3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタンホールNo.63を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い»ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

9.12 ボタンホール押さえ No. 3Cを使用して手動7ステップボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび«返し縫い»ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押さえNo.3C（オプションアクセサリ）を取り付けます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタンホールNo. 51を選択します。



- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «長さをマニュアルで設定する»アイコンをタッチします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - ステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ3が表示されます。
 - ミシンが逆方向に直線縫いをします。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンが奥側のバータックを縫って、自動的に止まります。
- > «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かがりを縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ6が表示されます。
 - ミシンが手前側のバータックを縫って、自動的に止まります。
- > «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ7が表示されます。
 - ミシンが留め縫いをして、自動的に止まります。

9.13 ボタンホール押さえ No. 3Cを使用して手動5ステップボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび「返し縫い」ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押さえNo.3C（オプションアクセサリ）を取り付けます。



- > 「ボタンホール」アイコンをタッチします。
- > ボタンホールNo. 54を選択します。



- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「長さをマニュアルで設定する」アイコンをタッチします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - ステップ2がアクティブになります。

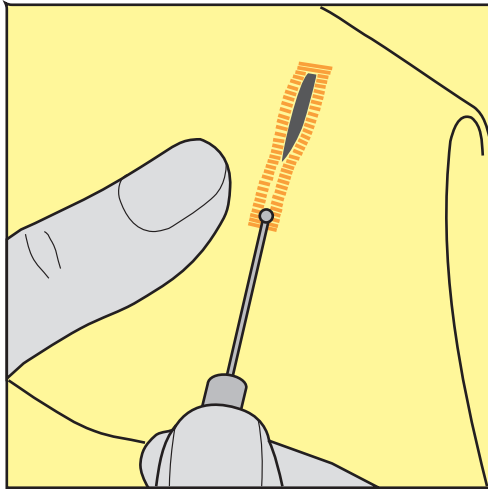


- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」アイコンをタッチすると、ステップ3が表示されます。
- > ミシンがバータックまたははと目を縫って、自動的に止まります。
- > 「スクロール 下」アイコンをタッチすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かがりを後進で縫います。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」アイコンをタッチすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンが奥側のバータックを縫って留め縫いをし、自動的に止まります。

9.14 ボタンホールをシームリッパーで切り開く

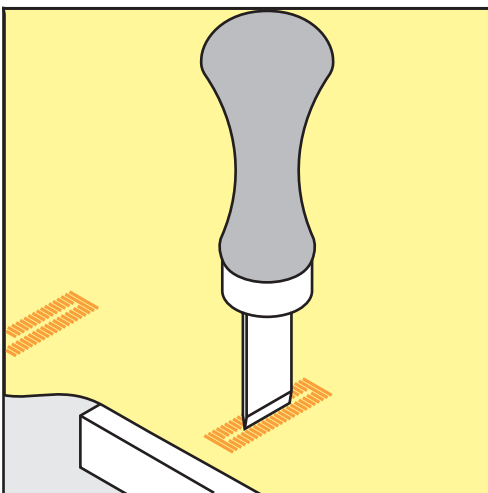
- > バータックを切らないように、両端にまち針を刺しておきます。

- > ボタンホールの両端から真ん中に向けて、ボタンホールを切り開いていきます。



9.15 ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く

- > ボタンホールを木片などの上に置きます。



- > ボタンホールカッターをボタンホールの真ん中に合わせます。
- > ボタンホールをカッター下へ強く押しします。

9.16 ボタンを縫い付ける

ボタン付けプログラムでは2つ穴または4つ穴のボタン、およびスナップボタン、留め具などを縫い付けることができます。

推奨ソーイングプログラム： ボタン付けプログラムNo. 60

推奨押え金： ボタン付け押え No.18（オプションアクセサリ）

使用できる押え金：

- ・ 標準押えNo. 1または1C
- ・ 繕い縫い押え No.9（オプションアクセサリ）
- ・ 標準押えNo. 34または34C（オプションアクセサリ）

糸足の調節

厚地にボタンを付ける場合には、糸足（ボタンと布地の間の隙間）を長くします。

薄地にボタンを付ける場合、また飾りボタンの場合には、糸足を作らずに縫い付けます。

注意！ 糸足の調節は、ボタン付け押えNo. 18を使用した場合にのみできます。

- > ボタン付け押えのネジを緩めます。
- > 押え金の爪を布地の厚さに合わせて調節します。
- > ネジを締めます。

ボタンを縫い付ける

前提条件：

- ・ 糸足を布地の厚さに合わせて調節します。
- ・ ボタン付け押えNo. 18 またはその他のボタン付けに使用できる押え金を取り付けます。
- ・ 取り付けした押え金をユーザーインターフェースで選択します。
- ・ 送り歯を下げます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > ボタン付けプログラムNo. 60を選択する。
- > はずみ車を回して、下糸を上に出します。
- > **注意！ ボタン付けプログラムでは常に左側のボタン穴から縫い始めます。**
ボタンを布地の上に置きます。ボタンと布地を針の下に、針が左側のボタン穴に刺さるように置きます。
4つ穴ボタンの場合には、まず始めに手前の2つのボタン穴を縫ってから、奥の2つのボタン穴を縫います。
- > 押え金を下げます。
- > はずみ車を回して、左側のボタン穴に針を刺します。
- > 針が右側のボタン穴に移動するまで、はずみ車を回します。針が右の穴に当たるかどうかを確認します。必要に応じて、多機能ボタン 上を回して振り幅を調節します。
- > 糸を押さえ、フットコントローラーを踏みます。
 - ミシンがボタンを縫い付け、自動的に停止します。
- > ボタンをよりしっかりと縫い付けたい場合には、ボタン付けプログラムをもう一度行います。
- > ミシンの糸切りで糸を切ります。または、作品をミシンから引っ張り、ハサミで糸を切ります。上糸を布地の裏に引き出し、下糸と一緒に結びます。

9.17 アイレットを縫う



2重に縫うと、きれいなアイレットが縫えます。

前提条件：

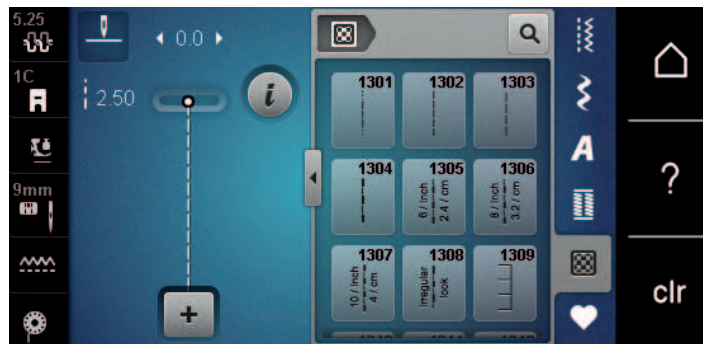
- ・ 標準押えNo.1Cまたはオープン刺しゅう押えNo.20Cを取り付けます。



- > «ボタンホール»アイコンをタッチします。
- > アイレットプログラムNo.61またはNo.62を選択します。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、アイレットの大きさを変更します。
- > アイレットプログラムを縫います。
 - ミシンはアイレットプログラムを縫うと、自動的に止まります。
- > 目打ちやパンチプライヤー、穴あけなどでアイレットの穴を開けます。

10 キルティング

10.1 キルトステッチについて



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明
	1301	キルティング、縫製プログラム	縫い始めと縫い終わりに前進で短い留め縫いをします。
	1302	キルティング、直線縫い	長さ3 mmの直線縫い。
	1303	パッチワークステッチ／直線縫い	長さ2 mmの直線縫い。
	1304 - 1308	手縫い風キルトステッチ	モノフィラメント糸を使用した手縫い風のステッチ。
	1309 - 1314	ブランケットステッチ	アップリケや飾りリボンの縫い付けに。
	1317 - 1327 1329 - 1342 1344, 1345	飾りキルトステッチ	"クレイジー・パッチワーク"および飾り縫いに。
	1315	サテンステッチ	アップリケに。
	1316	細いまつり縫い	まつり縫いに。
	1331	スティップリングステッチ／蛇行ステッチ	スティップリング模様。
	1332	フェザーステッチ	"クレイジー・パッチワーク"および飾り縫いに。
	1333 - 1338	フェザーステッチのバリエーション	"クレイジー・パッチワーク"および飾り縫いに。

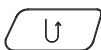
10.2 キルティング用留め縫いプログラム

前提条件：

- ・ 標準押えNo.1Cを取り付けます。

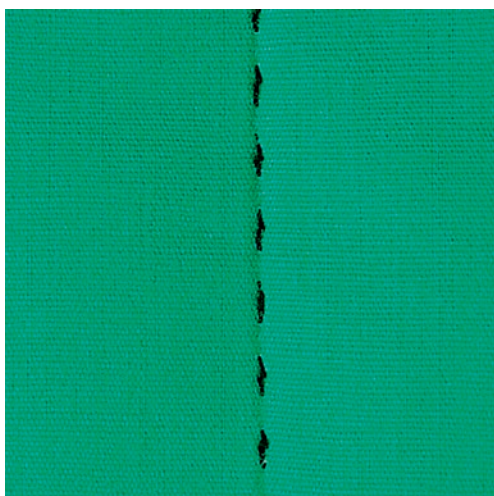


- > «キルトステッチ»アイコンをタッチします。
- > キルトステッチNo.1301を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - 縫い始めにミシンが自動的に、前進で6針の留め縫いをします。



- > 必要な長さを縫います。
- > «返し縫い»ボタンをタッチします。
 - ミシンが自動的に、前進で6針の留め縫いをし、止まります。

10.3 手縫い風ステッチを縫う



手縫い風ステッチは、全ての布地、手縫い風に見せたい作品に適しています。上糸にはモノフィラメント糸を、下糸には刺しゅう糸を使用することをお勧めします。モノフィラメント糸が切れないように、ソーイングスピードは遅めに設定します。必要に応じて、上糸調子やバランスを作品や使用するキルトステッチに合わせて調節します。

前提条件：

- ・ 標準押え No. 1Cを取り付けます。



- > «キルトステッチ»アイコンをタッチします。
- > 手縫い風キルトステッチ No. 1304 - 1308を選択します。
- > 必要に応じて、上糸調子やバランスを調節します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。

10.4 フリーモーションキルティング



滑り止め付きキルト用手袋（オプションアクセサリ）を使用すると、布送りが簡単になります。

ソーイングテーブルと押え上げレバーの使用をお勧めします。フリーモーションキルティングは中心から外に向かって縫っていき、作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。フリーモーションキルティングと繕い縫いは、同じ原理の手法です。

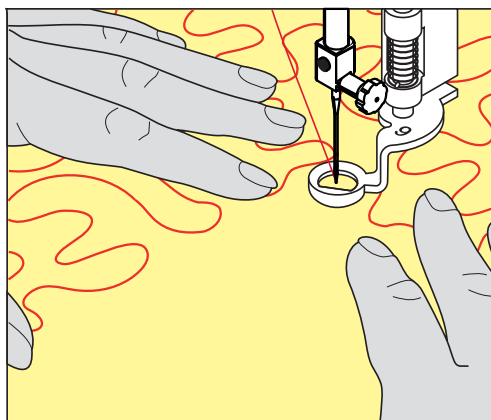
ステッピング模様は布地全体がキルトステッチで埋められます。キルティングのラインは丸く、ステッチ同士が交差しないように気をつけます。

前提条件：

- ・ キルトの表地、キルト芯、キルトの裏地をしっかりと留めておきます。
- ・ 送り歯を下げます。
- ・ 繕い縫い押えNo.9（オプションアクセサリ）を取り付けます。



- > 《実用縫い》アイコンをタッチします。
- > 直線縫いNo. 1を選択します。
- > 必要に応じて上糸調子とバランスを調節します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。
- > 両手を枠のようにして押え金の側で布を押えます。
- > 糸が表側にたまる場合は、布送りを遅くします。
- > 裏側に糸ダマができる場合は、布送りを速くします。



11 ベルニナステッチレギュレーター(BSR)

ベルニナステッチレギュレーターは人気のフリーモーションソーイングでの送り長さを一定に保ちます。BSR押えをフリーモーションソーイングで使用すると、全てのステッチの長さが均一に保たれ、作品の見た目をきれいに仕上げることができます。

BSR押えが取り付けられ、送り歯が下げられると、ミシンのディスプレイ上に選択可能なモードが表示されます。BSR押えは直線縫い、ジグザグ縫いのどちらにも使用できます。

BSR押えは布地の動きに反応し、布を動かすことで最高速度までの範囲でミシンのスピードをコントロールできます。その際：布地を早く動かせば、ミシンのスピードも速くなります。

布地の動きが速すぎると、警告音が鳴ります。警告音は「BSR」ディスプレイでオン/オフの設定ができます。警告音はセットアッププログラムからもオン/オフの設定ができます。

11.1 BSRモード1

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。BSRモードをスタートさせます。押え金の赤いランプが点灯します。布地を動かすことによって、ミシンのスピードをコントロールします。布地の動きを止めると、何もしなくてもその場で留め縫いをすることもできます。フットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンを使用する場合には、BSR 1モードは自動的に終了しません。

11.2 BSRモード2

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。ミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、「スタート/ストップ」ボタンが押されるのと同時に、布地を動かすことによって動き出します。布地の動きが止まってから約7秒後にBSR 2モードはオフになります。押え金の赤いランプは、「スタート/ストップ」ボタンでの操作時にのみ消え、フットコントローラーでの操作時には消えません。

11.3 BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する

この機能を使用して、4 mmまでの送り長さの直線縫いを使用したフリーモーションキルティングができます。設定した送り長さは一定の速度までは、布地の動きに関係なく保たれます。

11.4 BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する

ジグザグステッチはスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチでは送り長さは保たれませんが、BSR機能が作業を簡単にします。

11.5 キルティングの準備をする

BSR押えを取り付ける

前提条件：

- ・ ミシンがオフになっていること。
 - ・ 針が上がっていること。
 - ・ 押え金が上がっていること。
- > 据え付けられている押え金を外します。
- > BSR押えを取り付けます。

- > ケーブルのプラグを、BSRコネクタ(1)に垂直にカチッと音がするまで差し込みます。



- > ミシンの電源を入れます。
 - BSRディスプレイが開き、BSR1モードがオンになります。

押え底を交換する

注意

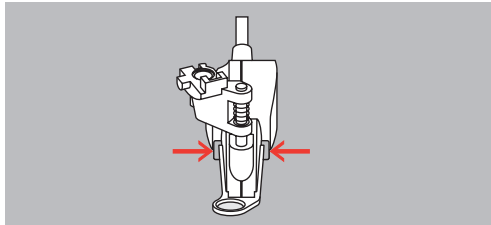
BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

- > センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

送り長さの標準設定は2 mmです。小さい模様を縫う場合、ステッピングをする場合には、送り長さを1-1.5 mmにすることをお勧めします。

- > 針を上げます。
- > BSR押えを上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > BSR押えを外します。
- > BSR押えの横のボタンを両方押します。



- > 押え底を下に引き、はずします。
- > 新しい押え底をしっかりとハマるまで上に押し込みます。
- > BSR押えを取り付けます。

11.6 BSRモードを使用する

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作ができます。

フットコントローラーで縫う：キルティング中はフットコントローラーを踏んだままにします。布地を動かさなくても、フットコントローラーから足を離すまではBSR 1モードが機能しています。

BSR2モードでキルティングを中止すると、針位置によってはミシンがもう一針縫って針位置を上にしてから停止します。

前提条件：

- ・ ソーイングテーブルを取り付けます。
- ・ 押え上げレバーを取り付けます。

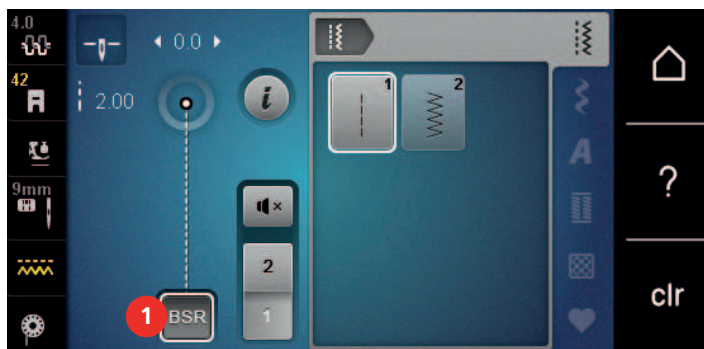
- > 送り歯を下げます。
- > 使用したいBSRモードを設定します。
- > 押え金を下げます。



- > 「スタート/ストップ」ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込み、踏んだままにして、BSRモードをスタートさせます。
 - BSR押えの赤いランプが点灯します。



- > 布地を動かし、BSRモードでミシンのスピードをコントロールします。
- > 「スタート/ストップ」ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーから足を離して、BSRモードを終了します。
 - BSRモードが終了し、押え金の赤いランプが消えます。
- > 「BSR」アイコン(1)をタッチして、BSRモードをオフにすると、通常のフリーモーションキルティングができます。



11.7 留め縫い

BSR1モードで、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSR 1モードがオンになっている。

- > 送り歯を下げます。
- > 押え金を下げます。
- > 「針上/下」ボタンを2回押します。
 - 下糸が出てきます。



- > 上糸と下糸を押えます。
- > 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
 - BSRモードがスタートします。



- > 5-6針留め縫いをします。
- > 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
 - BSRモードが終了します。
- > 糸を切ります。



BSR2モードでの留め縫い

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSR 2モードがオンになっている。

- > 押え金を下げます。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «留め縫い»アイコンをタッチします。



- > フットコントローラーを踏み込むか、「スタート/ストップ」ボタンを押します。



布地を動かすことによって、短いステッチが数針縫われた後、設定した送り長さがオンになり、留め縫い機能は自動的にオフになります。

12 マイベルニナ刺しゅう

12.1 刺しゅう機について



- | | | | |
|---|--------------|---|------------|
| 1 | 取り外しレバー／ハンドル | 4 | ミシンへの固定用金具 |
| 2 | 刺しゅうアーム | 5 | ミシンへの接続プラグ |
| 3 | 刺しゅう枠取り付け用金具 | | |

12.2 刺しゅう機付属アクセサリー

刺しゅう機の付属アクセサリーについて



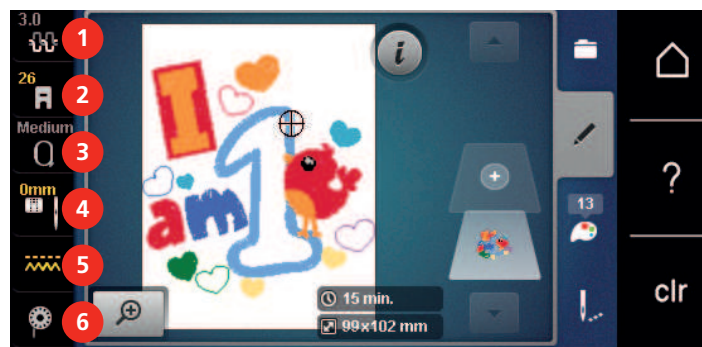
図	名称	用途
	刺しゅう押え # 26	刺しゅうや繕い縫い、フリーモーションキルティングなどに。
	楕円形大型刺しゅう枠	広範囲の刺しゅうモチーフや 145 x 255 mm (5.70 x 10.04 in)以下の大きさの刺しゅう コンビネーションに。 布地の取り付けを正確にする、 テンプレート付き。

図	名称	用途
	中型刺しゅう枠	100 x 130 mm (3.94 × 5.12 in) 以下の中型のモチーフを刺しゅうする際に。 布地の取り付けを正確にする、 テンプレート付き。
	USB接続ケーブル	データをパソコンからマシンに取り込む際に使用します。
	刺しゅう針セット	刺しゅうに。
	テンプレート用つまみ	刺しゅうテンプレートを刺しゅう枠に取り付けたりはずしたりする際に使用します。
	糸こまネット	糸こまから滑りやすい刺しゅう糸の送りを均等に保ちます。

12.3 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



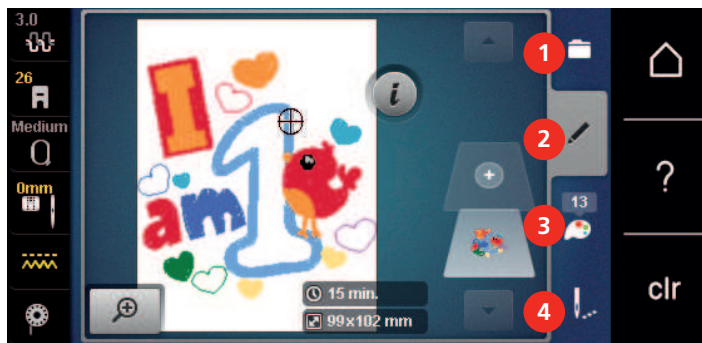
- | | | | |
|---|-----------------|---|---------|
| 1 | 上糸調子 | 4 | 針板／針選択 |
| 2 | 押え金表示／押え金選択 | 5 | 送り歯 上／下 |
| 3 | 刺しゅう枠選択／刺しゅう枠表示 | 6 | 下糸の通し方 |

システム設定について



- | | | | |
|---|-------------|---|---------|
| 1 | ソーイングモード | 5 | エコモード |
| 2 | 刺しゅうモード | 6 | ホーム |
| 3 | セットアッププログラム | 7 | ヘルプ |
| 4 | チュートリアル | 8 | 基本設定に戻る |

刺しゅう選択メニューについて



- | | | | |
|---|-------------|---|---------|
| 1 | 刺しゅうモチーフの選択 | 3 | 色情報 |
| 2 | 刺しゅうモチーフの編集 | 4 | 刺しゅうをする |

12.4 刺しゅうについての重要事項

上糸

刺しゅうの仕上がりをよくするために、また糸切れを起こさないために、高品質の刺しゅう糸を使用してください。

上糸を光沢のある細い刺しゅう糸にすることで、刺しゅうが特にきれいに仕上がります。多種多様で多彩な刺しゅう糸があります。

- ・ 光沢のあるポリエステル糸は色あせがなく、強度もあり、あらゆる刺しゅうに適しています。
- ・ レーヨン糸は輝きのある細い天然繊維から作られており、あまり強度を必要としない繊細な刺しゅうに向いています。
- ・ メタリック糸は細～中細の光沢のある糸で、刺しゅうに特殊効果を与えます。
- ・ メタリック糸を使用する際には、糸切りの刃が痛むのを防ぐため自動下糸切り機能をオフにし、その他の糸切りも使用しないでください。

- ・メタリック糸で縫う際には、スピードを遅くし、上糸調子を緩めます。



下糸

ほとんどの場合、刺しゅうの下糸には黒か白の糸を使用します。刺しゅうの表と裏を同じように仕上げたい場合には、上糸と下糸の色を合わせます。

- ・ポビン用下糸は特になややかな細いポリエステル糸で、刺しゅうの下糸に適しています。この特殊な下糸を使用することによって糸調子が安定し、上糸と下糸のバランスが最適になります。
- ・手縫い糸と刺しゅう糸はシルケット加工された木綿糸で、綿素材の布地に刺しゅうする際に適しています。



刺しゅうデータフォーマットの選択

ベルニナ刺しゅう機が刺しゅうモチーフを読み込めるように、刺しゅうモチーフのデータはベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用して作成し、エクスポートする必要があります。刺しゅうデータ自身に加えて、BMPデータおよびINFデータが生成されます。BMPデータは刺しゅうモチーフのプレビュー用に、INFデータには糸の色情報が保存されています。**ヒント：**INFデータがないと、刺しゅうモチーフが正しい糸の色ではなく、標準色のみで表示されてしまいます。この場合、モチーフの色一覧からミシンに正しい色を取り込む必要があります。

さらに以下のフォーマットをミシンで読み込むことができます：PES、PEC、XXX、PCS、JEF、DST。ベルニナインターナショナル株式会社は、ベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用した以外で作成およびコンバートされた刺しゅうモチーフについては、正しいデータの読み込みとモチーフが正しく刺しゅうされることを保証いたしません。

ステッチ数の少ないシンプルな刺しゅうモチーフは、薄地に適しています。色を多く使い、多方向に広がる目のつまった刺しゅうモチーフには、中地や厚地の布地を選びます。

試し縫い

試し縫いは、常に作品と同じ布地と安定紙を使用します。また、実際に使用する糸や針を使用することをおすすめします。

刺しゅうモチーフの大きさ

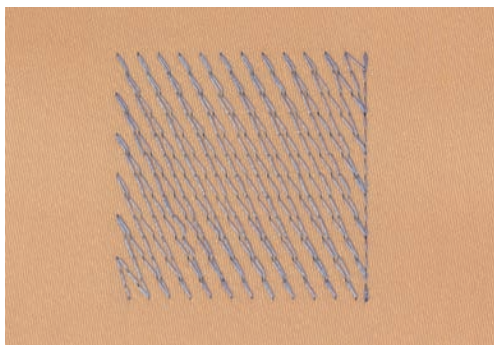
刺しゅうモチーフは刺しゅう機またはパソコンでベルニナの刺しゅうソフトウェア（オプション）を使用して、サイズの変更ができます。20%以内の拡大・縮小が最適な仕上がりになります。

サードパーティーからのモチーフを刺しゅうする

BERNINAはどんなフォーマットのデータでも、ミシンまたはUSBメモリーに保存する際、無料プログラム「ART-Link」を利用することをお勧めします。「ART-Link」を使用することで、刺しゅうモチーフが正しく読み込まれ、刺しゅうできるようになります。「ART-Link」は、www.bernina.comから無料でダウンロードすることができます。

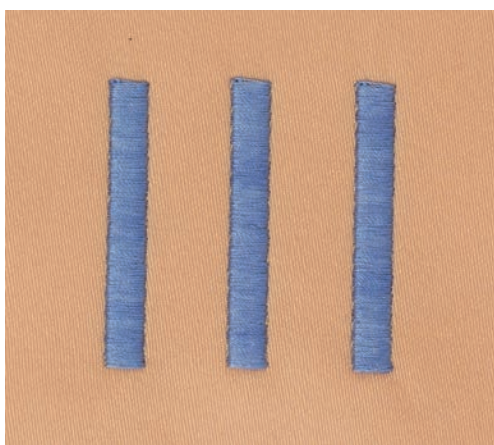
アンダーレイステッチ

アンダーレイステッチは刺しゅうモチーフの基礎となり、布地を安定させ、型くずれを防ぎます。また、ニットなどの生地にステッチが埋もれてしまうのを防ぎます。



サテンステッチとリーフステッチ

サテンステッチでは、細かくジグザグ縫いをして、刺しゅうモチーフを縫います。サテンステッチは、小さなモチーフのスペースを埋める際に適しています。ステッチの幅を広くすると、糸が浮き、布地が隙間から見えてしまいます。また、浮いた糸が絡まったり、引っ張られたりして、刺しゅうモチーフが乱れてしまう恐れがあります。

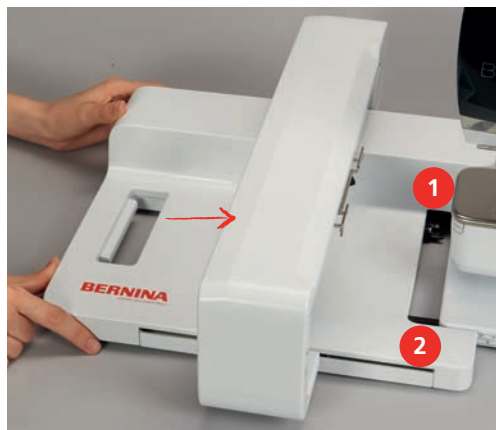


13 刺しゅうの準備

13.1 刺しゅう機を取り付ける

前提条件：

- ・ スライドテーブルを取り付けてはなりません。
- > 刺しゅう機とミシンを安定した、平らなテーブルなどの作業台に置きます。
- > 刺しゅうアームが動くのに十分なスペースを確保します。
- > 刺しゅう機を左から右にゆっくりとスライドさせて、ミシンの接続部(1)およびガイドレール(2)に取り付けます。



13.2 刺しゅう機を取り外す

- > 刺しゅう機のキャリングハンドル部分にある取り外しレバー(1)を押したまま、刺しゅう機をゆっくりと左に引っ張って取り外します。



13.3 ミシンの準備をする

送り歯を下げる

- > 送り歯を下げるには、「送り歯ボタン上/下」を押します。



- > ストレートおよびカットワークの針板（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > 針を取り付けます。
- > 刺しゅう押えを取り付けます。

刺しゅうモチーフを選択する

全ての刺しゅうモチーフはそのまま刺しゅうするか、あるいは刺しゅう機が提供する様々な機能を使って変更することができます。全ての刺しゅうモチーフは、刺しゅうモチーフ一覧で見ることができます。さらにユーザーメモリーやベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に保存された刺しゅうモチーフも使用することができます。



- > 「ホーム」アイコンをタッチします。



- > 「刺しゅうモード」アイコンをタッチします。
- > アルファベット、刺しゅうモチーフ、または独自の刺しゅうモチーフのためのフォルダを選択します。



- > 刺しゅうモチーフのカテゴリーを開くには、フォルダを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを選択するには、一覧をめくって希望の刺しゅうモチーフのを選ぶか、または
- > 「番号で選択」アイコンをタッチして刺しゅうモチーフの番号を入力し、白枠で囲まれた刺しゅうモチーフを選択します。



13.4 刺しゅう押え

刺しゅう押えを取り付ける

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。(1)

- > 押え金を取り外します。(2)



- > 刺しゅう押えを下から差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に下げます。

刺しゅう押えをユーザーインターフェースで選択する

刺しゅう押え（刺しゅう押えNo.26、付属アクセサリ）を取り付ると、ユーザーインターフェースで選択し、ミシンに保存することができます。さらに、選択した刺しゅうモチーフに合う、その他の押え金も表示されます。

- > ミシンの電源を入れます。
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 《押え金表示／押え金選択》アイコンをタッチします。
- > 取り付けた刺しゅう押えを選択します。



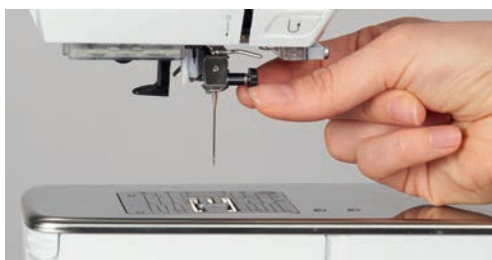
13.5 針と針板

刺しゅう針を取り付ける



刺しゅう針130/705 H-SUKは、大きな針穴と、軽く丸まった針先をしており、レーヨンや木綿糸の糸切れを防止します。刺しゅう糸によって、針の番手はNo.70-SUKからNo.90-SUKをお勧めします。

- > 針を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 押え金を外します。
- > 針取り付けネジを緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針取り付けネジを締めます。

刺しゅう針をユーザーインターフェースで選択する

針を交換すると、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。



- > 「針／針板選択」アイコンをタッチします。
- > 取り付けした針を選択します。



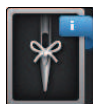
- 選択した針が針板に適している場合には、刺しゅうを始めることができます。
- 選択した針が針板に適していない場合には、ミシンが自動的に動かないようになります。

針のタイプと番手を選択する

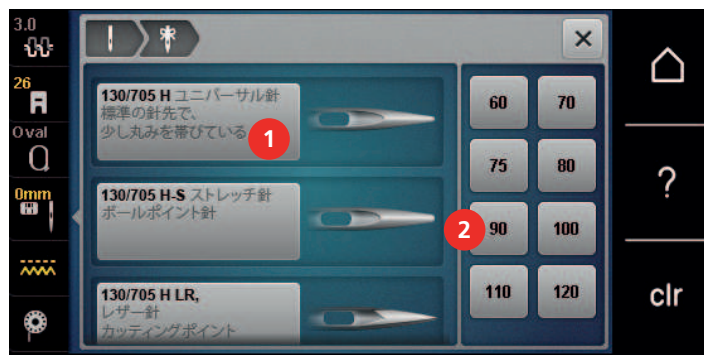
便利なメモリー機能：針のタイプと番手を、ミシンに保存することができます。保存した針のタイプと番手はいつでも確認することができます。



- > 「針板／針選択」アイコンをタッチします。



- > 「針のタイプ／番手」アイコンをタッチします。
- > 現在取り付けられている針のタイプ(1)を選択します。
- > 現在取り付けられている針の番手(2)を選択します。



針位置 上／下を設定する



- > 糸を上げるには、「針 上／下」ボタンをタッチします。
 - 針が一度上下します。

針板を取り付ける

針板カットワーク／ストレート（オプションアクセサリ）には針の領域に小さな穴があります。この小さな穴を通して上糸と下糸のバランスが最適になり、ステッチの仕上がりを良くします。

- > «送り歯 上/下»ボタンを押して、送り歯を下げます。



- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > 針板を取り外します。
- > カットワーク/直線縫い用針板（オプションアクセサリ）の穴を、それぞれのピンに合うように置き、カチッとほまるまで押し下げます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認することができます。

- > «針板/針選択»アイコンをタッチします。
- > カットワーク/直線縫い用針板（オプションアクセサリ）を選択します。



下糸を上を持ってくる

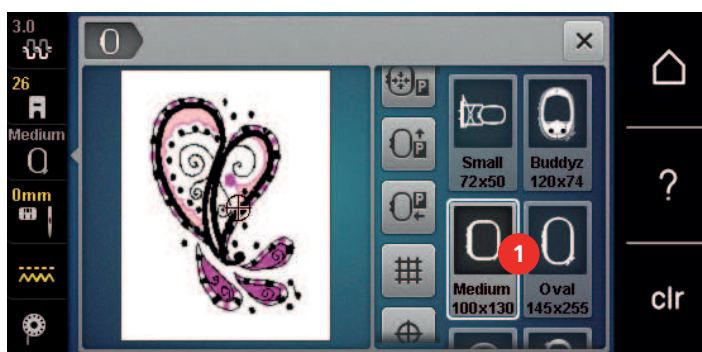
刺しゅうをする準備ができたなら、下糸を上を持ってくることができます。下糸はワンステップで上に持つことができ、糸は手動で結びます。留め縫いが必要ない場合には、セットアッププログラムから留め縫いプログラムをオフにします。



- > 上糸を押さえます。
- > «針 上/下»アイコンをタッチします。
 - 下糸が自動的に上に上がってきます。

13.6 刺しゅう枠

刺しゅう枠の表示について



1 刺しゅう枠の表示

刺しゅう枠を選択する

刺しゅうモチーフに対してできる限り小さい刺しゅう枠を選択することで、モチーフがきれいに仕上がります。

刺しゅうモチーフに設定された大きさが表示されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフを選択します。

> «刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。

- － ミシンが自動的に刺しゅうモチーフの大きさに合った刺しゅう枠を選択します。選択された刺しゅう枠が使用できない場合、その他の刺しゅう枠を選択することができます。取り付けられた刺しゅう枠がミシンが表示した刺しゅう枠でない場合、この刺しゅう枠が有効になり、刺しゅうモチーフの範囲が変更されます。

> 使用したい刺しゅう枠を選択します。

破り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。破り取る安定紙は伸縮性のない全ての織地に適しています。必要に応じて1~2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙はゆっくりと破り取ります。

切り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。切り取る安定紙は全ての伸縮性のある布地に適しています。必要に応じて1~2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙は切り取ります。

スプレーのりを使用する

スプレーのりの使用は、伸縮性のある布地や滑りやすい布地、ニット地に刺しゅうをする際にお勧めします。スプレーのりは布地がずれたり滑ったりするのを防ぎます。アップリケなどの細かいパーツの位置がしっかりと決まります。ミシンが汚れないように、スプレーのりはミシンの側では使用しないようにしてください。

> スプレーのりは25 – 30 cm (9 – 12 inch)離れたところから安定紙にスプレーします。

> 布地とスプレーのりをつけた安定紙を、しわがよらないようにくっつけます。

> ズボンのポケットや襟などの小さなパーツを、安定紙に固定する際に。

> パイル地やポーラーフリースなど、刺しゅう枠を使用すると枠の跡が残ってしまうような布地を使用する際には、布地を固定した安定紙を代わりに刺しゅう枠にセットします。

> 刺しゅうをした部分を定着させます。

> ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

スプレー洗濯のりを使用する

スプレー洗濯のりは、薄手の柔らかい布地や目の粗い布地に張りを与える際に使用します。布地の裏には更に安定紙を使用します。

- > 布地にスプレー洗濯のりをスプレーします。
- > 布地を良く乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

アイロン接着芯を使用する

アイロン接着芯には、様々な厚さのものがあります。布地から簡単にはがせる接着芯を使用することをお勧めします。アイロン接着芯は、トリコットやジャージーのような伸縮性のある、歪みやすい薄手の布地に適しています。

- > アイロンをかけて、接着芯を布地の裏側にくっつけます。

のり付き安定紙を使用する

のり付き安定紙は、ジャージーやシルクのような薄地や、刺しゅう枠にセットしにくい部分などに使用します。

- > 安定紙の台紙の部分が上に来るように、刺しゅう枠にセットします。
- > 台紙にはさみなどで切れ込みをいれ、はがします。
- > 布地を安定紙の上に置き、くっつけます。
- > ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

水溶性安定紙を使用する



レース刺しゅうでは、1 - 3枚の水溶性安定紙を刺しゅう枠に付けて刺しゅうします。レース刺しゅうは、土台の布がなく、刺しゅうモチーフのみが作品となります。そのため刺しゅうモチーフは全体がつなぎステッチで連結されていなければ出来上がりの際にモチーフがばらばらになってしまうので、注意が必要です。

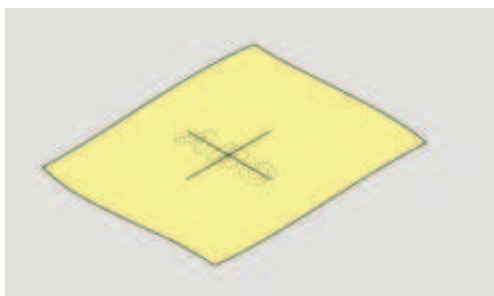
水溶性安定紙は、他の安定紙が透けて見えるような薄い布地およびレース刺しゅうに適しています。水溶性安定紙は刺しゅうをした後に水で洗い、取り除きます。パイル地のような布地の毛足を傷つけないためには、水溶性安定紙が特に適しています。また、糸が沈んで土台布が見えてしまうのを防ぐことができます。

- > 布地の裏側に安定紙を置きます。
- > 必要に応じてスプレーのりを使用します。
- > 花柄生地の表側を適切な安定紙で更に補強し、必要に応じてしつけで固定します。
- > 安定紙と布地を刺しゅう枠に張ります。
- > 刺しゅう後に刺しゅうモチーフを洗い流し、平らに広げて乾かします。

刺しゅう枠を準備する

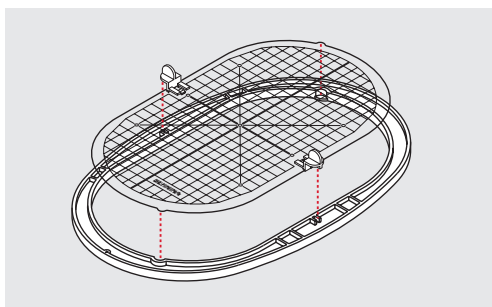
刺しゅう枠には外枠と内枠があります。それぞれの刺しゅう枠に専用のテンプレートが付属しています。刺しゅう可能な範囲には、1 cm (0.39 inch)のグリッド線が描かれています。中央の線の中心と端には穴が開いています。布地の必要な部分に印をつけることができます。

- > 刺しゅうモチーフの中央に水性ペンで印をつけます。

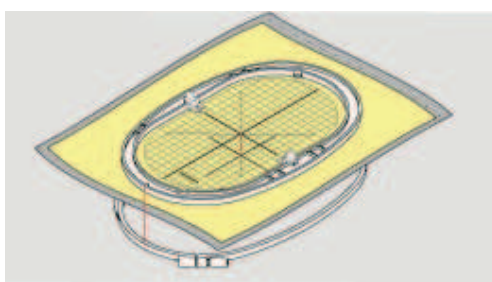


- > 外枠の取り付けネジを緩めます。
- > 内枠を取り外します。
- > 取り付けの際に、内枠と外枠の矢印が合うようにします。
- > テンプレートホルダーを取り付けます。

- > テンプレートを枠のBERNINAのロゴと矢印が合うように内枠にセットします。



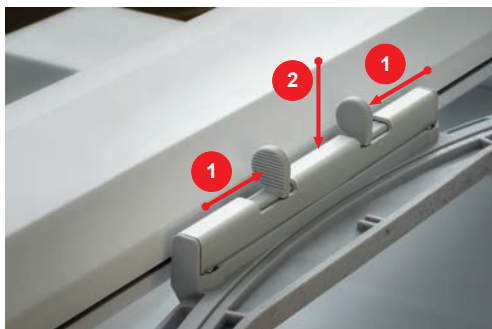
- > 布地を内枠の下にセットします。
- > 刺しゅうモチーフの中心をテンプレートの中心に合わせます。
- > 内枠と外枠の矢印が合うように、布地と内枠を外枠の上に乘せます。



- > 布地がずれないように、二つの枠を重ねます。
- > 布地を刺しゅう枠に張ります。
- > ネジを締めます。
- > テンプレートをテンプレート用つまみを持って持ち上げ、刺しゅう枠からはずします。
- > 外枠に布地と内枠をセットする際、フリーアームを傷つけない為に、布地が1 mm程度下に出るようにセットします。

刺しゅう枠を取り付ける

- > 針を上げます。
- > 刺しゅう押えを上げます。
- > 選択した刺しゅう枠に張った布の表が上側に、取り付け金具が左側に来るようにして持ちます。
- > 刺しゅう枠を刺しゅう押えの下に入れます。
- > 刺しゅう枠取り付け金具のつまみ(1)を両側から挟んで押します。
- > 刺しゅう枠(2)を刺しゅうアームの取り付け金具にはめます。
- > 刺しゅう枠がはまるまで、下に押します。
- > つまみ(1)を放します。



- > 刺しゅう枠取り付け金具のつまみを両側から挟んで押します。
- > 刺しゅう枠を取り外します。

刺しゅう機能について



- | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|
| 1 | 針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する | 4 | グリッド線の表示／非表示 |
| 2 | 刺しゅう枠を後ろへ移動する | 5 | 刺しゅうモチーフの中心 |
| 3 | 刺しゅう機を待機させる | 6 | 刺しゅう枠ポジション（スクロールで表示） |

針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する

針が刺しゅう枠の近くにある際、刺しゅう枠が動くことで、上糸の糸通しがしやすくなります。

> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。



> «針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する»アイコンをタッチします。

> 上糸をかけます。



> «スタート/ストップ»ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。

刺しゅう枠を後ろへ移動する

ポピンを簡単に交換するために、糸通しをする前に刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことをお勧めします。刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことで、釜カバーが開けやすくなります。

> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう枠を後ろへ移動する»アイコンをタッチします。

> 下糸をかけます (参照ページ: 42)。



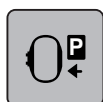
> «スタート/ストップ»ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。必要に応じて、上糸を引き戻します。

刺しゅう機を待機させる

刺しゅう機を接続したままでソーイングができるよう、刺しゅう機を待機させることができます。

> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。

> 刺しゅう枠を取り外します。



> «刺しゅう機を待機させる»アイコンをタッチします。



> «ホーム»アイコンをタッチします。



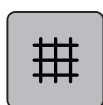
> «ソーイングモード»アイコンをタッチします。

グリッド線の表示／非表示

刺しゅう枠の中心とグリッド線表示することで、刺しゅうモチーフの位置決めを正確にすることができます。



> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。



> «グリッド線の表示／非表示»アイコンをタッチすると、刺しゅう枠の中心がディスプレイに表示されます。

> «グリッド線の表示／非表示»アイコンをもう一度タッチすると、グリッド線が表示されます。

> «グリッド線の表示／非表示»をもう一度タッチすると、刺しゅう枠の中心とグリッド線が非表示になります。

刺しゅうモチーフの中心を選択する

刺しゅう枠は針が刺しゅうモチーフの中心またはモチーフの始まりに来る位置に移動することができます。



> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフの中心»アイコンをタッチすると針が刺しゅうモチーフの中心に来るように刺しゅう枠が移動します。

> «刺しゅうモチーフの中心»アイコンをもう一度タッチすると、針がモチーフの始まりの上に来るように刺しゅう枠が移動します。

刺しゅう枠の位置を仮に決める

刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に、刺しゅう枠は自動的に新しい位置へと移動します。刺しゅう枠を取り付けると、「刺しゅう枠ポジション»アイコンが自動的にオンになり、黄色い枠で囲まれます。

前提条件：

- ・ 刺しゅう枠を取り付けます。



> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう枠ポジション»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオフになります。

– «刺しゅう枠ポジション»アイコンは黄色い枠で囲まれていない状態になります。

> «刺しゅう枠ポジション»アイコンをもう一度タッチすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオンになります。

14 セットアッププログラム

14.1 刺しゅう機能の設定をセットアッププログラムで変更する

詳細は、刺しゅう機能の設定をご覧ください刺しゅう機能の設定。

15 クリエイティブな刺しゅう

15.1 刺しゅうについて



- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|----------------|
| 1 | 刺しゅう時間／刺しゅうモチーフの大きさ
(単位：mmまたはinch) | 4 | 「i」ダイアログ |
| 2 | 刺しゅうモチーフ表示の拡大・縮小／移動 | 5 | 刺しゅうモチーフレイヤー機能 |
| 3 | 刺しゅう範囲 | | |

15.2 刺しゅうモチーフの選択と呼び出し

> 「選択」アイコンをタッチします。



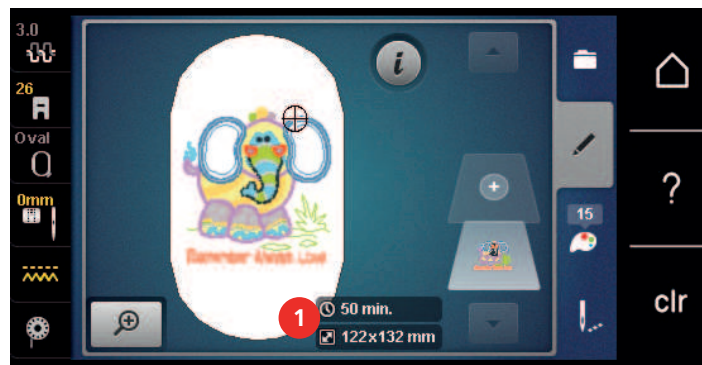
> 「刺しゅうモチーフを呼び出す」アイコンをタッチします。

> 新しい刺しゅうモチーフを選択します。



15.3 刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの大きさを確認する

「編集」画面の右下(1)に、推定刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの幅×長さがミリメートルまたはインチで表示されます



15.4 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

> スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。

> スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

15.5 刺しゅうモチーフを編集する

刺しゅうモチーフの編集について

> 刺しゅうモチーフを編集するには、刺しゅうモチーフを選択します。



> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 表示を縮小する | 8 模様反転 左/右 |
| 2 表示を拡大する | 9 模様反転 上/下 |
| 3 表示を移動する | 10 コピー |
| 4 モチーフの移動 | 11 消去 |
| 5 モチーフの移動 | 12 刺しゅうモチーフの大きさを確認する |
| 6 刺しゅうモチーフを回転させる | 13 ステッチのタイプ/刺しゅう密度を変更する |
| 7 サイズを変更する | |

刺しゅうモチーフ表示の拡大

刺しゅうモチーフの表示は拡大することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせるすることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を拡大する»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



> «表示を拡大する»アイコンを1～4回タッチすることで、刺しゅうモチーフの表示が段階的に拡大されます。



> «表示を縮小する»アイコンを1～4回タッチすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを縮小する

刺しゅうモチーフの表示は縮小することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせるすることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を拡大する»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



> «表示を縮小する»アイコンを1～4回タッチすることで、拡大された刺しゅうモチーフの表示が段階的に縮小されます。

刺しゅうモチーフの表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせるすることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を拡大する»アイコンをタッチすると、「表示を移動する»アイコンがアクティブになります。



– «ビューを移動»アイコンがアクティブ（濃いグレー）であること

> 刺しゅうモチーフのビューを移動します。

– 刺しゅうをする位置は変更されません。



> «表示を縮小する»アイコンをタッチすると、編集モードに戻ります。

拡大した刺しゅうモチーフ表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせて移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「パターンを移動」アイコンを表示するには、「ビューを拡大」アイコンをタッチします。



- > 「モチーフの移動」アイコンをタッチします。
 - アイコンが灰色になります。
- > 刺しゅうモチーフのビューを移動します。
 - 刺しゅうをする位置が変更されます。



- > 「表示を縮小する」アイコンをタッチすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを移動する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「モチーフの移動」アイコンをタッチします。
- > 「多機能ボタン 上」を回すと、刺しゅうモチーフが横（平行方向）に1/10 mm単位で移動します。
- > 「多機能ボタン 下」を回すと、刺しゅうモチーフが縦（垂直方向）に1/10 mm単位で移動します。
- > または刺しゅうモチーフにタッチして、ドラッグすることで移動します。
 - 移動した位置が黄色い枠で囲まれたアイコンに表示されます。



- > 「刺しゅうモチーフの中心」アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうモチーフが再び刺しゅう枠の中心に移動します。

刺しゅうモチーフを回転させる

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「刺しゅうモチーフを回転させる」アイコンをタッチします。
- > 「多機能ボタン 上」または「多機能ボタン 下」を右に回すと、刺しゅうモチーフは時計回りに回転します。
- > 「多機能ボタン 上」または「多機能ボタン 下」を左に回すと、刺しゅうモチーフは反時計回りに回転します。



- > 「刺しゅうモチーフを90° ずつ回転させる」アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフは90° ずつ回転します。

刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»アイコンをタッチします。



- > 刺しゅうモチーフのサイズを比例的に変更するには、「比率を維持」アイコンが白枠で囲まれている必要があります。
このアイコンが白枠で囲まれていない場合にのみ、「比率を維持」アイコンをタッチします。
 - «比率を維持」アイコンが白枠で囲まれていること。



- > «多機能ボタン 上/下»を右に回すと、刺しゅうモチーフが拡大されます。
- > «多機能ボタン 上/下»を左に回すと、刺しゅうモチーフが縮小されます。

刺しゅうモチーフの大きさを変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»アイコンをタッチします。



- > 刺しゅうモチーフのサイズを不均衡に変更するには、「比率を維持」アイコンが白枠で囲まれていなくても構いません。
- このアイコンが白枠で囲まれている場合のみ、「比率を維持」アイコンをタッチします。
- 「比率を維持」アイコンが白枠で囲まれていないこと。



- > 刺しゅうモチーフの幅を広くするには、「多機能ボタン 上」を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフの幅を狭くするには、「多機能ボタン 上」を左に回します。
- > 刺しゅうモチーフを長くするには、「多機能ボタン 下」を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフを短くするには、「多機能ボタン 下」を左に回します。

刺しゅうモチーフを反転させる

刺しゅうモチーフは垂直／横方向、水平／縦方向どちらにも反転することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「模様反転 左/右」アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが垂直方向に反転します。



- > 「模様反転 上/下」アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが水平方向に反転します。

文字列を曲げる

文字列を弓のように曲げることができます。

- > 文字列の刺しゅうモチーフを作成します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「文字列を曲げる」アイコンをタッチします。
- > 「多機能ボタン 上」を回すと、文字間をミリメートル単位で変更することができます。
- > 「多機能ボタン 下」を左または右に回すと、文字列が上または下に曲がります。

ステッチの種類を変更する

サテンステッチが長すぎる場合には、たたみ縫いに変更することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。





> «ステッチの種類を変更する»アイコンをタッチします。



- > ディスプレイ上部のスイッチ(1)をタッチすると、リーフステッチをたたみ縫いに変更することができます。
- > 必要なステッチの長さ(2)を、「-」または「+」アイコンをタッチして設定します。

ステッチの密度を変更する

サテンステッチの密度が高すぎる場合、調整をすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



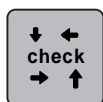
- > «ステッチの種類を変更する»アイコンをタッチします。
- > 必要なステッチの密度(1)を「-」または「+」アイコンをタッチして設定します。



刺しゅうモチーフの大きさと位置を確認する

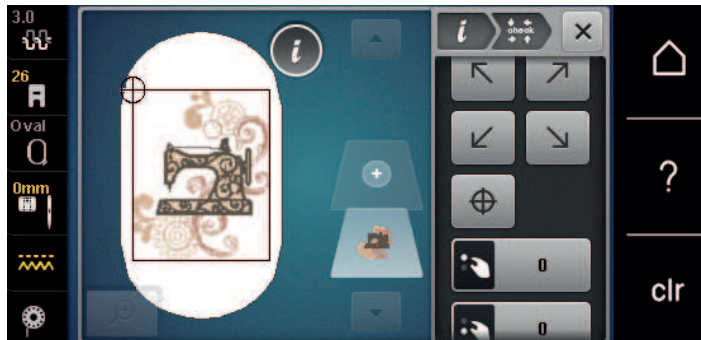
刺しゅうモチーフが刺しゅうをする布地の位置に合うか、確認することができます。刺しゅう枠に入りきらない部分は刺しゅうをすることができません。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを確認する»アイコンをタッチします。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。
- > «左上角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの左上の角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。
- > «右上角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの右上の角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。
- > «左下角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの左下の角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。

- > 「右下角」アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの右下の角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。刺しゅうモチーフが正しい位置にない場合には、「多機能ボタン 上/下」を回して、刺しゅうモチーフの位置を変更し、再び位置の確認をします。



- > 「刺しゅうモチーフの中心」アイコンをタッチすると、針が刺しゅうモチーフの中心に移動します。
- > 「多機能ボタン 上」を回すと、刺しゅうモチーフが横（水平）方向に移動します。
- > 「多機能ボタン 下」を回すと、刺しゅうモチーフが縦（垂直）方向に移動します。

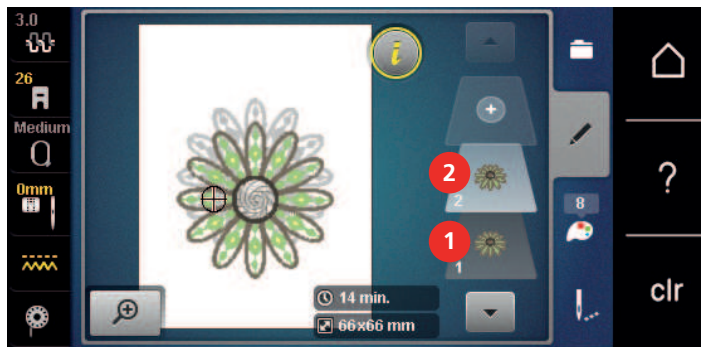
刺しゅうモチーフを複製する

アクティブな刺しゅうモチーフが複製されます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「コピーする」アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうモチーフ(1)が複製(2)されます。



刺しゅうモチーフを削除する

選択されている刺しゅうモチーフが削除されます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「i」ダイアログアイコンをタッチします。



- > 「消去」アイコンをタッチします。

15.6 刺しゅうモチーフのコンビネーション

刺しゅうモチーフのコンビネーション

コンビネーションモードでは、複数の刺しゅうモチーフのコンビネーションが作成できます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。



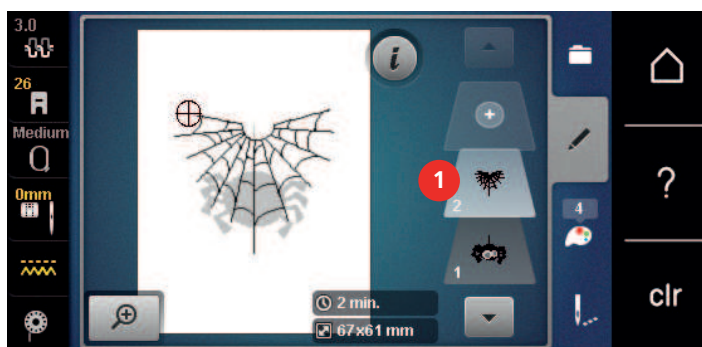
- > «刺しゅうモチーフの追加»アイコン(1)をタッチします。
- > 次の刺しゅうモチーフを選択します。



刺しゅうモチーフを一つずつ消去する

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフのコンビネーションが作成されている。
- > 刺しゅうモチーフレイヤー機能(1)から、消去したい刺しゅうモチーフをタッチして、外にドラッグします。
 - 新しいウィンドウが開きます。

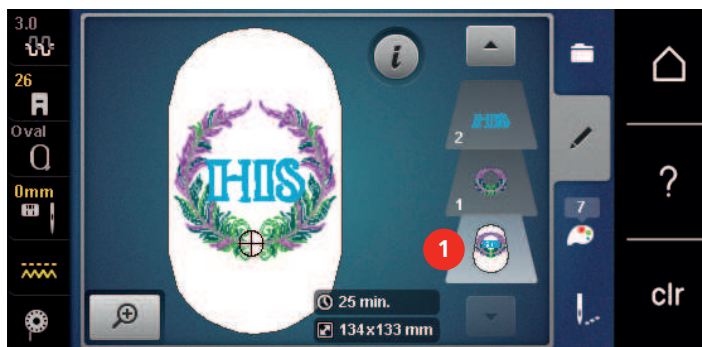


- > «決定»アイコンをタッチすると、選択した刺しゅうモチーフが削除されます。

コンビネーションを複製する

コンビネーションを複製すると、個々の刺しゅうモチーフを選択することができなくなります。

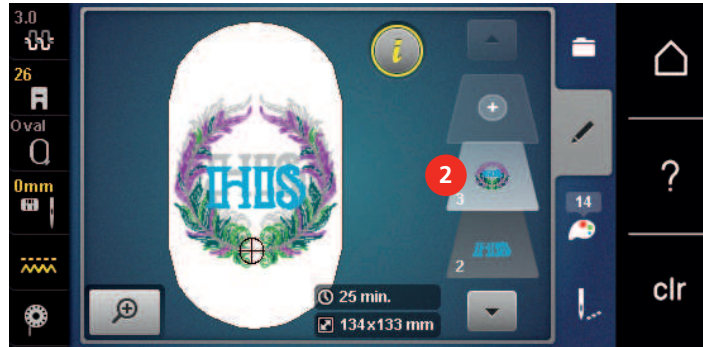
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうモチーフの追加»アイコンをタッチします。
- > 次の刺しゅうモチーフを選択します。
- > コンビネーション(1)を選択します。



- > «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «コピーする»アイコンをタッチします。



- コンビネーションが複製(2)されます。

15.7 文字列を作成する

刺しゅう文字一覧

刺しゅうモチーフ	名称
ABC	Swiss Block
<i>ABC</i>	Anniversary
АБВ	Russian Textbook
ABC	Rounded Sans

文字／文を作成する



文字列は常に単色で刺しゅうされます。一文字ごとおよび一単語ごとに色を変える場合には、それぞれ別々に選択して、刺しゅうをする範囲に配置しなくてはなりません。

文字列の位置は、刺しゅう枠内で自由に決めることができます。刺しゅうモチーフが刺しゅう可能な範囲の外に出ている場合には、ディスプレイ上の刺しゅう枠が赤い枠で囲まれます。この場合、刺しゅう枠選択で刺しゅうしたいモチーフに合った刺しゅう枠を探すことができます。一つの文字列が刺しゅう枠に入りきらない場合は、分けて文字列を作成することができます。以下に例をあげて説明します。



- > フォルダー«アルファベット»を選択します。
- > 書体を選択します。
- > 文字列«Made to»を入力します。
- > アイコン(1)をタッチ（標準設定）すると、大文字になります。
- > アイコン(2)をタッチすると、小文字になります。
- > アイコン(3)をタッチすると、数字および算術記号になります。

> アイコン(4)をタッチすると、特殊文字になります。



> キーボードの上のテキストアイコンをタッチすると、入力したメッセージが全削除されます。
 > «削除»アイコンをタッチすると、入力した文字が一つずつ削除されます。



> «決定»アイコンをタッチして、文字列を決定します。



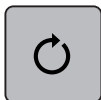
> «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。
 > 刺しゅう枠を選択します。
 > «刺しゅう枠の表示/選択»アイコンをもう一度タッチすると、編集モードに戻ります。

文字/文を編集する

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフを回転させる»アイコンをタッチします。



> «+90»アイコンをタッチすると、テキストが90°回転します。



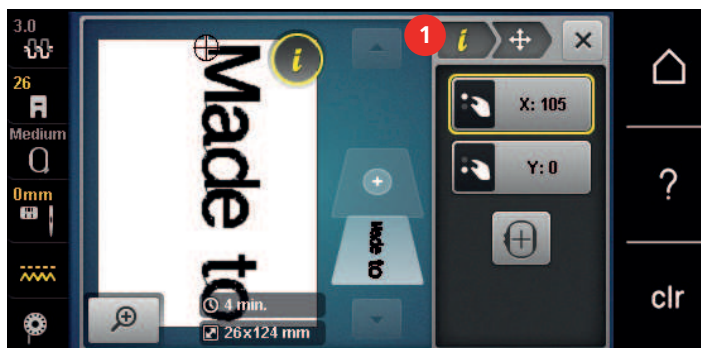
> «i»アイコン(1)をタッチします。

> «モチーフの移動»アイコンをタッチします。



> «多機能ボタン 上»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが横方向（水平）に移動します。

> «多機能ボタン 下»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが縦方向（垂直）に移動します。



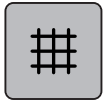
> «刺しゅうモチーフの追加»アイコンをタッチします。



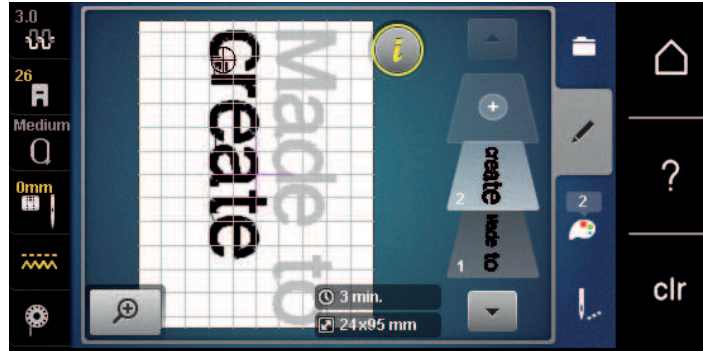
> テキスト«create»を入力して、同様に回転させます。



> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»アイコンをタッチします。

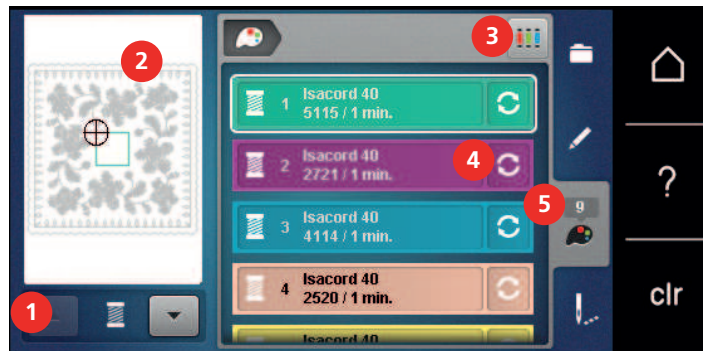


> «グリッド線の表示／非表示»アイコンをタッチすると、テキストの位置を正確に決めることができます。



15.8 刺しゅうモチーフの色を変更する

色の変更について

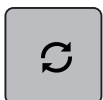


- | | | | |
|---|--------------|---|-----------|
| 1 | 刺しゅうモチーフの色 | 4 | 色／メーカーの変更 |
| 2 | 選択された色のプレビュー | 5 | 色情報 |
| 3 | 糸メーカーの指定 | | |

色の変更



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «色情報»アイコンをタッチします。



- > 変更したい色の横の«色／メーカーを変更する»アイコンをタッチします。
- > 色をもっと表示するには、ディスプレイ上で上下にスワイプします。



- > 色番号の入力で色を選択するには、「番号で色を選択»アイコンをタッチします。
- > 目的の色の番号を入力します。
 - 色アイコンが左に表示されます。
- > 色の選択を確定するには、左に表示された色アイコンをタッチします。

糸メーカーを変更する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «色情報»アイコンをタッチします。



- > «色／メーカーを変更する»アイコンをタッチします。



- > ディスプレイ上の«スクロール 左»および«スクロール 右»アイコンをタッチして、その他の糸メーカーを表示します。



- > «糸メーカーの指定»アイコンをタッチします。
 - 選択された刺しゅうモチーフの糸の色が、指定した糸メーカーに変更されます。

15.9 刺しゅうモチーフを刺しゅうする

刺しゅうメニュー一覧



- | | | | |
|---|--------------------|---|----------------------|
| 1 | しつけ縫い | 5 | 複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ |
| 2 | 刺しゅう枠の移動 | 6 | 刺しゅうスピード (スクロールで表示) |
| 3 | 糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する | 7 | 色交換を少なくする (スクロールで表示) |
| 4 | つなぎステッチを切る | 8 | 色表示 |

しつけ縫いステッチを追加する

刺しゅう枠または刺しゅうモチーフに沿って、しつけ縫いをします。しつけ縫いをすることで、布地と安定紙がよりしっかりと固定されます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



- > «しつけ縫い»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫いがされます。
- > «しつけ縫い»アイコンをもう一度タッチすると、刺しゅう枠に沿ってしつけ縫いがされます。
- > «しつけ縫い»アイコンを更にもう一度タッチすると、しつけ縫い機能がオフになります。

刺しゅう枠の移動

刺しゅうモチーフが大きくて、布地を刺しゅう枠に張り替えなければならない場合、刺しゅう枠を移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。





- > «刺しゅう枠の移動»アイコンをタッチします。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が横方向（水平）に動きます。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が縦方向（垂直）に動きます。



- > 履歴ナビゲーションで«刺しゅう»アイコンをタッチして、設定を決定します。

糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する

糸が切れた場合、刺しゅうの工程を確認する機能を使って、針の位置を直すことができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



- > «糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する»アイコンをタッチします。
 - ディスプレイの左側に刺しゅうモチーフの縮小図が表示され、右側には拡大図が表示されます。
- > タッチペン/指で、針を置きたい位置を縮小図上で選択します。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が少しずつ動きます。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が一度に大きく動きます。
 - 黄色い枠で囲まれたアイコン内に、刺しゅう工程のステッチ数が表示されます。



- > «ルーペ»アイコンをタッチして、ステッチを選択します。

つなぎステッチを切る

つなぎステッチを切る機能は標準設定でオンにされていて、つなぎステッチは自動的にカットされます。この機能をオフにした場合には、つなぎステッチは手で切る必要があります。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



- > 黄色い枠で囲まれた«つなぎステッチを切る»アイコンをタッチすると、機能がオフになります。
- > «つなぎステッチを切る»アイコンをもう一度タッチすると、機能がオンになります。

色換えの頻度を少なくする

刺しゅうモチーフが重複している場合色換えの頻度を少なくすることはできません。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



- > «色換えの頻度を少なくする»アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうモチーフ内の同じ色は一回にまとめられます。

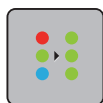
複数色の刺しゅうモチーフ オン/オフ

複数色の刺しゅうモチーフは単色でも刺しゅうすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。



> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



> «複数色の刺しゅうモチーフ オン/オフ»アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうモチーフが単色で刺しゅうされます。

色表示

刺しゅうモチーフの色はひとつずつ選択することができます。刺しゅう枠はまず初めに、アクティブになっている色のステッチを刺しゅうするように動きます。それぞれアクティブになっている色は、ひとつずつまたは連続して刺しゅうすることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



> «スクロール 下»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの次の色を選択します。



> «スクロール 上»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの前の色を選択します。

15.10 フリーアーム刺しゅう

袖などの筒状の布地に刺しゅうをする場合に、布地をフリーアームに通して刺しゅうすることを、フリーアーム刺しゅうといいます。フリーアーム刺しゅうは、袖やズボンの裾などの細い筒状になった部分によく使用します。



刺しゅう枠を取り付けるまたは取り外す前に左の待機ポジションに動かすことで、筒状の布地を簡単にフリーアームに通すことができます。「スタート/ストップ」ボタンを押すと、刺しゅう枠が再び刺しゅうをする位置に戻ります。

下糸を交換する際に、刺しゅう枠を取り外す必要があるので、下糸はできるだけいっぱい巻かれたものを使用してください。

布地の筒がとても細い場合、刺しゅうアームの動きが制限されたり、阻害されたりすることがあります。刺しゅう枠が刺しゅう中に前後に十分に動くことを確認してください。刺しゅうアームの動きが阻害されると、刺しゅうモチーフが歪んだり、布地を傷つける恐れがあります。

刺しゅうアームの動きを確認する

> ミシン上で刺しゅうモチーフを呼び出し、編集します。

> 刺しゅうモチーフの位置、大きさを布地にマーキングします。

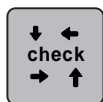
> できる限り小さな刺しゅう枠を選択します。

> 布地に刺しゅう安定紙の種類によってそれぞれの方法で付け、刺しゅう枠に張ります。

> 筒状の布地をゆっくりとミシンのフリーアームに通し、刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。

> 必要であれば、刺しゅうモチーフの位置を修正します。

> 刺しゅう枠を前後に動かし、刺しゅうをしたいモチーフの大きさに対して、十分に動くことを確認します。



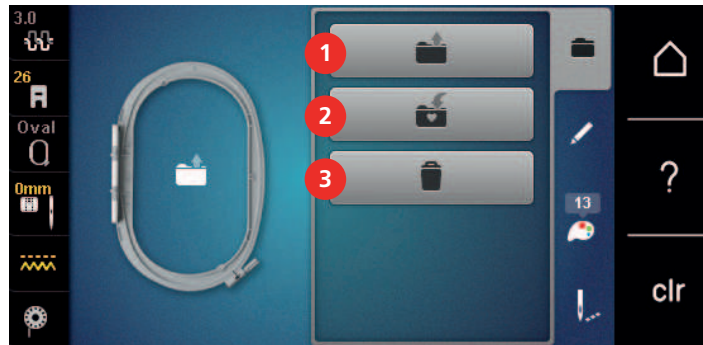
> «刺しゅうモチーフの大きさを確認する»アイコンをタッチします。

> 刺しゅうモチーフの大きさを確認したら、刺しゅうを始めます。

- 刺しゅうについて、適した材料について、およびミシンの刺しゅう設定についての詳しい説明は「チュートリアル」の刺しゅうテクニック->刺しゅうをご覧ください。

15.11 刺しゅうモチーフの管理

刺しゅうモチーフの管理について



- | | | | |
|---|---------------|---|----|
| 1 | 刺しゅうモチーフを読み込む | 3 | 消去 |
| 2 | 刺しゅうモチーフの保存 | | |

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する

ファイル《刺しゅうモチーフの保存》には、お気に入りの刺しゅうモチーフおよび編集した刺しゅうモチーフを保存することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
- > 《選択》アイコンをタッチします。



- > 《刺しゅうモチーフの保存》アイコンをタッチします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲われます。
 - 《刺しゅう機》アイコンがアクティブになります。



- > 《決定》アイコンをタッチします。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
- > 《選択》アイコンをタッチします。



- > 《刺しゅうモチーフの保存》アイコンをタッチします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲われます。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > 《USBメモリー》アイコンをタッチします。



- > 《決定》アイコンをタッチします。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。



> 「選択」アイコンをタッチします。



> 「刺しゅうモチーフの保存」アイコンをタッチします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。



- 「刺しゅう機」アイコンがアクティブになります。

> 上書きする刺しゅうモチーフを選択します。



> 「決定」アイコンをタッチします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

> 刺しゅうモチーフを選択します。

> 刺しゅうモチーフを編集します。

> 「選択」アイコンをタッチします。



> 「刺しゅうモチーフの保存」アイコンをタッチします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。

> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> 「USBメモリー」アイコンをタッチします。

> 上書きする刺しゅうモチーフを選択します。



> 「決定」アイコンをタッチします。

ステッチパターンを取り込む

ソーイングモードのステッチパターンまたはステッチパターンのコンビネーションを、刺しゅう機に取り込むことができます。この機能を使用することで、例えばボーダーパターンをすばやく、簡単に作成でき、刺しゅうモチーフとしてフォルダー「マイデザイン」に保存できます。



> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「ソーイングモード」アイコンをタッチします。

> ステッチパターンを選択します。



> 「ホーム」アイコンをタッチします。



> 「刺しゅうモード」アイコンをタッチします。

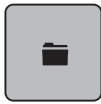
- ステッチパターンが自動的にフォルダー「マイデザイン」に保存されます。



> フォルダー「マイデザイン」を選択します。

> 刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す



> «選択»アイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフを呼び出す»アイコンをタッチします。



> フォルダー«マイデザイン»を選択します。
> 刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す



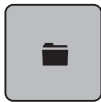
> «選択»アイコンをタッチします。
> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «USBメモリー»アイコンをタッチします。
> マイデザインを選択します。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する

ユーザーメモリーに保存した刺しゅうモチーフは、ひとつずつ消去することができます。



> «選択»アイコンをタッチします。



> «消去»アイコンをタッチします。



– «刺しゅう機»アイコンがアクティブになります。

> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»アイコンをタッチします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する



> «選択»アイコンをタッチします。



> «消去»アイコンをタッチします。
> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «USBメモリー»アイコンをタッチします。
> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»アイコンをタッチします。

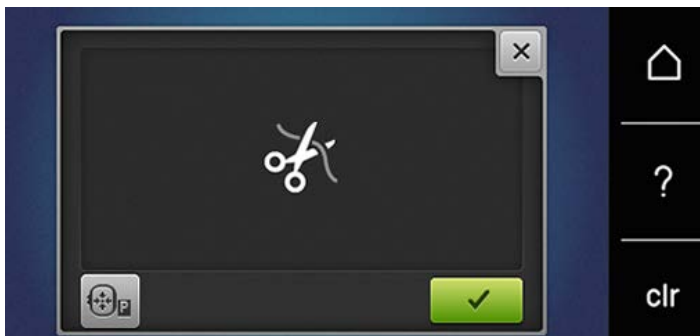
16 刺しゅうをする

16.1 «スタート/ストップ»ボタンを使って刺しゅうをする

停電などの場合、刺しゅうプロセスが中断されます。ミシンを再度起動すると、刺しゅう機が自動的に最後に刺しゅうをした位置に動きます。



- > «スタート/ストップ»ボタンを、刺しゅう機が動き出すまで長押しします。
 - ミシンは7針程度を縫った後、停止します。
- > 刺しゅう押えを上げます。
- > ディスプレイ表示に従って下糸を切り、「OK」をタッチします。



- > 刺しゅう押えを下げます。
- > «スタート/ストップ»ボタンを押して、刺しゅうを続けます。

16.2 刺しゅうスピードを速くする

刺しゅうの仕上がりを最適にするためには、刺しゅうをする位置によって、刺しゅうスピードを遅くします。刺しゅうスピードは、最適速度と最高速度から選択することができます。標準設定は最適速度です。最高速度を選択した場合、刺しゅうモチーフの質が多少落ちることがありますので、ご注意ください。

ミシンの電源を入れ直すと、刺しゅうスピードは最適速度に設定されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフを選択します。



- > «刺しゅうスピード»アイコンをタッチします。
 - 刺しゅうスピードが最高速度に設定されます。
- > «刺しゅうスピード»アイコンをもう一度タッチします。
 - 刺しゅうスピードが最適速度に設定されます。

16.3 上糸調子を設定する

上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン/セラロン100/2（メトラー社）です。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。これによって、縫うまたは刺しゅうするものと希望のステッチおよび刺しゅうモチーフに合わせて、上糸調子を個々に調整することが必要になります。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンと全ての刺しゅうモチーフに影響します。ソーイングモードの(参照ページ: 45)および刺しゅうモードの(参照ページ: 47)について、恒久的な上糸調子の変更はセットアッププログラムで行うことができます。

前提条件：

- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。



- > 「上糸調子」アイコンをタッチします。
- > 上糸調子を強くまたは弱くするには、タッチペンか指でスライダーを動かします。



- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチします。
- > 左側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、**セットアッププログラム**での設定が標準設定に戻ります。

16.4 フットコントローラーを使って刺しゅうをする

フットコントローラーを使った刺しゅうは、小さな部分を刺しゅうするとき便利です。フットコントローラーで刺しゅうをする場合には、常にフットコントローラーを踏んだ状態にしておきます。

- > フットコントローラーを踏み込んで、刺しゅうを始めます。

17 付記

17.1 お手入れとクリーニング

ディスプレイを掃除する

- > ディスプレイは電源をオフにした状態で、柔らかく、軽く濡らしたマイクロファイバーの布で拭きます。

送り歯を掃除する

針板の下にたまった糸くずは、時々取り除くようにします。



注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 押え金と針を取り外します。
- > «送り歯 上/下»ボタンを押して、送り歯を下げます。



- > 針板を取り外します。
- > 送り歯をブラシで掃除します。

釜を掃除する



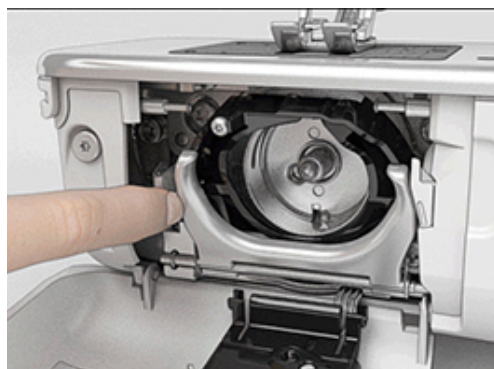
注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

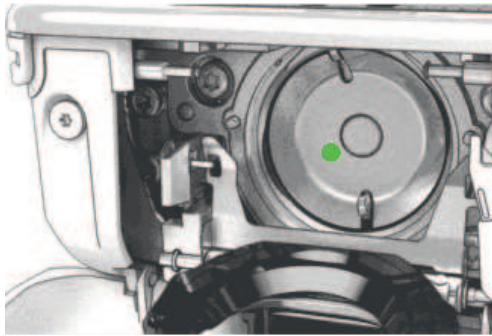
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 釜カバーを開けます。
- > ポビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。

- > 釜を外します。



- > ブラシで釜内部を掃除します；先の尖った金属などは使用しないでください。
- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。

釜に注油をする



注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

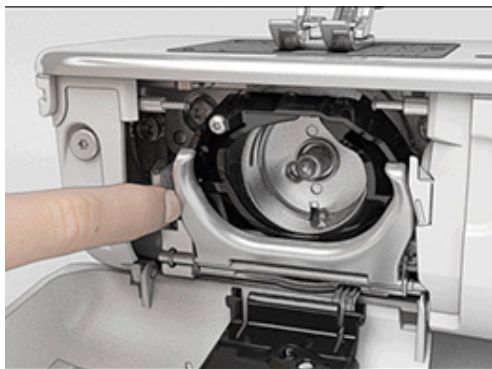
注意

釜に注油をする

注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。

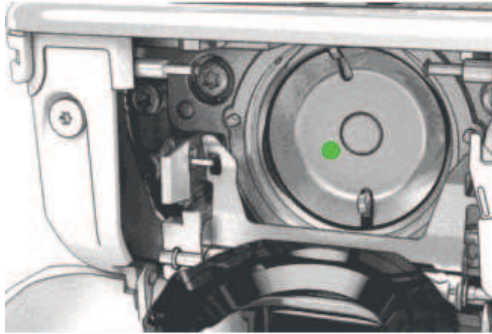
- > 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング／刺しゅうをします。

- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。

- > 釜を外します。



- > 釜のレール部分にベルニナオイルを一滴注します。



- > フェルトが湿るように、ベルニナオイルを二つの油溜りに一滴ずつ注します。赤い印のついた釜軸にはオイルがつかないようにします。



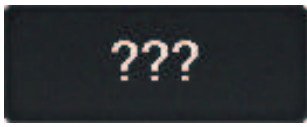


- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ポビンケースを取り付けます。

トラブル	原因	解決方法
上糸が切れる	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	上糸調子が強すぎる。	> 上糸調子を緩くします。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	針板の針穴周りまたは釜の剣先が傷ついている。	> ベルニナ正規販売代理店に持ち込み、修理を依頼します。 > 針板を交換します。
糸が天秤に引っかかっている。	> 天秤カバー(1)を左にスライドさせて、取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 天秤カバーの4つの突起部をそれぞれの穴に合わせ、天秤カバーを右にスライドさせます。	
下糸が切れる	ポピンケースが傷ついている。	> ポピンケースを交換します。
	針板の針穴周りに傷がついている。	> ベルニナ正規販売代理店に持ち込み、修理を依頼します。 > 針板を交換します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
	厚地の布地がずれる。	> ジーンズ押えNo. 8などの、厚地に適した押え金を使用します。 > 布地の厚くなった部分を縫う際に、高さ調節板を使用します。
	糸が絡まる。	> 品質の良い糸を使用します。
振り幅が選択できない	選択した針と針板は併用できません。	> 針を交換します。 > 針板を交換します。
ソーイングスピードが遅い	室温が適切でない。	> 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。
	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでスピードを調節します。 > スピードコントローラーを調節します。



トラブル	原因	解決方法
ミシンが動かない	室温が適切でない。	<ul style="list-style-type: none"> > 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。 > ミシンの接続コードを確認し、電源を入れます。
	ミシンが故障している。	> ベルニナ販売代理店にお問い合わせください。
ソーイングライトとフリーアームのライトが点灯しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	ライトが故障している。	> ベルニナ販売代理店にお問い合わせください。
上糸センサーが機能しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	上糸センサーが故障している。	> ベルニナ販売代理店にお問い合わせください。
ソフトウェアアップデートのエラー	USBメモリーが認識されない。	> ベルニナUSBメモリーを使用します。
	アップデート処理が中断され、ディスプレイに砂時計が表示されたままになる。	<ul style="list-style-type: none"> > USBメモリーを取り外します。 > ミシンの電源を切ります。 > ミシンの電源を入れます。 > ディスプレイの指示に従います。
	アップデートデータが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> > 圧縮(ZIP)ファイルを解凍します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍します。
BSR押え金 #42 が認識されません	レンズが汚れています。	> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。
	BSRケーブルが正しく差し込まれていません。	> BSRプラグを垂直に、カチッと音がするまで差し込みます。

17.3 エラー表示

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	ステッチ番号が認識されない。	> 番号を確認して入れ直します。
	コンビネーションモードではこのステッチパターンの選択ができない。	> 他のステッチパターンを使用します。
	送り歯が下がっていない。	> «送り歯 上/下»ボタンを押して、送り歯を下げます。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	<p>選択した針と針板は併用できません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 針を交換します。 > 針板を交換します。
	<p>針が一番上まで上がっていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > はずみ車で針が一番上まで動かします。
	<p>上糸がなくなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 糸を掛けなおします。
	<p>上糸が切れた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 糸を掛けなおします。
	<p>モーターが動かない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > はずみ車を時計回りに回し、針が一番上まで動かします。 > 針板を取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 釜を掃除します。 > 釜をはずして、釜の裏側の磁石部分に折れた針などが付いていないか確認します。
	<p>振動などにより、ミシンと刺しゅう機の接続が中断された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンと刺しゅう機が安定した平らな場所に置かれているか、確認します。 > 刺しゅう機をミシンに接続します。
	<p>針の位置が刺しゅう枠の中心からずれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅう枠を調整します。
	<p>刺しゅう機が取り付けられていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅう機をミシンに接続します。 > ベルニナ正規販売代理店にミシンのチェックを依頼します。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	<p>刺しゅう枠が取り付けられていない。</p>	<p>> 刺しゅう枠を取り付けます。</p>
	<p>刺しゅう枠を取り付けます。</p>	<p>> 刺しゅう枠を取り外します。</p>
	<p>刺しゅう枠が動く。</p>	<p>> «決定»アイコンをタッチします。</p>
	<p>メガフープの位置が上でない。</p>	<p>> メガフープの位置を上 にします。</p>
	<p>メガフープの位置が中央でない。</p>	<p>> メガフープの位置を中央にします。</p>
	<p>メガフープの位置が下でない。</p>	<p>> メガフープの位置を下 にします。</p>
	<p>刺しゅうモチーフの一部が刺しゅう枠からはみ出ている。</p>	<p>> 刺しゅうモチーフの位置を変えて、刺しゅうをし直します。</p>

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	<p>刺しゅうモチーフが大きすぎる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅうモチーフのサイズを小さくします。 > 大きな刺しゅう枠を取り付けます。
<p>ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に空き容量が不足しています。</p>	<p>ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に十分な空き容量がありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を使用しているか確認します。 > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）のデータを削除します。
<p>ユーザーデータがベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に見つかりません。</p>	<p>復元するユーザーデータはベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）にありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > データと設定がベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に保存されているか確認します。
<p>個人データの復元に失敗しました。</p>	<p>ソフトウェアのアップデートは正常に終了したがユーザーデータの復元に失敗した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > データと設定がベルニナUSBメモリーに保存されているか確認します。 > バックアップされたデータをミシンに転送します。
<p>ベルニナUSBメモリーが接続されていません。自動アップデートの最中は常に同じベルニナUSBメモリーが接続されていることを確認してください。</p>	<p>ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）が接続されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 十分な容量のあるベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を使用します。
<p>ソフトウェアのアップデートに失敗しました。</p>	<p>新しいバージョンのソフトウェアがUSBメモリーに見つからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 圧縮(ZIP)データを解凍したか確認します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍したか、確認します。 > ソフトウェアの更新をします。
 	<p>ミシンのクリーニング／注油が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンを掃除します。 > 釜に注油をします。 <p>注油についての注意事項：注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> > 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング／刺しゅうをします。
<p>糸くず入れの自動糸切りを掃除する必要があります。</p>	<p>糸くず入れを掃除する必要があります。このメッセージは、切断がサイクル1000回に達すると、ミシンに電源を入れるたびに表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > «決定»アイコンをタッチします。 <ul style="list-style-type: none"> - «糸くず入れの掃除」が起動されます。 > ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。 <ul style="list-style-type: none"> - 切断サイクルのカウンターはリセットされます。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
定期点検の時期になりました。 お近くのベルニナ正規販売代理 店にご相談ください。	<p>ミシンの点検が必要である。前回の点検から一定の期間が経つと、お知らせの表示が出ます。</p> <p>重要: ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使い頂けます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。メンテナンス作業のための費用範囲は国内で規制されています。お近くのベルニナ正規販売代理店、またはサービスショップにご相談ください。</p>	<p>> ベルニナ販売代理店にお問い合わせください。</p> <p>> お知らせ表示は「ESC」アイコンを押すと、一時的に消えます。</p> <p>3回消去した後は、再び次の点検までの一定の期間が経つまで、お知らせは表示されません。</p>

17.4 収納と処分

ミシンを収納する

ミシンは元の梱包に収納することをお勧めします。ミシンを寒い場所で保管した場合、使用する1時間前に常温の部屋に置いておきます。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > ミシンは屋外で保管しないでください。
- > ミシンが気候の影響を受けないように保管してください。

ミシンを処分する

- > ミシンのクリーニングをします。
- > それぞれのパーツは材質ごとに分別して、お住まいの市町村のルールに従って処分してください。

17.5 機械仕様

名目	数値	単位
布地の最大厚さ	10,5 (0,41)	mm (inch)
ソーイングライト	12から16	LED
最高速度	1000	ステッチ/分
サイズ (糸立て棒を除く、幅×奥行×高さ)	465 × 330 × 200 (18.30 × 12.99 × 7.87)	mm (inch)
重量	11,5	kg
消費電力	90	ワット
電圧	100 – 240	ボルト
感電保護クラス	II	

付記

名目	数値	単位
製造年月日：«コード»の下のネームプレートに表示されています。		



18 パターンについて

18.1 ステッチパターン一覧

実用縫い

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	19	20	22	23
24	25	26	29	30	32	33	34			

ボタンホール

51	52	53	54	55	56	57	59	63	64	66
69	60	61	62							

飾りステッチ

自然

101	102	103	104	106	107	108	109	110	111	112
113	114	115	116	117	118	119	122	123	124	125
129	130	131	132	137	138	139	140	141	142	143
144	145	150	152	153	154	155	156	167	168	169

170										

クロスステッチ

301	302	303	304	305	306	307	308	309	319	320
321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331
332	333	334	335	336	337	338	339			

サテンステッチ

401	402	405	406	407	408	409	410	412	413	414
415	416	417	418	419	421	422	423	424	425	426
427	428	429	433	434	453	454	455	456	465	466

幾何学模様ステッチ

601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611
612	613	614	615	616	618	619	620	621	622	623
624	625	626	627	628	629	630	631	633	634	635

637	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648
649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	660
661	662	663	665	666						

ホワイトワーク

701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711
712	713	714	715	716	717	721	722	723	724	725
726	727	729	730	731	732	733	734	735	736	737
739	741	742	743	744	745	748	749	750	751	752
770	771	772	773	774	775	776	777	778		

キッズ

901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911
912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922
924	926	928	935	938	939	940	944	945	946	948

950	954	961								

キルトステッチ

1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311
1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322
1323	1324	1325	1326	1327	1329	1330	1331	1332	1333	1334
1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1344	1345	

18.2 刺しゅうモチーフ一覧


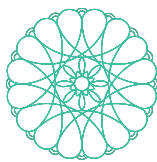
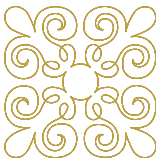
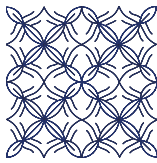



刺しゅうモチーフを編集する

あなたの創造力を自由に働かせてください。多彩な刺しゅうモチーフが搭載されています。



刺しゅうモチーフ番号の下に次のピクトグラムのひとつがある場合は、www.bernina.com/specialeffectsに詳細情報があります。






	下地のないレース刺しゅう		パンチワークデザイン (モチーフ)
	アイレット刺しゅう		コード刺しゅう
	フリンジ刺しゅう		刺しゅう枠を使った作品
	アップリケ		立体文字
	カットワークデザイン (モチーフ)		キルトティンダ
	ペイントワークデザイン (モチーフ)		トラブント
	クリスタルワークデザイン (モチーフ)		

キルトモチーフ









No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
BD804	 ■	122 x 123 4.80 x 4.84	12499-06	 ■	101 x 101 3.98 x 3.98
12416-04	 ■	89 x 89 3.50 x 3.50	NZ498	 ■	89 x 88 3.50 x 3.50
12380-22	 ■	110 x 60 4.33 x 2.36	BD299	 ■	94 x 95 3.70 x 3.74
BD501	 ■	63 x 61 2.48 x 2.40			

飾りステッチ













No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
NB251	 ■ ■ ■ ■	71 x 103 2.80 x 4.05	NB826-48	 ■ ■ ■ ■	134 x 133 5.28 x 5.20

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
80090-06 	 	83 x 37 3.27 x 1.46	21021-04	 	123 x 150 4.84 x 5.91
















花

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
21009-21	 	65 x 107 2.52 x 4.21	21027-14	 	120 x 120 4.72 x 4.72
21002-02	 	109 x 160 4.30 x 6.30	FQ733	 	66 x 66 2.60 x 2.60













キッズ


No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
BE790313 	 	99 x 102 3.86 x 4.02	CK867 	 <i>Remember Always Love</i> 	122 x 132 4.80 x 5.20
BE790309 	 <i>DOG</i> 	87 x 149 3.43 x 5.87	BE790310 	 <i>I LOVE YOU</i> 	138 x 136 5.39 x 5.35

ホビーとスポーツ


No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
80085-25 	 	134 x 166 5.28 x 6.54	82014-28 	 	141 x 117 5.55 x 4.61
12611-08 	 	80 x 119 3.15 x 4.69	12611-18 	 	130 x 157 5.12 x 6.18
12472-01 	 	137 x 141 5.39 x 5.55			

動物





No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
WP415-48 	 	132 x 148 5.20 x 5.83	CM213-48 	 	58 x 102 2.28 x 4.02
CM216-48 	 	47 x 67 1.85 x 2.64	NA248 	 	77 x 73 3.03 x 2.87






No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
CM220		71 x 71 2.80 x 2.80			

ボーダーとレース


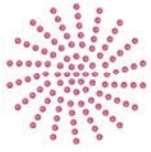









No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ > mm > inch
21021-25 		33 x 71 1.30 x 2.80	12659-06 		36 x 59 1.42 x 2.32
21002-21		21 x 151 0.83 x 5.95	FB436		29 x 132 1.20 x 5.20

フレーム

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
12611-27 		136 x 137 5.35 x 5.39	12649-05 		91 x 88 3.58 x 3.47

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
32078-04 	 	123 x 173 4.84 x 6.81	NZ195	 	76 x 76 2.99 x 2.99

特殊効果のあるデザイン

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 高さ > mm > inch
DW11 		70 x 71 2.76 x 2.80	12448-09_ PW 	 	121 x 161 4.80 x 6.30
21022-13_ DW  	 	106 x 192 4.13 x 7.56	DW05 		105 x 94 4.13 x 3.70

と

トラブルシューティング	155
-------------	-----

ひ

ピントック	92
-------	----

ふ

ファームウェアのバージョンの確認	54
フットコントローラーを接続する	27

へ

ヘルプを呼び出す	62
----------	----

ほ

ボタンホール	97
ボタンホール押え No. 3A のキャリブレーション	58

み

ミシンのファームウェアの更新	58
ミシンを収納する	161
ミシンを処分する	161



in partnership
with

Mettler

BERNINA International AG | CH-8266 Steckborn Switzerland | www.bernina.com | © Copyright by BERNINA International AG

1028855.10A.10
2019-09 JA

made to create **BERNINA**